様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：総務課 担当者名：今井、西川、小松、田中、泉

（単位：千円）

	28年度　A	27年度　B	増減(A−B)
予　算　額	1,802,651	1,174,089	628,562

（単位：千円）

【事業内容】	計画額
1　パスモ2016年施策	[redacted]

中期経営計画	お客様に向けて（11）他鉄道路線との連絡運輸の拡大

（1　事業目的・内容）

【事業目的】

毎年、ICカード「PASMO」の機能改善を他事業者と統一してシステム改善を行っています。

【内容】

パスモではお客様の利便性向上として、PASMOの利用範囲拡大やサービス向上に取り組んでおり、2016年度は以下の項目について対応する予定をしております。

これに伴って当局に設置しているパスモ対応機器のソフトウェア改造作業を行います。

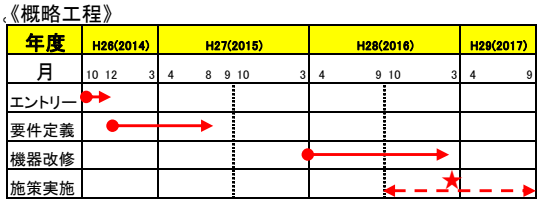
施策項目	内容
他鉄道路線との連絡運輸の拡大	他鉄道への定期券発売範囲を拡大する。 （券売機、定発）
運賃改定	消費税改定以外の制度変更による運賃を変更する。 （券売機、定発）
Suica利用範囲の拡大	利用範囲拡大に伴い、駅名を表示・履歴印字に追加する。 （券売機、精算機、チャージ機、改札機、窓処、定発、運賃検索機）
ICカードシステムへの新規参入	新規にバス事業者が追加となるため、履歴印字・表示処理の変更を行う。 （券売機、チャージ機、窓処、定発、運賃検索機）
駅名・社名変更	駅名・社名が変更されるため画面表示・履歴印字の変更をする。 （券売機、チャージ機、窓処、定発、運賃検索機）
他エリアとの相互利用	ICカードシステム未導入業者の新規参入の変更を行う。 （券売機、チャージ機、窓処、定発、運賃検索機）

【作業完了予定】

平成29年3月

【PASMO施策の実施工程】

大規模改修を伴う施策については、翌々年度の10月から次の年度の9月までに実施予定の施策、それ以外の施策については、翌々年度に実施予定の施策をエントリーし、毎年12月に集約する。《概略工程》



（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

☐ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：総務課 担当者名：今井、西川、小松、田中、泉

【事業内容】　計画額

2　消費税率改定に伴う運賃改定

中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

【事業目的】

消費税率の引き上げにあわせ、地下鉄運賃について、適正な消費税を転嫁します。

【内容】

消費税率改定に伴う運賃改定に伴い、普通乗車券の上限金額を変更し、運賃改定を行います。
また、定期券運賃、各種回数券、1日乗車券などの算出方法についてもあわせて改定を行います。

【作業完了予定】

平成29年3月

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

【事業内容】　計画額

3　磁気・ICカード乗車券対応券売機購入

中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

【事業目的】

・お客様の利便性向上
・駅係員の窓口業務軽減

【内容】

ブルーラインの駅には湘南台開業（平成11年）やパスネット導入（平成12年）に設置した券売機が現在29台を設置しております。
これらの機器は、設置後16年以上が経過し、保守部品を確保できないことから、機器を稼働状況に保つことが、大変困難な状況となっております。
また、平成26年度末にパスネットの券売機利用サービスも終了したことから、順次、IC対応機に切り替えを行い、磁気専用の券売機は撤去してまいります。

【設備台数】　平成27年12月末現在

機種	ＩＣ対応機		磁気専用	計
ブルーライン	68	18	29	115
グリーンライン	22	0	0	22
合計	90	18	29	137

【更新計画】

更新年度	H26	H27	H28	H29	H30	H31	計
更新台数	6	13	10	90			119

【機能改善内容】

1日乗車券複数枚発券、磁気乗車券の領収書、IC定期券の誤発行払戻機能など

【機器更新完了予定】

平成29年3月

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

■ 有
□ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：総務課 担当者名：今井、西川、小松、田中、泉

【 事　業　内　容 】	計　画　額
4　磁気・ICカード乗車券対応精算機購入	[redacted]

中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

【事業目的】

・お客様対応機器の機能維持
・駅係員の窓口業務軽減

【内容】

あざみ野駅は、BLの始着駅で、朝・夕のラッシュ時には多くのお客様がご利用されております。
精算機は、電車を降車されたお客様が一斉に利用される場合があり、現在1台設置のため、ラッシュ時には並ばれる状態となります。
あざみ野駅より要望があり、お客様の利便性向上のため、1台増設いたします。

【機器設置台数】

1台

【機器更新完了予定】

平成29年3月

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

■ 有
□ 無

【 事　業　内　容 】	計　画　額
5　磁気・ICカード乗車券対応定期券発行機購入	[redacted]

中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

【事業目的】

・㈱パスモから義務づけられた「PASMOモジュールの搭載機」への更新
・㈱パスモから義務づけられたセキュリティ向上施策（通信データの暗号化や認証、サイバネ認証取得機器の使用）の実施
・お客様対応機器の機能維持
・入出金機をを組み込むことにより、お客様との現金受け渡し間違えのなくす
・駅係員の窓口業務軽減
・ICカードへの処理の高速化

【内容】

現在、ブルーラインにはIC導入時及びグリンラインには開業時に設置した定期券発行機（IC再発行機）を設置しております。
この定期券発行機器は老朽化が進むとともに、㈱パスモから対応期限（H32.3）までに全駅務機器への機器改修コストの抑制を行うPASMOモジュールの搭載とセキュリティ向上施策（通信データの暗号化や認証、サイバネ認証取得機器の使用）の実施が義務づけられております。
これにより、更新期限までにほとんどすべての機器が更新対象となるため、H28～31の4年間で平準化を図りながら更新を行います。

【機器設置台数】

48台（40駅＋上大岡SC・横浜SC・センター南SC　2台、新横浜　1台、駅務機器教習室　1台）
上大岡SCについては、現在1台設置としておりますが、繁忙期や機器故障を考慮し、1台追加設置いたします。

【機能改善内容】

・入出金機の取り付け

【機器更新完了予定】

平成29年3月

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

■ 有
□ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：総務課 担当者名：今井、西川、小松、田中、泉

【　事　業　内　容　】	計　画　額
6　高速ネットワーク機器更新	[redacted]
中期経営計画　－	

（1　事業目的・内容）

【事業目的】

・機器障害時対応

・現行機能維持

【内容】

各駅に設置した自動券売機、自動精算機、チャージ機、自動改札機、窓口処理機、定期券発行機、IC再発行機などの駅務機器データや売上は高速ネットワーク機器を介して集計しています。

ブルーラインに設置したネットワーク機器については平成25年度に機器更新を終えておりますが、グリーンラインに設置した機器については開業時に設置したもので、老朽化により故障件数が増加しています。

機器故障時には、グリーンライン全駅もしくは当該駅の駅務機器のICオンライン業務停止も考えられることから、機器の更新を行います。

なお、通信機器の故障は、故障時の影響範囲が大きいことから、5年～7年程度の周期で計画的に更新します。

ブルーライン：平成17年度設置　25年度更新（7年で更新）

グリーンライン：平成19年度末設置　28年度更新予定（7年で更新）

【機器設置台数】

・リング代表L3SW（北山田）　2台

・ローカルL3SW（中山駅、川和町駅、都筑ふれあいの丘駅、東山田駅、高田駅、日吉本町駅、日吉駅、川和車両基地、）　16台

・駅務機器データ用L2SW（中山駅、川和町駅、都筑ふれあいの丘駅、東山田駅、高田駅、日吉本町駅、日吉駅）　8台

・YCAN用L2SW（中山駅、川和町駅、都筑ふれあいの丘駅、東山田駅、高田駅、日吉本町駅、日吉駅、川和車両基地）　10台

・YCAN用川和車両基地内NW　1式

・UPS　9台

【機能改善内容】

・仮想ネットワークの構築

・優先制御・帯域制御の構築

【機器更新完了予定】

平成29年3月

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有

■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：総務課 担当者名：今井、西川、小松、田中、泉

【事業内容】　計画額

7　改札機IC処理ソフトウェア利用許諾契約に基づく個別改訂版ソフトウェアの支払契約

中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

【事業目的】

自動改札機でのPASMO、Suicaの利用環境の維持

【内容】

自動改札機等における、首都圏でのICカードの相互利用サービスに必要となる制御プログラム、運賃判定ソフトウェア及び運賃データ等については、株式会社ICカード相互利用センターが提供しており、総合的な検証を行い、「誤収受」と「判定処理の共通化による不具合」などを防止しております。

毎年、実施されるソフト改修の機器台数分の利用許諾を契約します。

【機器設置台数】

自動改札機　224台

【改修内容】

平成19年度	東京都交通局日暮里・舎人ライナー、横浜市交通局グリーンライン開業などに伴う判定ソフトの改修
平成20年度	PASMO第2陣参入、京浜急行サイバネ振替、東京地下鉄副都心線開業などに伴う判定ソフトの改修
平成21年度	新駅開業（羽田空港国際線ﾀｰﾐﾅﾙ駅、羽田空港国際線ビル駅、横須賀線武蔵小杉）に伴う判定ソフトの改修
平成22年度	新駅開業（関東鉄道常総線ゆめみ野駅）、異常時改札機判定の改善、10年失効に伴う判定ソフトの改修
平成23年度	駅名変更（東武鉄道伊勢崎線）、世田谷線へのチャージ環境整備、新駅開業（JR東日本武蔵野線）に伴う判定ソフトの改修
平成24年度	東横線渋谷駅地下化対応、ラッチ形態変更、 ICカードシステムの新規導入対応に伴う判定ソフトの改修
平成25年度	運賃改定、Suica利用範囲の拡大（首都圏・仙台・新潟）に伴う判定ソフトの改修
平成26年度	運賃改定、Suica利用範囲の拡大（富士急行）、北陸新幹線開業に伴う対応、駅名変更に伴う判定ソフトの改修
平成27年度	Suica利用範囲の拡大（仙台エリア）、北海道新幹線開業に伴う対応、駅名変更に伴う判定ソフトの改修

【ソフトウェア更新予定】

平成28年2月

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

【事業内容】　計画額

8　人事給与システム

中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

平成23年度に更新した人事給与システムについて、法改正および人事給与制度改正等に伴うソフトウェア改修を実施します。

（2　前年度から変更・見直しした点）

過去の運用実績をもとに、改修見込みの見直しによる減

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

社会保障・税番号制度の対応を含む

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：総務課 担当者名：今井、西川、小松、田中、泉

【事　業　内　容】　計　画　額

9　財務会計システム

中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

平成22年度より稼働している財務会計システムについて、経理事務をより効率化するために、経営企画課等から要望が出た機能を追加するためのソフトウェア改修を実施します。

（2　前年度から変更・見直しした点）

過去の運用実績をもとに、改修見込みの見直しによる増

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

【事　業　内　容】　計　画　額

10　タブレット用システム開発

中期経営計画　地方公営企業としての責任と経営基盤の強化（9）業務用タブレット端末の活用

（1　事業目的・内容）

業務用タブレットをより活用するためのシステムを開発します。

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

高速鉄道部門に展開するため、要望のあった在線表示システム等を業務用タブレットでの使用を検討します。

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

【事　業　内　容】　計　画　額

11　事務改善システム機器更新

中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

平成22、23年度の導入から5年以上経過し、機器の耐用年数を超過していることから、システムの安定稼働のため機器を更新します。
また、旅費事務の軽減のため、旅費管理システムの開発をします。

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

■ 有
□ 無

【事　業　内　容】　計　画　額

12　テレビ会議

中期経営計画　地方公営企業としての責任と経営基盤の強化（9）業務用タブレット端末の活用

（1　事業目的・内容）

局内のパソコン、タブレットで使用できるテレビ会議を導入し、内線としても使用できるようにします。
現在は無料のソフトウェアを業務用タブレットで使用していますが、有料のソフトウェアを導入することで品質を担保し、機能を向上させます。

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

■ 有
□ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：総務課 担当者名：今井、西川、小松、田中、泉

【事業内容】	計画額
13 地下鉄後方業務支援システムの改修	[redacted]

中期経営計画

（1　事業目的・内容）

乗務管理システムでは乗務員の列車乗務時刻を詰所に表示しているが、出場時刻を遅延してしまわないように確認する端末を設置すると遅延時には警報を鳴動させる。

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

【事業内容】	計画額
14 多目的デジタル案内板	[redacted]

中期経営計画　お客様に向けて（7）ICTを活用したお客様への情報提供

（1　事業目的・内容）

多目的デジタル案内板は、市営交通の運行状況などをお客様にわかりやすく伝達する機器（デジタルサイネージ）です。
平成26年度に横浜駅に試行設置した案内板では、平常時は運行状況のほか、市営交通のPRやニュース、天気情報等の表示を行い、地下鉄の運行に支障が発生した場合には、その状況を分かりやすくお客様に表示してます。
平成28年度以降、他の主要駅に設置を開始します。

（2　前年度から変更・見直しした点）

事業費と年次計画を見直し

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：経営企画課 担当者名：鈴木

（単位：千円）

	28年度　A	27年度　B	増減(A−B)
予　算　額	1,000	1,000	0

（単位：千円）

【 事 業 内 容 】	計 画 額
1　自主企画事業支援制度	1,000

中期経営計画	地方公営企業としての責任と経営基盤の強化（14）組織風土改革

（1　事業目的・内容）

現場職員の声を事業に活かすため、職員の提案したアイデアをもとに、提案した職場に予算を割り当て、その職場が主体となって事業を実施する制度です。

【参考】 平成26年度の実施事業
- 改札口周辺の案内看板の整備、充実（上大岡駅）
- 駅事務室周辺の案内看板の整備、充実（上大岡駅）
- 駅広報ラックの整備（上大岡駅）→
- 分かりやすいエレベーター案内板の設置（戸塚駅）
- バス乗り場付近にベンチ設置（北山田駅）
- 駅構内のイベントスペースの有効活用（中山駅）
- 券売機つり銭取り忘れ防止シールの設置（全駅）
- 「センター試験」受験者向け記念乗車券の発売（新羽乗務管理所）
- 1号線変電所PHSアンテナの設置（上永谷保守管理所）
- 普通救命講習の受講（新羽保守管理所）
- 汎用のネットワークカメラを使用した架線の凍結（霜）監視システムの構築（川和保守管理所）
- バス車体後部パートラッピングの有効活用（浅間町営業所）
- 営業所近隣町内会へのバス時刻表配布（浅間町営業所）
- ヒヤリハット情報集の冊子作成と職員への配布（滝頭営業所）
- 乗務員教育のための死角体験セットの製作（本牧営業所）
- 地域と連携した事故防止啓発用看板の作成及び設置（本牧営業所）
- バス営業所操車係専用携帯電話の購入（本牧営業所）
- 構内事故防止に向けたセンサーライト設置（本牧営業所）
- イルミネーションバスとギャラリーバスのコラボレーション運行（磯子営業所）

（2　前年度から変更・見直しした点）

なし

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度 建設改良費 事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 事業開発課 担当者名: 小川・鬼塚

（単位:千円）

	28年度 A	27年度 B	増減(A−B)
予算額		31,141	

（単位:千円）

【事業内容】	計画額
1 トンネル設備保全のための地上権取得費	13,840
中期経営計画	

（1 事業目的・内容）

鉄道事業会計が保有する、地下鉄トンネル設備の保全のため、地上権設定補償金を土地所有者へ支出します。国有地の払い下げが発生した場合、購入者に対し地上権設定契約を締結し、地下鉄トンネルの設置供用に関する権利として、地上権を相手方から購入し、横浜市交通局の権利として登記する必要があります。

GL用地の公募売却候補となっている港北区日吉本町空地について、売却決定した場合、トンネル上部部分について地上権設定契約にかかる補償金を支出します。

また、市営地下鉄は国有地の地下を通過している部分が多く、当該国有地の払下げがあった場合に地上権設定登記を行うことができるように予算を計上します。

（2 前年度から変更・見直しした点）

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

（4 除却資産の有無）

□ 有
■ 無

（5 年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総額
上段:繰越(外数)						0
事業費	30,141	13,840	0	0	0	43,981
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 事業開発課 担当者名: 横田・宮田

（単位:千円）

【事業内容】	計画額
2 富士見が丘トンネル上部フェンス設置	[redacted]
中期経営計画	―

（1 事業目的・内容）
富士見が丘トンネル上部の有効活用に際し、敷地内を保守管理用地と貸付用地に区分する必要があります。そのため、保守管理用地との区画フェンス設置及び点検用出入口設置を行います。また、保守管理用地が法面に面しているため、安全対策として転落防止フェンスの設置を行います。

（2 前年度から変更・見直しした点）

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）
保守管理用車の駐車スペースが必要。また法面下部に下りられるようにくぐり戸をつけること。

（4 除却資産の有無）

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：営業・観光企画課 担当者名：瀬谷、柴田

（単位：千円）

	28年度　A	27年度　B	増減(A−B)
予　算　額		20,315	

（単位：千円）

【　事　業　内　容　】	計　画　額
1　広告管理システム改修	

中期経営計画	地方公営企業としての責任と経営基盤の強化（6）附帯事業収入の確保・増収対策

（1　事業目的・内容）

1　媒体管理機能改善

広告管理システムの管理上の種々の機能を改善します。

2　消費税改定対応

消費税改定に伴い、マスタ変更等の対応を行います。

（2　前年度から変更・見直しした点）

H27で更新したシステムに改修を実施します。

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 営業課(高速) 担当者名: 森兼、小高

(単位:千円)

	28年度 A	27年度 B	増減(A−B)
予算額	15,636	30,646	△ 15,010

(単位:千円)

【事業内容】	計画額
1 駅ベンチの設置	[redacted]

中期経営計画 お客様に向けて(18)分かりやすく、使いやすい駅の実現

(1 事業目的・内容)

お客様が快適に地下鉄駅を利用いただけるよう、駅構内にベンチを増設する。
現在、お客様満足度を調査するためのお客様アンケート用紙の全駅に設置及び朝の挨拶行動で直接お客様に配布し、回収しているが、ベンチを設置してほしいとの要望が多いことから、25年度よりベンチの増設を実施している。今年度も引き続き、お客様から要望の多い駅、既設置数、利用状況等を考慮し、ベンチの増設を行う。

年度	26年度	27年度予定	28年度予定	29年度予定	30年度予定	合計
設置台数	5台	10台	10台	10台	10台	40台

(2 前年度から変更・見直しした点)

特になし

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

外部評価(お客様アンケート)

(4 除却資産の有無)

□ 有
■ 無

(5 年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総額
上段:繰越(外数)						0
事業費	2,357	[redacted]				
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 営業課(高速) 担当者名: 森兼、小高

【事業内容】　計画額

2 デジタル無線機の配備

中期経営計画　ー

(1 事業目的・内容)

緊急時及び平時における駅職員間の情報伝達を円滑に行うためデジタル無線機を配備する。
現在、駅に配備されている鉄道電話(PHS)は同報通信ができないため、職員間の情報伝達に多くの時間を要しており、緊急時における円滑なお客様の案内や誘導に支障が生じることが懸念されるが、デジタル無線機は同報通信が可能であり、東日本大震災等でも有効活用された実績があることから、24年度以降順次、主要駅に配備を進める。

◇配備実績・計画　　単位:台

年度	配備先	基地局	無線機
24	横浜駅	1	8
25	新横浜駅	1	9
26	ー	−	−
27	あざみ野駅、上大岡駅、戸塚駅	3	20
28	関内駅、センター南駅、センター北駅	3	14

(2 前年度から変更・見直しした点)

特になし

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

25年度　現場予算措置要望　重点項目No.3

(4 除却資産の有無)

□ 有
■ 無

(5 年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総額
上段:繰越(外数)						0
事業費	2,946					
債務負担設定						0

【事業内容】　計画額

3 監視カメラの設置(駅構内)

中期経営計画　ー

(1 事業目的・内容)

現在、駅構内に設置している監視カメラの死角になっている場所を映像で確認できるよう、新たに監視カメラを設置する。
横浜7台、高島町2台設置予定。

(2 前年度から変更・見直しした点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

現場からの意見

(4 除却資産の有無)

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 営業課(高速) 担当者名: 森兼、小高

【事業内容】	計画額
4 電気給湯器の購入	[redacted]

中期経営計画　－

（1 事業目的・内容）

地下鉄各駅で使用している電気給湯器
故障による購入駅　（三ツ沢下町・蒔田・戸塚）
長期間使用による更新　（横浜・湘南台）

（2 前年度から変更・見直しした点）

特になし

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

駅で使用している電気給湯器故障、部品調達ができず修理不能のため

（4 除却資産の有無）

□ 有
■ 無

（5 年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総額
上段:繰越(外数)						0
事業費	737	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：運転課 担当者名：中村

（単位：千円）

	28年度　A	27年度　B	増減(A−B)
予　算　額	32,476	0	32,476

（単位：千円）

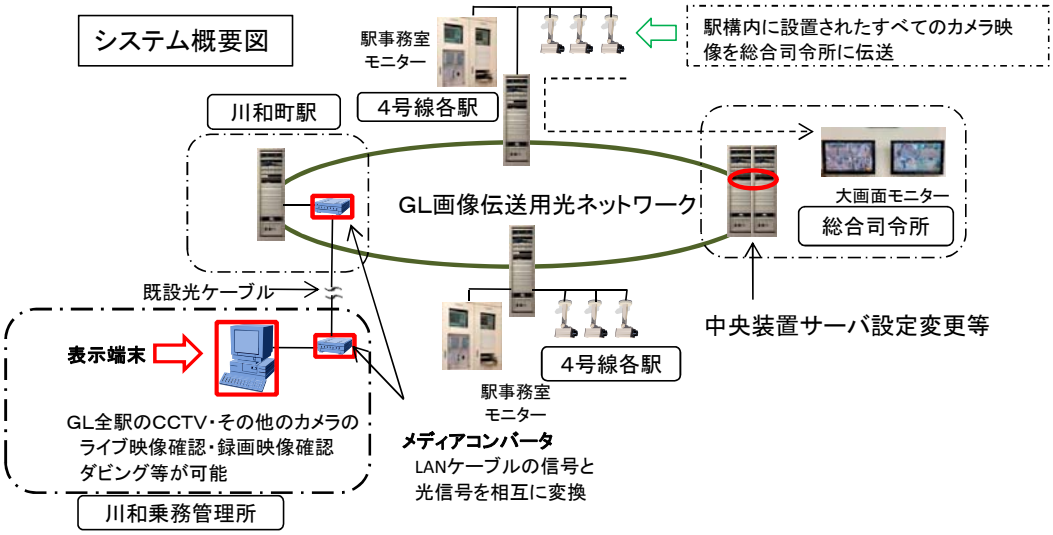
【 事 業 内 容 】	計 画 額
1　川和乗務管理所CCTV画像表示端末設置	

中期経営計画　―

（1　事業目的・内容）

異常時などに当該駅のCCTV画像が乗務管理所において確認できるよう、表示端末を設置します。

ブルーラインでは、各乗務管理所でCCTV画像が簡易的に確認できるようになっていますが、グリーンラインの場合は、CCTVもホーム監視画像伝送システムと一体となっているため、当該システムの端末を設置する必要があります。



（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：運転課 担当者名：中村

【事　業　内　容】	計　画　額
2　ダイヤ作成装置改修　駅務員向け標準時刻作成機能追加	[redacted]

中期経営計画	お客様に向けて(9)ブルーライン快速運転の実施・検証
中期経営計画	お客様に向けて(10)グリーンライン輸送力増強の検討

(1　事業目的・内容)

現在作成可能な標準時刻表には実際には駅に停車、通過している回送や試運転列車は記載されていないため、安全確保のために駅務員向け標準時刻表は、駅においてこれらを書き足して作成しておりますが、記載漏れや誤記が発生する恐れがあるとともに、駅での通常業務内での対応となっています。安全確保のためのミス防止及び業務の効率化を目的として、次回のダイヤ改正に向け、ダイヤ作成支援システムにおいて、以下に示すプログラム改修を実施します。

(1)[印刷]メニューに[駅標準時刻表(駅務員向)]を追加
(2)駅務員向け標準時刻表のフォーマットは現行の駅標準時刻表に、下記情報を追加する。
①全時刻に運用番号を記載
②回送列車の時刻を記載
③当駅止まりの列車の時刻を記載
④全列車当駅止まりとなる以下の駅・方向についても時刻表を作成
・1・3号線　湘南台駅　下り方向
・1・3号線　あざみ野駅　上り方向
・4号線　日吉　上り方向
・4号線　中山　下り方向
⑤快速列車(営業かつ当駅通過列車とする)の時刻を記載

(2　前年度から変更・見直しした点)

(3　根拠法令・規程、現場の意見等)

(4　除却資産の有無)

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 運転課 担当者名: 中村

【事業内容】	計画額
3 ダイヤ作成装置改修　標準時刻表の書式変更	[redacted]

中期経営計画	お客様に向けて(9)ブルーライン快速運転の実施・検証
中期経営計画	お客様に向けて(10)グリーンライン輸送力増強の検討

(1　事業目的・内容)

現在、ポケット時刻表の作成に当たっては標準時刻表データを委託先に提供し、委託先においてデータの加工を行っています。結果として、記載漏れ及び誤記のチェック作業に多大な時間を要しています(BLの場合32駅上下線)。ミス防止及び業務の効率化を目的として、次回のダイヤ改正に向け、ダイヤ作成支援システムにおいて、以下に示すプログラム改修を実施します。ダイヤ作成支援システムにおいて、以下に示すプログラム改修を実施します。

(1)駅配布用ポケット時刻表作成様式追加
(2)現行の駅標準時刻表に、下記情報を追加する。
①タイトル部に駅番号と駅名を記載
②方向見出し部にダイヤ種別、方面見出し、ダイヤ改正日を記載
③接続記号を駅掲載時刻表と同一形式で記載

(2　前年度から変更・見直しした点)

(3　根拠法令・規程、現場の意見等)

(4　除却資産の有無)

☐ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：運転課 担当者名：中村

【　事　業　内　容　】	計　画　額
4　ダイヤ作成装置改修　標準時刻表の凡例自動記載機能追加	[redacted]

中期経営計画	お客様に向けて(9)ブルーライン快速運転の実施・検証
中期経営計画	お客様に向けて(10)グリーンライン輸送力増強の検討

(1　事業目的・内容)

現在、ポケット時刻表の作成に当たって、路線名及び駅毎の凡例(行先等)を手動で入力しています。結果として、手動での入力業務および記載漏れ・誤記のチェック作業に多大な時間を要しています(BLの場合32駅上下線)。ミス防止及び業務の効率化を目的として、次回のダイヤ改正に向け、ダイヤ作成支援システムにおいて、以下に示すプログラム改修を実施します。ダイヤ作成支援システムにおいて、以下に示すプログラム改修を実施します。

(1)ポケット時刻表右上部の路線名の自動作成機能追加
(2)行先記号の凡例を駅毎に変更する自動作成機能追加

(2　前年度から変更・見直しした点)

(3　根拠法令・規程、現場の意見等)

(4　除却資産の有無)

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 運転課 担当者名: 中村

【事業内容】	計画額
5 ダイヤ作成装置改修　仕業作成機能の帳票に運用番号及び交代駅番号の記載機能追加	[redacted]

中期経営計画	お客様に向けて(9)ブルーライン快速運転の実施・検証
中期経営計画	お客様に向けて(10)グリーンライン輸送力増強の検討

(1 事業目的・内容)

現行の仕業棒ダイヤ作成機能では乗務員の交代駅(上永谷・新羽)記載機能がなく、データ出力後に手動で入力をしており多大な時間を要するとともに、記載漏れ・誤記のチェック作業にも多大な時間を要しています。ミス防止及び業務の効率化を目的として、次回のダイヤ改正に向け、ダイヤ作成支援システムにおいて、以下に示すプログラム改修を実施します。ダイヤ作成支援システムにおいて、以下に示すプログラム改修を実施します。

乗務員仕業表において、下記情報を追加する。
・仕業出力欄に出力する時刻の先頭に、交代駅番号を記載
・仕業出力欄に出力する走行部の免染部上側に運用番号を記載

(2 前年度から変更・見直しした点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

(4 除却資産の有無)

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：運転課 担当者名：中村

【　事　業　内　容　】	計　画　額
6　ダイヤ作成装置改修　ダイヤ修正時における既存ダイヤ保存機能追加	[redacted]

中期経営計画	お客様に向けて(9)ブルーライン快速運転の実施・検証
中期経営計画	お客様に向けて(10)グリーンライン輸送力増強の検討

(1　事業目的・内容)

現在、ダイヤ作成時にダイヤ定数(ダイヤ作成にあたって前提となる設定　例:走行・停車データ)を変更すると、それまで作成したスジが保存されないため、ダイヤ作成の検討段階での変更や修正が困難であり業務上の支障となっている。ダイヤ作成時における柔軟な検討を可能にすることを目的として、次回のダイヤ改正に向け、ダイヤ作成支援システムにおいて、以下に示すプログラム改修を実施します。ダイヤ作成支援システムにおいて、以下に示すプログラム改修を実施します。

ダイヤ作成後、ダイヤ定数データを追加・変更しても、既存ダイヤが保存される機能を追加

＜前提条件・仕様＞

- 駅データ等を変更した際、変更した定数データと矛盾するスジ、出入庫、折返しのみを削除する機能を追加
- 走行・停車データを変更した際、停車時分を変更したスジに対し、停車時分を変更するか、標準停車時分に戻すかの選択機能追加

(2　前年度から変更・見直しした点)

(3　根拠法令・規程、現場の意見等)

(4　除却資産の有無)

☐ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 運転課 担当者名: 中村

【事業内容】	計画額
7 大型プリンター(プロッター)更新購入	[redacted]

中期経営計画	―

(1 事業目的・内容)

現在、高速鉄道本部内に設置している大型プリンターは製造終了品であり、保守メンテナンスも終了となったものであり、消耗品の入手も困難になりつつあります。

ダイヤ改正時の際には使用頻度も多くなるため、現行品の新規購入をします。

(2 前年度から変更・見直しした点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

(4 除却資産の有無)

■ 有
□ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：運転課 担当者名：中村

【　事　業　内　容　】	計　画　額
8　ダイヤ作成装置改修　大型プリンター（プロッター）更新購入に伴う機器改修	[redacted]
中期経営計画	―

（1　事業目的・内容）

大型プリンター（プロッター）更新購入に伴い、ダイヤ作成装置機器改修を行ない、動作確認及びドライバー等の機器設定を行ないます。

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 車両課 担当者名: 山畑・鈴木(善)・久田

（単位：千円）

	28年度 A	27年度 B	増減(A−B)
予算額	2,651,033	524,754	2,126,279

（単位：千円）

【事業内容】	計画額
1 車両の火災対策	0

中期経営計画　—

（1 事業目的・内容）

3000形1次車（A形）、2次車（N形）及び3次車両（R形）は、新火災対策基準に不適合なことから、
適合する構造に改良します。

(1) 冷房吹き出し口及び送風機整風板の溶融滴下対応（A形、N形、R形）
(2) 照明器具類の溶融滴下対応（A形）
(3) 天井仕上げ材の溶融滴下対応（A形、N形、R形）
(4) 車両連結間の貫通引戸の設置（A形、N形）
（継続案件）

項目		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	合計
実績/予算		実績	実績	実績	予算	予算	予算	
A	単価	25,836	25,836	25,836				—
	数量	—	—	—	—	—	—	—
	小計 ①	0	0	0	0	0	0	0
N	単価	23,686	23,686	23,686				—
	数量	—	—	—	—	—	—	—
	小計 ②	0	0	0	0	0	0	0
R	単価	22,900	22,900	22,900				—
	数量	1編成	1編成	2編成	0編成	2編成	1編成	7編成
	小計 ③	22,900	22,900	45,800	0			
追加作業④		0	0	6,263	0			
計 ①+②+③+④		22,900	22,900	52,063	0			
税		5%	5%	8%	8%	8%	8%	−
		1,832	1,832	4,166	0			
合計		24,732	24,732	56,228	0			

（2 前年度から変更・見直しした点）

H28年度は火災対策を施工している新羽検修庫に車輪転削盤設置の計画をしているため、火災対策の施工本数の見直しを予定。
契約をH28年度に債務負担2年で行い、H28年度分の1編成とH29年度の1編成の計2編成をH29年度に行う予定。
追加作業：空調器給気効率改善作業

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」 第83条
（2003年2月韓国・テグ地下鉄駅にて発生した火災事故による対応）
ブルーライン車両改良投資計画（平成20年度～平成40年度）

（4 除却資産の有無）

☐ 有
■ 無

（5 年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総額
上段：繰越（外数）	0	0	0	0	0	0
事業費	56,228	0			0	
債務負担設定	0		0	0	0	

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 車両課 担当者名: 山畑・鈴木(善)・久田

【事業内容】　計画額 [redacted]

2 車両運用計画装置更新

中期経営計画　－

(1 事業目的・内容)

運用管理システムは、車両の毎日の動き(運用)や検査、清掃等の作業計画を立てるために使用するシステムであり、非常に重要な設備の一つになります。本システムにおいて作成したデータは、基地のPRC(基地信号システム)に送信し、基地内の配車計画にも使用しています。そのため、本システムは各車両基地の検修区及び基地信号扱所に設置されています。本システムは平成17年に設置(更新)されており、設置から10年以上たっておりますのでシステムが現在の運用管理と合わずさらにコンピュータも陳腐化し、動作が遅く日々の業務に支障をきたす状態となっております。また、故障してもコンピュータが古すぎるため修理することもできません。機能としても運用を自動で作成することができず、検査や清掃等の作業計画は完全に手動入力となっており計画を作成する際に非常に時間がかかっております。なお、作成した計画はチェック機能もありませんので万が一計画の不一致や法定検査を見逃すことにもなりますと、運行に重大な支障が起きお客様に大変なご迷惑をおかけすることにつながります。

そのため、本システムを更新し、合わせてソフトウェアを改良して車両運用管理をより一層確実に行えるようにいたします。

設備履歴

番号	設置場所	年度																
		4	5	6	7	…	…	…	…	…	16	…	…	…	…	…	…	28
No.1	上永谷検修区	▽									○							◎
No.2	上永谷信号扱所		▽								○							◎
No.3	新羽信号扱所				▽						○							◎

▽:導入
○:更新(ダイヤ改正、パソコンのDOS→Windows化)
◎:更新(来年度計画分)

(2 前年度から変更・見直しした点)

新規事業

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

現場の意見

(4 除却資産の有無)

■ 有　2004-20-00496　2台　　2004-20-00497　2台
□ 無

(5 年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総額
上段:繰越(外数)						0
事業費		[redacted]	[redacted]			[redacted]
債務負担設定		[redacted]				[redacted]

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 車両課 担当者名: 山畑・鈴木(善)・久田

【事業内容】	計画額
3 3000R形 列車無線装置更新	0

中期経営計画　－

(1 事業目的・内容)

本装置は、ブルーライン車両の乗務員室に搭載し、車両と総合司令所間の連絡や車内異常時において車内非常通報器と総合司令所間での通話機能を有するもので、営業線内において、常に安定した性能・動作を求められる重要な保安装置です。

3000R形の列車無線装置は製造から約11年が経過し、電子機器部品の劣化が進行する時期となったため、車両課の長期計画に基き改修するものです。

また、現在、本装置は車両前後の乗務員室に1台ずつ取り付けられていますが、機能としては独立しています。そのため、いずれか片側の装置が故障した場合はその乗務員室で総合司令所と通話ができず、ワンマン運行ができなくなります(平成22年8月に故障事例あり)。そこで無線に関する配線を車両間に引き通すことで、片側の機器が故障した場合でも、正常に機能している機器側を経由して通話及び非常防護発報等可能なように改良にして、機器交換までの運行を可能とする改良を施します。

これについては3000形の全編成について改良する予定ですが、作業については工場入場時に実施する予定のため、平成28～30年度に入場予定である3000R形から改良します。

更新計画＜3か年契約の1年目＞

項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	合計
数　量	0編成	6編成	8編成	14編成
税抜金額	0			
税	8% 0	8%	8%	－
金　額	0			

(工程概要)

H28年度　契約
H29年度　6編成の更新
H30年度　8編成の更新

(2 前年度から変更・見直しした点)

新規

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

(4 除却資産の有無)

□ 有
■ 無

(5 年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段:繰越(外数)						0
事　業　費		0				
債務負担設定						

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 車両課 担当者名: 山畑・鈴木(善)・久田

【事業内容】	計画額
4 ブルーライン車内案内表示システム改修	0

中期経営計画　お客様に向けて(7)ICTを活用したお客様への情報提供

(1 事業目的・内容)

・現行のブルーラインの車内案内表示は、他社線の運行情報は表示できておらず、お客様が情報を得るためには、お客様が所有されているインターネットツール(携帯情報端末等)または乗務員による車内放送から情報を得るしかない状況です。

・この状況を改善し、お客様に迅速かつ正確に運行情報を提供するため、ブルーライン車両の車内案内表示システムの改修を実施します。

・現行のLEDスクロール式を液晶式(2画面)として、お客様により分かりやすい情報提供が可能となるよう改修を実施します。

車上設備　表示イメージ(2画面／ドア

	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
3000R・S形　改修 (22編成)		発注	6編成	6編成	6編成	2編成	2編成
中期経営計画(H27～H30)		発注	6編成	6編成			

交通局中期経営計画計画年度

※1　3000A形(8編成)はH29～H33に予定している車両の大規模改修時に合わせて実施。

※2　3000N形(7編成)はH33年度以降に予定している車両の大規模改修時に合わせて実施。

※3　本改修に伴い、地上－車上間の通信設備が必要となるため、地上側設備の増設を行います。(H28年度電気課にて予算計上)

(2 前年度から変更・見直しした点)

新規事業

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

ブルーライン車両改良投資計画(平成20年度～40年度)

(4 除却資産の有無)

□ 有
■ 無

(5 年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総額
上段:繰越(外数)						0
事業費	0	0				
債務負担設定						

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款：12　高速鉄道事業資本的支出　項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：車両課 担当者名：山畑・鈴木（善）・久田

【事業内容】	計画額
5　3000A形車両の改修	0

中期経営計画　お客様に向けて（19）ブルーライン3000形車両の新造・改修

（1　事業目的・内容）

・3000A形車両は平成4年度に製造しました。（全8編成）
・H27年度末で、製造から約23年が経過し、車体や主要電気品が劣化傾向にあります。
・車体については、屋根部のスポット溶接の亀裂や車内床面の内部素材の経年劣化など大規模な改修が必要です。
・電気品は、経年劣化による故障件数が増加してきており、車両故障による営業線の運休など、車両運行に影響を及ぼしています。
・電気品は随時改修することで故障抑制を行ってきましたが、抜本的な対策が必要な時期となっています。
・以上の状況から、3000A形車両の改修を計画しています。

年度		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	合計
3000形 5次車製造	施工予定		1編成						増備 1編成 改修 8編成
	中期経営計画 （H27～H30）		1編成						
3000A形 改修	施工予定		発注	1編成	2編成	2編成	2編成	1編成	
	中期経営計画 （H27～H30）		発注	1編成	2編成				

3000A形車両の大規模改修を実施するためには、約6か月／編成の期間が必要となり、改修期間中の車両数の確保のため、28年度末までに増備車両を1編成製造（3000形5次車、契約済み）し、29年度から3000A形の大規模改修を実施していく予定としております。

【改修内容抜粋】

バリアフリーの向上

省エネルギーの推進（照明類のLED化）

前照灯LED化

客室灯LED化

案内表示の充実

液晶式表示器の採用

（2　前年度から変更・見直しした点）

新規事業

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

ブルーライン車両改良投資計画（平成20年度～平成40年度）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段：繰越（外数）						0
事　業　費	0	0				
債務負担設定						

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 車両課 担当者名: 山畑・鈴木(善)・久田

【事業内容】　計画額

6　3000S形耐雪ブレーキ改良

[redacted]

中期経営計画　お客様に向けて(2)災害対策② 雨・雪に強い地下鉄の実現

(1　事業目的・内容)

2014年2月15日未明に発生した東急東横線元住吉駅にて降雪時に発生した列車衝突事故の要因の一つに、車輪とブレーキシューの間に雪が挟まり凍結しブレーキ力が弱くなった可能性を指摘されております。

また、当局の車両において上記事故車両と同様の構造のブレーキを採用している3000S形では、平成26年度に発生した大雪の際に他の車両形式と比較して制動力が低下した事例があり、雪に対する対策が必要とされています。

この形式のブレーキでは、積雪の可能性がある地方の鉄道では、摩擦熱で雪を解かす様にするためのスイッチを設け、事前にブレーキシューを車輪に弱い圧力(30～60kPa)で押し当て雪を溶かす対策をとっているため、3000S形も同様の対策を行うものです。

改良計画＜2か年契約の1年目＞

	年度	平成28年度	平成29年度	合計
3000S形耐雪ブレーキ改良	中期経営計画	4編成	4編成	8編成
	改良予定	4編成	4編成	8編成

(2　前年度から変更・見直しした点)

総予算と事業年度及びそれに伴う債務負担設定を見直しております。

(3　根拠法令・規程、現場の意見等)

(4　除却資産の有無)

□ 有
■ 無

(5　年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段:繰越(外数)						0
事　業　費		[redacted]	[redacted]			[redacted]
債務負担設定		[redacted]				[redacted]

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 車両課 担当者名: 山畑・鈴木(善)・久田

【事業内容】	計画額
7　3000形増備車	2,448,900

中期経営計画	お客様に向けて(19)ブルーライン3000形車両の新造・改修

(1　事業目的・内容)

今後実施される様々な車両改修で、改修に時間を要す車両については、休車し作業をする必要があります。
特に3000A形の車両改修時には最長6か月程度かかると予測されております。
休車する車両については、通常車両基地にある予備車を充当する事になり、故障等により営業できない車両が発生すると、欠車せざるを得ず、お客様に多大なる迷惑をかける事となります。
そのため、定時性・安定運行を目的としBL1編成を増備します。
本事業は平成26年度に契約済みであり、平成28年度の完成に向けて事業を進めております。

新車・改造車両の比較

		新車	改造車
費用	総額	[redacted]	[redacted]
	内訳	製造費 [redacted]	改造費 [redacted]
		廃車費用 [redacted]	増備車費用 [redacted]
メリット		・故障発生頻度が低くなる ・運輸サービスが向上する	・費用が安い ・現在の予備品を使用できる
デメリット		・費用が高い ・新検査体系に適合しない (5年60万km→4年60万kmに検査工程短縮)	・改造前車両の故障発生率が高くなる (車齢30年超)

車両の仕様
・基本仕様:3000S形　但し、GL増備車設計内容を反映
　(バリアフリー対策、省電力化(LEDの採用)、行先表示)
・PQモニタリング台車搭載

年度		H27	H28	H29	H30
3000形 5次車製造	施工予定		1編成		
	中期経営計画 (H27～H30)		1編成		

(2　前年度から変更・見直しした点)

(3　根拠法令・規程、現場の意見等)

ブルーライン車両改良投資計画(平成20年度～平成40年度)

(4　除却資産の有無)

□ 有
■ 無

(5　年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総額
上段:繰越(外数)						0
事業費	0	2,448,900				2,448,900
債務負担設定	0					0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 車両課 担当者名: 山畑・鈴木(善)・久田

【事業内容】　計画額

8　3000R形蛍光灯　LED化

[redacted]

中期経営計画　地域社会のために(2)地下鉄車両の省電力化

(1　事業目的・内容)

3000R形の車内の灯具には、蛍光灯が使用されています。蛍光灯を点灯させるために安定器が取り付けられていますが、12年使用しており、絶縁劣化による不具合発生の恐れがあるため、交換する必要があります。

蛍光灯型LED照明を使用することにより、安定器がいらない回路になり、LED照明は長寿命で、消費電力量が少ないなど省エネ効果が大きく、また二酸化炭素を排出しないなどの環境にやさしい効果があります。

また、電源のオンオフに対して蛍光灯のように寿命に対する影響がなく、交換などの維持管理費を安くすることができるため、交換します。

	単価	個数/編成	編成数	予備品	計
LED客室灯	[redacted]	128	7	8	[redacted]
LED乗務員室灯	[redacted]	4	7	2	[redacted]
取付け部品(灯具)	[redacted]	132	7	−	[redacted]
補助金プレート	[redacted]	6	7	8	[redacted]
LED落下防止部品	[redacted]	48	7	10	[redacted]
作業費	[redacted]	132	7	−	[redacted]
試験費	[redacted]	−	−	−	[redacted]
諸経費	[redacted]	−	−	−	[redacted]
税抜金額					[redacted]
税(8%)					[redacted]
合計金額					[redacted]

今後の更新計画

車両形式	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
3000R形	中期経営計画	7編成	7編成			
	更新計画	7編成	7編成			
10000形	中期経営計画			15編成		
	更新計画			15編成		
3000A形 (車両改修時実施)	中期経営計画		1編成	2編成	2編成	2編成
	更新計画		1編成	2編成	2編成	2編成
事業費(A形を除く)		[redacted]	[redacted]			

(2　前年度から変更・見直しした点)

(3　根拠法令・規程、現場の意見等)

(4　除却資産の有無)

☐ 有
■ 無

(5　年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段:繰越(外数)						0
事　業　費		[redacted]				[redacted]
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 車両課 担当者名: 山畑・鈴木(善)・久田

【事業内容】	計画額
9　3000N形空調装置更新	[redacted]

中期経営計画　ー

(1　事業目的・内容)

空調装置は車内環境を整える上で重要な装置であり、現在の鉄道ではお客様サービスにおいて必要不可欠な装置です。

3000N形は、製造後約15年経過し、正常な動作を維持するために構成機器の更新や熱交換器の清掃などの作業が必要となります。

また、現状の機器では、使用時に機器内部に水が溜まり、そこから臭気が発生する問題があり、お客様からの指摘がありました。これについて機器の排水性を向上させることで臭気を抑えることが実証できたことから、排水性を向上させる改修を行います。さらに臭気対策として機器内部の熱交換器に空気触媒の塗布を行います。

(現在使用しているフロン(冷媒:R22)が平成32年(2020年)に生産中止となりますが、機器の使用は可能なことから、対策フロンへの置き換えは次回の機器更新時に実施します)

更新計画＜2か年契約の1年目＞

	平成28年度	平成29年度	合計
3000N形	1編成	6編成	7編成
金額	[redacted]		
税(8%)			
税込金額			

(2　前年度から変更・見直しした点)

無

(3　根拠法令・規程、現場の意見等)

ブルーライン車両改良投資計画(平成20年度～平成40年度)

(4　除却資産の有無)

■ 有　資産番号1999－2197　枝番14～21

□ 無

(5　年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段:繰越(外数)						0
事　業　費		[redacted]				[redacted]
債務負担設定						

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 車両課 担当者名: 山畑・鈴木(善)・久田

【事業内容】	計画額
10 3000R形空調装置更新	0

中期経営計画　－

(1　事業目的・内容)

空調装置は車内環境を整える上で重要な装置であり、現在の鉄道ではお客様サービスにおいて必要不可欠な装置です。

3000R形車両の空調装置は、製造後約11年経過しており、正常な動作を維持するために構成機器の更新や熱交換器の清掃などの作業が必要となります。

また、現状の機器では、使用時に機器内部に水が溜まり、そこから臭気が発生する問題があり、お客様からの指摘がありました。これについて機器の排水性を向上させることで臭気を抑えることが実証できたことから、排水性を向上させる改修を行います。さらに臭気対策として機器内部の熱交換器に空気触媒の塗布を行います。

更新計画＜3か年契約の1年目＞

項目	28年度	29年度	30年度	合計
数　量	0編成	6編成	8編成	14編成
税抜金額	0			－
税	8%	8%	8%	－
				－
金　額	0			

(工程概要)

平成28年度　契約(交換する装置の製造に約1年必要)
平成29年度　6編成の更新
平成30年度　8編成の更新

(2　前年度から変更・見直しした点)

無

(3　根拠法令・規程、現場の意見等)

ブルーライン車両改良投資計画(平成20年度～平成40年度)

(4　除却資産の有無)

□ 有
■ 無

(5　年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段:繰越(外数)						0
事　業　費		0				
債務負担設定						

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 車両課 担当者名: 山畑・鈴木(善)・久田

【事業内容】	計画額
11 3000R形補助電源装置更新	0

中期経営計画　－

(1　事業目的・内容)

補助電源装置は、架線から車両用の直流や交流の電源を作り客室灯、案内表示器や送風機等に電源を供給する装置で、列車の運行に欠かせない装置です。

3000R形の補助電源装置は製造から11年を経過しています。3000R型と同様の補助電源装置を搭載している3000N形では、製造後10年を経過したあたりから経年劣化による補助電源装置の故障が増加しました。そこで、故障を予防するために、補助電源装置内部に搭載された電子回路や遮断器等の更新を行います。

この改良実施により、故障抑止に効果があり、3000N形と比較して故障発生が減少すると考えます。

更新計画＜3か年契約の1年目＞

項目	28年度	29年度	30年度	合計
数　量	0編成	6編成	8編成	14編成
税抜金額	0			
税	8%	8%	8%	－
金　額	0			

(工程概要)

平成28年度　契約(交換する装置の製造に約1年必要)
平成29年度　6編成の更新
平成30年度　8編成の更新

(2　前年度から変更・見直しした点)

新規

(3　根拠法令・規程、現場の意見等)

ブルーライン車両改良投資計画(平成20年度～平成40年度)

(4　除却資産の有無)

□ 有
■ 無

(5　年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段:繰越(外数)						0
事　業　費		0				
債務負担設定						

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 車両課 担当者名: 山畑・鈴木(善)・久田

【事業内容】	計画額
12 3000R形VVVF制御装置更新	0

中期経営計画　－

(1 事業目的・内容)

VVVF制御装置は、電車に搭載したモータを制御するもので、電車の走行及び減速には必要不可欠な装置です。

3000R形車両のVVVF制御装置は、平成16年の製造から11年を経過しています。3000R型と同様のVVVF制御装置を搭載している3000N形では、製造後10年を経過したあたりから経年劣化によるVVVF制御装置の故障が増加しました。そこで、故障を予防するために、装置内部に搭載された電子回路や遮断器等の更新を行います。

また、本更新時には装置の重要な構成品であるパワーデバイスを従来のシリコン製からシリコンカーバイト(SiC)製のものに変更します。これはシリコン製デバイスの生産終了によるものですが、SiC素子は省エネルギー性に優れているため、従来より消費電力を低減させることが可能です。本事業は省エネの効果があるため、条件が整えばエコレールラインプロジェクトにも応募する方針です。

この改良実施により、故障抑止に効果があり、3000N形と比較して故障発生が減少すると考えます。また、車両の消費電力も低減すると考えます。

更新計画＜3か年契約の1年目＞

項目	28年度	29年度	30年度	合計
数　量	0編成	6編成	8編成	14編成
税抜金額	0			
税	8%	8%	8%	－
金　額	0			

(工程概要)

平成28年度　契約(交換する装置の製造に約1年必要)
平成29年度　6編成の更新
平成30年度　8編成の更新

(2 前年度から変更・見直しした点)

新規

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

ブルーライン車両改良投資計画(平成20年度～平成40年度)

(4 除却資産の有無)

□ 有
■ 無

(5 年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段:繰越(外数)						0
事　業　費		0				
債務負担設定						

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 車両課 担当者名: 山畑・鈴木(善)・久田

【事業内容】	計画額
13 3000S形台車装置改良	0

中期経営計画　－

(1　事業目的・内容)

3000S形台車は、1984年に2000形用に製造されたのち3000S形に載せ替えられ約30年間使用しております。
今後、車両寿命まで約30年以上使用するための性能を維持するため必要な部品を交換し機能の回復を図ります。
また、運転方法が手動運転から自動運転化になり速度を調整することが多くなった事でブレーキを頻繁に動作させます。
台車装置に取り付いているブレーキ機構は、当局には2種類ありますが本形式のみ採用しているブレーキ機構は、ブレーキシューに段差が出来てしまう事象が見られるためブレーキ機構の部品を改良・更新し対策を図ります。
(3000S形:車輪に直接ブレーキシューを押し付ける構造、3000A、N、R形:車軸についたディスク板にブレーキを押し付ける構造。)

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
中長期計画	11,149	0					
更新計画	11,149	0					
更新計画	±0	±0					

(2　前年度から変更・見直しした点)

総予算及び事業年度を見直しております。

(3　根拠法令・規程、現場の意見等)

(4　除却資産の有無)

☐ 有
■ 無

(5　年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総額
上段:繰越(外数)						0
事業費	11,149	0				
債務負担設定						

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 車両課 担当者名: 山畑・鈴木(善)・久田

【事業内容】	計画額
14 超音波探傷装置更新	[redacted]

中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

超音波探傷装置は、超音波を用いて列車の車軸内部に存在する傷を探知する装置で、列車の全般検査・重要部検査の実施に必要であり、列車の安全な運行を維持するために欠かせない装置です。
この装置は探傷装置本体とパソコンにより構成され、平成11年より約14年稼動しております。
パソコンに関して、現状ではオペレーティングシステムにウインドウズ2000を用いており、超音波探傷装置のソフトもウインドウズ2000で動作するように開発されたものを使用しております。ウィンドウズ2000のサポートが終了したことでパソコン本体の故障による代替器の入手が困難となっているため、新型のオペレーティングシステムで動作するソフトを作成し、パソコンの更新を行います。

（2　前年度から変更・見直しした点）

新規

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

現場の意見

（4　除却資産の有無）

☐ 有
■ 無

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段:繰越(外数)						0
事　業　費		[redacted]				[redacted]
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 車両課 担当者名: 山畑・鈴木(善)・久田

【事業内容】　計画額

15 地下鉄車両検査業務改善

[redacted]

中期経営計画　ー

(1　事業目的・内容)

ブルーライン車両の検査業務は、現在上永谷検修区のみで実施しております。しかし、あざみ野方面の故障対応の更なる迅速化や、上永谷検車庫の環境悪化等の改善を求められていることから、上永谷検修区の組織の一部を新羽車両基地に移し、新羽検車区とすることで改善を図ります。

新羽基地は以前検査業務を行っており、必要な検査線等の設備を既に有していることから、一部の検査器材や什器類を追加すれば検査業務が可能です。平成29年1月稼働開始を予定しています。

項目		数量
月検査業務用試験装置追加	A/N形運転状況記録装置読出し器	1台
	R/S形運転状況記録装置読出し器	1台
	対列車画像伝送装置試験装置	1台
	ニュース表示装置試験器	1台
	バッテリー充電器	2台
緊急自動車追加	緊急自動車追加	1台
	車載無線機	1台
その他	冷水器購入	1台

(2　前年度から変更・見直しした点)

新規

(3　根拠法令・規程、現場の意見等)

(4　除却資産の有無)

□ 有
■ 無

(5　年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総額
上段:繰越(外数)						0
事業費		[redacted]				[redacted]
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 車両課 担当者名: 山畑・鈴木(善)・久田

【事業内容】	計画額
16 3000S形ブレーキ受量器予備品購入	[redacted]

中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

ブレーキ受量器は、運転台の運転士の操作するブレーキ操作のブレーキ制御信号と、台車の上で車体を支えている空気バネの圧力を受け、混雑度合いの反映をさせている装置で、列車の運行に欠かせない装置です。
3000S形電車に用いられているブレーキ受量器は、現在予備品を保有していないため、故障した場合は欠車せざるを得ず、お客様に多大なる迷惑をかける事となります。
そのため、故障時に備えてブレーキ受量器の予備品を購入します。

（2　前年度から変更・見直しした点）

新規

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

現場の意見

（4　除却資産の有無）

☐ 有
■ 無

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段:繰越(外数)						0
事　業　費		[redacted]				[redacted]
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 車両課 担当者名: 山畑・鈴木(善)・久田

【事業内容】	計画額
17 3000A形空調装置ユニット予備品購入	[redacted]

中期経営計画　ー

(1 事業目的・内容)

空調装置は車内環境を整える上で重要な装置であり、現在の鉄道ではお客様サービスにおいて必要不可欠な装置です。
3000A形電車に用いられている空調装置のユニットは、現在予備品を保有しておらず、故障した場合は欠車せざるを得ず、お客様に多大なる迷惑をかける事となります。
そのため、故障時に備えて空調装置ユニットの予備品を購入します。
(ユニット構成品のうち、インバータ装置については生産不可のため当局予備品を使用します)

(2 前年度から変更・見直しした点)

新規

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

現場の意見

(4 除却資産の有無)

☐ 有
■ 無

(5 年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総額
上段:繰越(外数)						0
事業費		[redacted]				[redacted]
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 車両課 担当者名: 山畑・鈴木(善)・久田

【事業内容】	計画額
18 10000形 ミニ地下鉄制作	[redacted]
中期経営計画	―

(1 事業目的・内容)

制作理由

お客様向けイベントは継続性をもって開催しておりお客様への知名度や浸透度も高まっています。
そのイベントの出展の中でもミニ地下鉄は人気が高く活用度も大きいことでお客様との接点をもつ有効な場にもなっています。
現状として、お客様向けイベントにて活用している既存の3000形ミニ地下鉄が老朽化しています。
また、イベント来場のお客様よりグリーンライン車両のミニ地下鉄に乗りたいとの要望があります。
以上の理由により、グリーンライン10000形車両のミニ地下鉄を制作します。

使用状況(既存3000形ミニ地下鉄)

27年度:はまりんフェスタ、保土ヶ谷区民祭り、南区民祭り、新羽ケアプラザ祭りほか4月～11月までの使用回数6回
26年度:9回

(2 前年度から変更・見直しした点)

新規事業

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

お客様からの強い導入要望

(4 除却資産の有無)

□ 有
■ 無

(5 年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総額
上段:繰越(外数)						0
事業費		[redacted]				[redacted]
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出　項：01　建設改良費 目：05　建物費	所属：電気課 担当者名：加藤、府馬、大平

（単位：千円）

	28年度　A	27年度　B	増減(A−B)
予　算　額	2,623,459	2,121,647	501,812

（単位：千円）

【事業内容】	計画額
1　送電線更新工事	0

中期経営計画	―

（1　事業目的・内容）

【工事の目的】

送電線（ケーブル）は、電力会社より買電している当局の受電変電所から、き電変電所へ電気を供給するための電力ケーブルです。

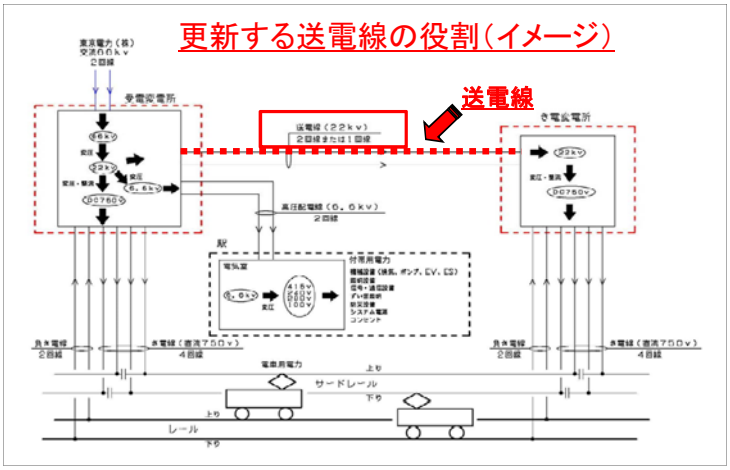
28年度、更新を行う送電線は敷設・運用から、44年が経過しており、ケーブルの信頼性が低下しつつあると考えられます。そのため安定した電力供給の維持を目的に、更新計画に基づき、送電線の更新を実施します。

【課題】

工事の大半は夜間の軌道内を占有する工事のため、関係箇所との調整を密にし工事を行う必要があります。 また送電線の切替時には、電気を供給している他の変電所の運転に影響を与えないよう慎重に切替を実施し、安全に工事を進捗させ、完成させます。

★更新計画

	H28			H29			H30			H31			H32		
区間	蒔田～最戸（上下）			最戸～上永谷（上り）			最戸～笹下			計画なし			計画なし		
	線路	設置	経過年数	線路	設置	経過年数	線路	設置	経過年数	線路	設置	経過年数	線路	設置	経過年数
	S6	1974	42	S3	1975	42	S4	1977	40						
	S5	1971	45												



★ケーブル更新の目安

日本電線工業会　技資第107号	10～20年
交通局	40年

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

■ 有
□ 無

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段：繰越（外数）						0
事　業　費	0	0				
債務負担設定						

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 建物費	所属: 電気課 担当者名: 加藤、府馬、大平

【事業内容】　計画額

2 照明更新工事(横浜ほか3駅)　[redacted]

中期経営計画　地域社会のために(3)地下鉄駅照明の省電力化

(1 事業目的・内容)

23年度より3か年計画で取り組んできた「駅の40W直管型照明のLED化」は、予定通り25年度で完了しました。
その次の試みとして近年は40W以外のLED照明が増えてきた事をうけて、省電力効果が低いままの駅舎照明について27年度より順次LED化を行っています。
中でも駅照明の大半を占める110W蛍光灯については重点的に省電力効果が高く環境対策でもあるLED化を行いますが、その際には周囲の機器に与える影響を十分に考慮した上で更新を行っていきます。

27年度はセンター北駅の更新を実施しており、28年度は横浜、高島町、桜木町、弘明寺駅の4駅について器具の更新を行います。
28年度は、以下の台数の照明器具をLEDに更新(予定)
【施工予定駅　4駅／更新台数　826台】

	横浜駅	高島町駅	桜木町駅	弘明寺駅	合計
更新台数(計画)	316 台	120 台	269 台	121 台	826 台

【LEDの効果】

	40W照明器具のLED化(実績)			110W照明器具や水銀灯等のLED化(計画)	
	23年度	24年度	25年度	27年度	28年度
LED	2,300 本	2,017 本	2,054 本	365 本	885 本
年間削減電力量	302,220 kWh	368,102 kWh	374,855 kWh	248,112 kWh	402,656 kWh
年間削減額	6,592 千円	8,035 千円	8,183 千円	5,416 千円	8,789 千円
年間CO2削減量	160 t	195 t	198 t	131 t	213 t
投資額	13,708 千円	52,158 千円	53,713 千円	38,061 千円	[redacted]
投資回収	3 年	7 年	7 年	8 年	6 年
対象駅	湘南台、戸塚、上大岡、関内、横浜、新横浜、センター南、センター北、あざみ野(9駅)	上永谷、港南中央、弘明寺、吉野町、阪東橋、長者町、桜木町、高島町、下町、上町、片倉町、岸根公園(12駅)	下飯田、立場、中田、踊場、下永谷、舞岡、蒔田、北新横浜、新羽、仲町台、中川(11駅)	センター北(1駅)	弘明寺、桜木町、高島町、横浜(4駅)

・電気料金単価・・[redacted]　(27年度 BL予算単価)　・排出係数／東京電力株式会社　0.000530 (t-CO2/kWh)
・平成26年12月6日 環境省公表数値 実排出係数を使用　http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=19006

【更新計画】

事業	事業目標	27年度	28年度	29年度	30年度
駅構内照明のLED化	10駅更新	1駅 センター北	4駅 横浜、高島町、桜木町、弘明寺	3駅	2駅

(2 前年度から変更・見直しした点)
・28年度はエコレールラインプロジェクトに補助金の申請を行います。

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

(4 除却資産の有無)

☐ 有
■ 無

(5 年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段:繰越(外数)						0
事　業　費	64,800	[redacted]				
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　建物費	所属：電気課 担当者名：加藤、府馬、大平

【事　業　内　容】　　計　画　額

3　防災設備更新工事（下町、上町、岸根）

中期経営計画　ー

（1　事業目的・内容）

三ツ沢下町、三ツ沢上町駅の自動火災報知設備と岸根公園駅の非常電話の更新を行います。

三ツ沢下町、三ツ沢上町駅の自動火災報知設備は、いずれも設置から31年が経過し機器の老朽化が進み信頼性が低下してきています。また修理に必要な部品の製造・供給もすでに停止されているために調達が困難で、一旦故障が発生してしまうと修理に時間を要すこととなり、駅の安全性が損なわれてしまう状況にあります。（受信機の更新の目安は20年）
そこで既存の消防法に適応した形で受信機や感知器を含めたシステム全体の更新を行うことで、さらなる安全性の向上を図ります。

また岸根公園駅の自動火災報知設備は12年前に更新を行っているのですが、非常電話については更新されていないために設置から31年が経過しており、駅の安全性を保つために速やかな更新が望まれます。
よって岸根公園駅については非常電話のみの更新を行います。

●自動火災報知設備について
居室等に設置されている感知器が熱や煙を感知し、受信機に火災信号などを送り知らせます。また受信機は警報を発し、火災地区を表示し地区ベルなどを鳴動させ建物内に居る人に火災の発生を知らせる設備です。設備は、受信機・発信機・中継器・表示灯・地区音響装置・感知器などの機器から構成されます。

▼設備の現状

受信機改修イメージ①

受信機改修イメージ②

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、「現場の意見」 等）
●根拠条例（設置基準）
消防法第17条、消防法施行令第21条、その他、横浜市火災余簿条例第51条等、防火対象物の用途・規模に応じて設置し、点検・維持を行う義務がある。

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

☐ 有
■ 無

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段：繰越（外数）						0
事　業　費	0					
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　建物費	所属：電気課 担当者名：加藤、府馬、大平

【　事　業　内　容　】	計　画　額
4　上永谷変電所更新工事（変電機器）	737,048

中期経営計画　お客様に向けて（3）地下鉄施設の計画的補修

（1　事業目的・内容）

【変電所更新】

上永谷変電所の受変電機器は、使用開始から35年以上が経過し機器の劣化が進行しています。製造中止となった部品も多く、健全な機能を維持することが困難となっているため、全面的な機器更新を実施し、安全性の向上を図ります。

また、更新にともない機器配置等が変更となるため照明設備や電線路設備等の改修も併せて実施します。

▼設備の現状

▼設備の現

【上永谷変電所関連工事内

項　目	工事概要
受変電機器更新工事	受変電機器の製作及び据付け配線工事
機器更新に伴う電線路改修工事	送電線、配電線、き電線の移設及び一部引替え工事
機器更新に伴う電力管理システム変更作業	機器を司令所から遠方制御するためのシステム改修
機器更新に伴う電気設備改修工事	変電所内の一般電気設備（照明等）の配置変更工事

【変電所更新の事業計画】

年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
変電所名	上永谷変電所		蒔田変電所		笹下変電所
基本設計					
詳細設計					
機器製作					
据付配線工事					

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

■ 有
□ 無

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段：繰越（外数）						0
事　業　費	46,268	737,048				
債務負担設定	731,156					

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 建物費	所属: 電気課 担当者名: 加藤、府馬、大平

【事業内容】　計画額

5 直流電源装置更新

中期経営計画　－

（1 事業目的・内容）

直流電源装置は停電時に駅の非常灯を点灯させたり、電気室の開閉器の動作や故障検出を行う継電器への電源を供給しています。
28年度は設置から30年以上経過した、片倉町駅及び三ッ沢下町駅電気室の直流電源装置の機器更新を行い、機器の健全性の維持・確保を行います。
更新計画は直流電源装置の設置から30年経過した装置に対して、鉛蓄電池の寿命を考慮して計画しています。
（長寿命鉛蓄電池寿命:13年程度　短寿命鉛蓄電池:7年程度）

＜更新計画＞

	H28	H29	H30	H31
場所	①片倉町駅 ②三ッ沢下町駅	①舞岡駅 ②舞岡変電所（2台）	三ツ沢上町	更新計画なし
製造年・更新時経過年数	①② 1984年・32年経過	①1982年・35年経過 ②1986年・31年経過	1984年・34年経過	
蓄電池交換実施年・蓄電池経過年数	①② 2003年・13年経過	①② 2004年・13年経過	20011年・7年経過 ※短寿命蓄電池	
内容	①② 蓄電池交換及び 整流器更新	①② 蓄電池交換及び 整流器更新	蓄電池交換及び 整流器更新	

【参考】直流電源装置

（2 前年度から変更・見直しした点）

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

（4 除却資産の有無）

■ 有　直流電源装置（片倉町駅） 1984-20-00348
□ 無　直流電源装置（三ッ沢下町駅） 2003-20-00216、2003-20-00233

（5 年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総額
上段:繰越（外数）						0
事業費	10,648					
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　建物費	所属：電気課 担当者名：加藤、府馬、大平

【　事　業　内　容　】	計　画　額
6　直流電源装置 蓄電池更新	[redacted]

中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

直流電源装置は停電時に駅の非常灯を点灯させたり、電気室の開閉器の動作や故障検出を行う継電器への電源を供給する役目を持っています。その中の蓄電池は年数とともにその性能が衰えていくため、定期的な交換が必要になります。本作業は寿命に達した鉛蓄電池を長寿命型の鉛蓄電池に交換し、電源供給の信頼性の向上を図ります。
（長寿命鉛蓄電池寿命：13年程度　　短寿命鉛蓄電池：7年程度）

＜更新計画＞

	28年度	29年度	30年度	31年度
場所	①北新横浜駅 ②新羽駅 ③仲町台駅 ④北の谷変電所 ⑤荏田変電所	①上大岡駅 ②吉野町駅 ③桜木町駅 ④新羽車両基地	①あざみ野駅	①センター北 ②センター北（4号線） ③高島変電所
交換実施年・更新時経過年数	①～⑤ 2003年・13年	①～④ 2004年・13年	①～③(短寿命鉛蓄電池) 2010年・8年	①、③（短寿命蓄電池） ①2011年・8年 ②2006年・13年 ③2011年・8年

【課題・目標】

【ｲﾒｰｼﾞ】直流電源装置

【ｲﾒｰｼﾞ】鉛蓄電池（長寿命型）

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）
横浜市高速鉄道電力設備整備心得

（4　除却資産の有無）

■ 有　　2003-20-00215　　2003-20-00228　　2003-20-00239
□ 無　　2003-20-00216　　2003-20-00235　　2003-20-00240
　　2003-20-00217　　2003-20-00236
　　2003-20-00227　　2003-20-00237

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段：繰越（外数）						0
事　業　費	12,419	[redacted]				
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 建物費	所属: 電気課 担当者名: 加藤、府馬、大平

【事業内容】　計画額 [redacted]

7 防災盤用バッテリー購入

中期経営計画　ー

（1 事業目的・内容）

消防用設備等は、いついかなる場合に火災が発生しても確実に機能を発揮するものでなければならないので、日頃の維持管理が充分に行われることが必要です。

交換周期表に基づき購入を予定している防災設備用予備電源（バッテリー）のうち製品単価が10万円を超えるものについて建設改良費で購入いたします。

密閉型ニッケルカドミウム電池（消防鑑定品）

【更新計画】

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
BL	中川駅 あざみ野駅 新羽車両基地	高島町駅 横浜駅			
GL		東山田駅 北山田駅	都筑ふれあいの丘駅	中山駅	センター北S/S 川和町S/S

【購入内訳】

区分	電池型式	個数
BL	8AH／5HR	0
	10AH／5HR	2
	UPS	1
GL	8AH／5HR	0
	10AH／7HR	2
	UPS	0

（2 前年度から変更・見直しした点）

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

（4 除却資産の有無）

□ 有
■ 無

（5 年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総額
上段:繰越(外数)						0
事業費	1,015	[redacted]				
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 建物費	所属: 電気課 担当者名: 加藤、府馬、大平

【事業内容】	計画額
8 モーターカー更新	56,463

中期経営計画　－

（1 事業目的・内容）

〇工事用モーターカーの更新を計画します。

更新を検討している工事用モーターカーは、製造から22年が経過（平成4年（1992年）製造）し、修理部品の入手が困難になっています。そのため、経年故障の修理対応に苦慮することや、修理期間中はモーターカーが使用できないため、工事工程にも支障を及ぼすなどの問題が生じています。

一方、地下鉄の電気、信号、通信や機械を始めとする様々な設備の老朽化も進行しており、更新が必要な状況となっています。地下鉄のトンネル内や駅の設備を更新する場合、設備の形状や重量等の制限により、多くの設備は、地上からの搬入・搬出が困難なため、モーターカーを使用しての搬入・搬出が必要となります。そのためにもモーターカーの健全性確保が課題となっています。この課題を解決するためにモーターカーを更新し、安全で効率的な工事の施工や緊急・災害時の機動力確保を維持します。

工事用 MC（1992年製）

更新

グリーンラインで導入したモーターカー

整理番号	所管	区分	仕様	型式	登録
MC(8号車)	上永谷	工事用	ホロ付き、マニュアル	RD-H6C	H4年

〇MCが必要な主な更新工事（計画を含む）

・変電所更新に伴う電線路工事（27年度：上永谷。以降、順次更新計画あり）
・電力（送電線、配電線）ケーブル更新工事（28年度以降、順次更新計画あり）
・駅電気室更新工事（27、28年度：関内工事。その後、順次、更新計画あり）
・信号更新工事（27～29年度：新横浜工事。その後、順次更新計画あり）
・列車無線更新工事（28～30年度工事予定）　・・・など

【課題・目標】

・外観の状態は良好。内燃機や駆動部、油圧系統の老朽化が著しく、修理が増加傾向にある。
・製造から20年を経過し、補修用部品の入手が困難な状況にある。
　以上の課題を解決するためにモーターカーを更新し、安全で効率的な保守作業を実施し継続させます。

（2 前年度から変更・見直しした点）

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

（4 除却資産の有無）

■ 有
□ 無

（5 年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総額
上段：繰越（外数）						0
事業費	0	56,463				
債務負担設定	49,680					

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 建物費	所属: 電気課 担当者名: 加藤、府馬、大平

【 事 業 内 容 】	計 画 額
9 保守用緊急自動車更新	[redacted]

中期経営計画　ー

（1　事業目的・内容）

緊急自動車は、日常の保守作業で使用されるほか、事故や災害時などの緊急時に移動を行う場合において、一般道路を緊急走行が可能なため通常の走行と比較し、より早く現場に到着することを目的とした自動車です。
川和電気区で使用している緊急自動車（日産アトラス）は、初年度登録から18年経過し、更新計画の目安（使用から10年かつ走行距離10万kmを経過した車両）に達しているため更新を行います。
購入車種選定の要件として変速装置を自動変速装置（以下、AT車）、駆動方式を四輪駆動（以下、4WD）とします。理由として新規採用職員のほとんどがAT車限定免許で、川和電気区においても、現状2名の職員が緊急自動車の運転を出来ない状態にあります。
また、普通免許保持者も、大半の者が自家用車としてAT車を所有しており、不慣れなマニュアル車による交通事故抑止の観点から、オートマティック（以下、AT）車を選定します。
そのほか近年、自然災害などによる緊急対応の重要度合がより増してきていることや、迅速な対応・復旧が求められることから、豪雨・雪害等の自然災害時の機動性を確保することを目的に走破性の高い4WDを選定します。

以上のことから28年度に車検を向かえる緊急自動車を更新し、AT車限定免許者を含めた災害時の機動性確保や操作性向上による更なる安全性の確保向上に取り組みます。

平成８年登録　川和電気区の日産アトラス

〇川和保守管理所　日産アトラス【横浜 11 ほ 1873】
平成8年10月28日初年度登録　総走行キロ　77,302 km

【緊急対応状況（26年度）】 5件
4月14日　川和町～都筑間 異音感知
5月4日　日吉駅構内 軌道不正落下
7月15日　中山駅構内 異音感知
9月11日　日吉本町駅 粉塵除去
2月20日　日吉本町～東山田 トロリー線地絡

【課題・目標】
・緊急自動車が18年を経過している。
・AT車限定免許所持者の2名が運転不可である。（今後も増加の傾向）
・普通免許所持者も自家用車はAT車(マニュアル車は1名のみ)で、不慣れなマニュアル車を運転する事による事故増加が心配される。
・川和町の積雪状況や道路の凍結状況考慮して、駆動方式については4WDを選定する。
積雪時車両基地から本線道路に出る際に、除雪されていない局管理道路に吹溜りができ、スタックした事例がある
ため。（AT車の運転と同様に、チェーン装着時の運転にも不慣れなものがいる。）

【内訳】

品名	単価	数量	金額[千円]
緊急自動車（トヨタ:ダイナ相当）	[redacted]	1台	[redacted]
消費税	[redacted]	1式	[redacted]
取得税	[redacted]	1式	[redacted]
合計			[redacted]

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

■ 有
□ 無

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段:繰越（外数）						0
事　業　費	3,425	[redacted]	0	0	0	[redacted]
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 建物費	所属: 電気課 担当者名: 加藤、府馬、大平

【事業内容】　計画額

10 ネットワークリレー購入

中期経営計画　ー

（1 事業目的・内容）

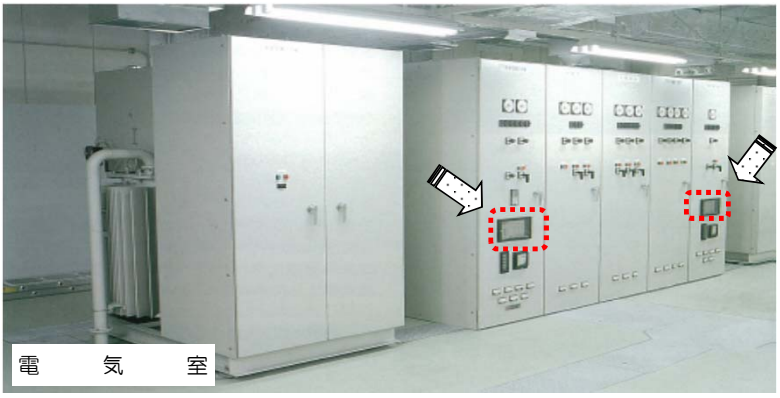
駅の電気室は、2つの異なった系統の電力を受電しつつ運転を行うことで、万一、電力の送電に停電が発生した場合であっても、片回線（1回線）だけの停電であれば、電力供給に支障が生じないよう冗長性の高い設備となっています。

一方、2つの異なった系統の電力を受電しながら運転や制御を行うには、常に2つの異なった系統の電力の要素を監視・比較しながら運転を行う必要があります。そのために当局の電気室は、スポットネットワーク配電方式を採用しています。このスポットネットワーク配電方式で、常に異なった系統の電力の要素を監視・比較に必要なのが、更新を実施するネットワークリレーです。

前述のようにネットワークリレーは、運転中、常に電力の要素を監視・比較している必要があるため、更新計画を策定し、定期的な更新（更新周期 15年）を実施し、駅の様々な電気設備へ安定した電力供給を維持します。

【更新計画】

27年度	中田、踊場（1999年製）
28年度	舞岡（2001年製）
29年度	下永谷、三ッ沢下町（2002年製）
30年度	岸根公園、新横浜（2003年製）
31年度	吉野町、三ッ沢上町、片倉町（2004年製）
32年度	戸塚、港南中央（2005年製）
33年度	弘明寺、阪東橋（2006年製）



ネットワークリレー

◆ネットワークリレーの主な機能

①駅の電気室は、通常、変電所からの2回線受電を行い、電気の信頼性を高めています。事故等で変電所の1回線が停電した場合、ネットワークリレーは停電（事故）回線を自動的に検出し切り離し、健全な回線からの受電を継続し運転を行います。（停電することなく故障回線を自動的に切り離し、運転を継続します。）

②停電（故障）していた回線が復旧し、送電が再開された場合、ネットワークリレーは電源の復旧を自動的に検出・回線を接続し、2回線受電を再開します。（正常回線を自動的に検出・接続の良否判定を行い、電源の信頼性が寄り高い2回線受電の運転を行います。）

（2 前年度から変更・見直しした点）

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

（4 除却資産の有無）

□ 有
■ 無

（5 年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段:繰越(外数)						0
事　業　費	8,872					
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 建物費	所属: 電気課 担当者名: 加藤、府馬、大平

【事業内容】	計画額
11 MCトロ購入	0

中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

平成28年度のMC更新に伴い、工事・保守に使用するトロを購入します。

○トロが必要な主な工事（計画を含む）

・変電所更新に伴う電線路工事
・電力（送電線、配電線）ケーブル更新工事
・駅電気室更新工事
・信号更新工事
・列車無線更新工事
など

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総額
上段:繰越（外数）						0
事業費	0	0		0	0	
債務負担設定						

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　建物費	所属：電気課 担当者名：加藤、府馬、大平

【　事　業　内　容　】	計　画　額
12 電力管理システム大画面表示装置更新	[redacted]

中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

電力管理システムの大画面表示装置は各変電所の状態を表示するとともに、各駅設備の故障状態、さらには列車の在線状況等を表示させる装置であり、電気司令業務を行うのに欠かせない設備となっています。

本装置は、平成14年に設置してから13年が経過し、経年劣化部品を計画的に交換し使用していますが、交換部品の多くが製造中止となり、入手困難な状況となっています。このため故障した際の修理に時間を要したり、復旧が出来ないことも考えられます。

以上のことから、電力管理システム大画面表示装置を更新し、設備の信頼性の向上を図ります。また、更新にあたってはプロジェクタの光源をLEDランプに変更することにより、保守費用の低減にも努めます。

近景

遠景（4画面構成）

電力管理システム大画面

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

■ 有　　2002-20-00237
□ 無

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段：繰越（外数）						0
事　業　費	0	[redacted]	0	0	0	[redacted]
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 建物費	所属: 電気課 担当者名: 加藤、府馬、大平

【事業内容】　計画額

13 基地直流開閉器盤更新

中期経営計画　ー

（1　事業目的・内容）

車両基地に設置されている直流開閉器は列車に走行用の動力を供給する回路を開閉する安全遮断器で、日常保守の電源の区分を行う際に必要な「き電の入切」時に、また電気事故等の発生時には、回路を遮断する機能を備えている重要な設備です。この直流開閉器は、屋外の開閉器盤に収納し設置されています。

今回更新を検討している開閉器盤は、平成6年（1994年）に更新を行い、更新から21年が経過した開閉器盤です。この開閉器盤については以前より、他の盤と比較し腐食の進行度合いが速かったため、これまで保守区の直営作業や委託等で、様々な補修対策を行ってきました。しかし対策の効果が余り見られず、腐食の進行が進んでしまいました。特に開閉器盤の内部底板の腐食が酷く、このままの状況で腐食が進行してしまった場合、本来の機能を達成することが出来なくなる恐れが生じてきました。

以上のことから、次年度、直流開閉器盤及び遮断器（MC7）の更新を行い、機器故障による運行阻害の防止と設備の健全性維持を行います。

著しく腐食が進行している基地の直流開閉器盤

【課題・目標】

設置から長期の使用により開閉器盤の広範囲に錆が発生している状態で、安全性の確保のため常に正常に機能するよう、設備状況を勘案しながら優先度を持ち、更新を実施します。

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

■ 有
□ 無

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段:繰越(外数)						0
事　業　費	12,840		0	0	0	
債務負担設定						0

【 事 業 内 容 】	計 画 額
14 信号保安装置更新	1,234,092

中期経営計画 お客様に向けて（3）地下鉄施設の計画的補修

（1 事業目的・内容）

第三次開業区間（横浜～新横浜）、第四次開業区間（戸塚～舞岡）の信号保安装置（ATC装置、連動装置）は、運用開始後約30年経過しています。

これまでに経年劣化対策として、ATC装置については設置後10年を基準にオーバーホールにより延命化を行い、さらに20年を基準に部分更新を行いました。また、連動装置についても設置後15年を基準に部分更新を行い、これらの取り組みにより重大事故や運行阻害に直結する故障の発生はなく、安全性を確保して来ました。

しかし、設置後30年を経過することから、

○今後故障の増加が予測されること。
○装置を構成する主要部品がすでに製造中止となり、今後の修理対応が困難なこと。
○装置内の配線、コネクタ等にも劣化が進んでいること。

により全面更新が必要です。

更新にあたっては、安全性の確保と信頼性向上のため、最新技術を導入します。また、信号機器室の統合化による更新コストの削減、片倉町転てつ機の撤去、メンテナンスフリーの機器導入による維持管理費の削減等を図ります。

更新工事は、信号機器室単位で順次実施し、設備の更新によりお客様の安全輸送を確保します。

平成26・27・28年度　新横浜・片倉町信号機器室　全面更新予定（設置後32年）
平成29・30年度　戸塚信号機器室　全面更新予定（設置後32年）
平成31・32年度　上永谷車両基地信号機器室　全面更新予定（設置後28年）

信号装置	使用開始	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31～32年度
新横浜 片倉町	S60年3月	工事	撤去			
戸塚	S62年5月		設計	工事	撤去	
上永谷 車両基地	H4年2月				設計	工事

（2 更新による効果）

○機器老朽化による故障発生の低減と信頼性の向上
○将来の速度向上対応準備（下町～新横浜区間　70km/h→80km/h）
○更新費用の縮減・・[redacted]百万円（機器室統合：片倉町を新横浜に統合した場合）
○保守費の縮減
・信号機器室の統合化・・・・・・[redacted]人工／年
・片倉町の転てつ機撤去・・・・[redacted]人工／年

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」 第9章　第87条第3項　運転保安設備の保持
横浜市高速鉄道信号通信設備整備心得

（4 除却資産の有無）

■ 有　新横浜信号機器室（H28）、片倉町信号機器室（H28）、戸塚信号機器室（H30）、上永谷基地信号機器室（H32）
□ 無

（5 年次表）

	新横浜・片倉町	新横浜・片倉町	戸塚	戸塚	上永谷車両基地(31～32)	
	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段：繰越（外数）	0	0	0	0	0	0
事　業　費	845,680	1,234,092	[redacted]			
債務負担設定	214,565	0				

【 事 業 内 容 】	計 画 額
15 PTC運行表示盤更新	45,476

中期経営計画 ー

（1 事業目的・内容）

運行管理システム（PTC）の運行表示盤は、司令員に列車の運行状態を表示するとともに、現在の路線の状況全てを表示する表示盤であり、運行状態の監視や異常警報の確認など、司令業務を行うのに欠かせない設備です。

ブルーラインの運行表示盤は、H14年に設置してから約14年が経過しており、経年劣化部品（液晶ランプ、液晶パネルなど）を計画的に更新して使用しております。しかし、近年交換部品が製造中止となり入手困難なために修理に時間を要し、司令業務に影響を与えることもあります。H25年2月には液晶パネルの劣化により2つの画面で画面表示の色彩がずれてゴースト状態となり、復旧まで2か月近くそのままの状態で運用して頂きました。

以上のことから、運行表示盤を更新します。更新にあたっては、現在の70インチ3面の液晶パネルでの表示から、46インチの液晶ディスプレイを縦にして7枚横に並べる運行表示盤に変更します。これにより以下の利点があり、今後の保守においても有利となります。

利点１）経年劣化部品がなく、故障時は故障した液晶ディスプレイのみを交換すればよい。

利点２）汎用の液晶ディスプレイを使用するため、今後も入手可能であり、購入費用も液晶パネルより安価である。

利点３）液晶ディスプレイ7面を並べるため、1面のディスプレイが故障しても残り6面で表示ができる。

（2 前年度から変更・見直しした点）

〇H27年度に契約し、H28年度に債務負担を設定している事業です。

〇更新後は液晶ディスプレイを使用するため、定期交換部品がなく、故障時はディスプレイ交換で対応が可能です。

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」第9章　第87条　施設及び車両の保全

横浜市高速鉄道信号通信設備整備心得

（4 除却資産の有無）

■ 有　2002-00213　PTC装置　運行表示盤（H28年度全部除却）

□ 無

（5 年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段：繰越（外数）	0	0	0	0	0	0
事　業　費	0	45,476	0	0	0	45,476
債務負担設定	48,498	0	0	0	0	48,498

【 事 業 内 容 】	計 画 額
16 信号電源装置ユニット類更新	[redacted]

中期経営計画 ー

（1 事業目的・内容）

信号電源装置は、信号保安設備である連動装置、ATC装置、CTC装置、転てつ装置、信号装置などに安定した電力を供給して、列車運行の安全を確保するための装置です。

上大岡停車場の信号電源装置は、設置から約13年（2003年12月設置）が経過するため、ユニット類、コンデンサ、スイッチング回路などの経年劣化により故障が発生しやすい（期待寿命約10年）部品を更新し、故障の未然防止および信号保安設備の機能維持を図ります。

H27年度 なし
H28年度 上大岡信号機器室（2003年12月＝約13年）
H29年度 なし
H30年度 なし
H31年度 関内・伊勢佐木長者町信号機器室（2006年5月＝約13年）
H32年度 横浜信号機器室（2007年3月＝約13年）

○上大岡停車場 内訳

項 目	数 量	要求額
交換部品費	一 式	[redacted]
交換作業費	一 式	[redacted]
経費	一 式	[redacted]
小計		[redacted]
消費税（8%）		[redacted]
計		[redacted] [redacted]

（2 前年度から変更・見直しした点）

○H26年度の湘南台停車場と同様の更新です。
○更新計画に基づき、本体装置の更新予定年数（約20～25年）の1/2を目処に部品交換を実施します。
○コンデンサーの更新においては、従来型（期待寿命約5～7年）ではなく長寿命型（期待寿命約7～10年）を採用します。

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」第9章 第87条 施設及び車両の保全
横浜市高速鉄道信号通信設備整備心得

（4 除却資産の有無）

☐ 有
■ 無

（5 年次表）

	上大岡			関内・伊勢佐木長者町		
	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総 額
上段：繰越（外数）	0	0	0	0	0	0
事 業 費	0	[redacted]	0	0	[redacted]	[redacted]
債務負担設定	0	0	0	0	0	0

【 事 業 内 容 】	計 画 額
17 電子連動装置ユニット類更新	[redacted]

中期経営計画 ー

（1 事業目的・内容）

信号保安設備の一つである電子連動装置は、進路の構成や転てつ機の鎖錠など、停車場において列車の安全運行を確保するための装置です。

今回更新する上大岡停車場の電子連動装置は、設置後約13年（2003年12月設置）が経過しており、電子連動装置の主要構成品である各ユニットのコンデンサー、継電器その他の経年劣化部品（期待寿命10年）の更新を行うことで、信号保安設備の機能維持および故障の未然防止を図ります。

H27年度 なし
H28年度 上大岡信号機器室（2003年12月＝約13年）
H29年度 なし
H30年度 なし
H31年度 関内・伊勢佐木長者町信号機器室（2006年5月＝約13年）
H32年度 横浜信号機器室（2007年3月＝約13年）

○上大岡停車場 内訳

項 目	数 量	要求額
交換部品（ユニット類）	一 式	[redacted]
交換作業費	一 式	[redacted]
継電器更新	一 式	[redacted]
経費	一 式	[redacted]
小計		[redacted]
消費税（8%）		[redacted]
計		[redacted] [redacted]

（2 前年度から変更・見直しした点）

○H26年度の湘南台停車場と同様の更新です。
○更新計画に基づき、本体装置の更新予定年数（約20～25年）の1/2を目処に部品交換を実施します。
○電子連動装置で使用している継電器の更新については、直営作業にて交換します。
○コンデンサーの更新においては、従来型（期待寿命約5～7年）ではなく長寿命型（期待寿命約7～10年）を採用します。

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」第9章 第87条 施設及び車両の保全
横浜市高速鉄道信号通信設備整備心得

（4 除却資産の有無）

☐ 有
■ 無

（5 年次表）

上大岡　　関内・伊勢佐木長者町

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総 額
上段：繰越（外数）	0	0	0	0	0	0
事 業 費	0	[redacted]	0	0	[redacted]	[redacted]
債務負担設定	0	0	0	0	0	0

【 事 業 内 容 】	計 画 額
18 ATC装置ユニット類更新	[redacted]

中期経営計画	―

（1 事業目的・内容）

信号保安設備の一つであるATC装置は、列車の在線位置を検知して、先行列車に衝突しないよう各区間の許容速度を決定して列車に送信し、列車の安全運行を確保するための装置です。

今回更新する上大岡停車場のATC装置は、設置後約13年（2003年12月）が経過しており、経年劣化部品（期待寿命10年）である各ユニット内のコンデンサー、ローターリースイッチ、電源コンバータ、継電器を更新することで、設備の機能維持および故障の未然防止を図ります。

H27年度 なし
H28年度 上大岡信号機器室（2003年12月＝約13年）
H29年度 なし
H30年度 なし
H31年度 関内・伊勢佐木長者町信号機器室（2006年5月＝約13年）
H32年度 横浜信号機器室（2007年3月＝約13年）

○上大岡停車場 内訳

項 目	数 量	要求額
交換部品費	一 式	[redacted]
交換作業費	一 式	[redacted]
継電器更新	一 式	[redacted]
経費	一 式	[redacted]
小計		[redacted]
消費税（8%）		[redacted]
計		[redacted] [redacted]

（2 前年度から変更・見直しした点）

○H26年度の湘南台停車場と同様の更新です。
○更新計画に基づき、本体装置の更新予定年数（約20～25年）の1/2を目処に部品交換を実施します。
○ATC装置で使用している継電器の更新については、直営作業にて交換します。
○コンデンサーの更新においては、従来型（期待寿命約5～7年）ではなく長寿命型（期待寿命約7～10年）を採用します。

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」第9章 第87条 施設及び車両の保全
横浜市高速鉄道信号通信設備整備心得

（4 除却資産の有無）

□ 有
■ 無

（5 年次表）

	上大岡			関内・伊勢佐木長者町		
	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総 額
上段：繰越（外数）	0	0	0	0	0	0
事 業 費	0	[redacted]	0	0	[redacted]	[redacted]
債務負担設定	0	0	0	0	0	0

【 事 業 内 容 】	計 画 額
19 信号モニタ装置ユニット類更新	[redacted]

中期経営計画 ー

（1 事業目的・内容）

信号保安設備の一つである信号モニタ装置は、ATC装置や連動装置など各信号設備の状態を監視して故障や異常を表示するとともに、各信号設備の動作を記録して動作の解析や障害発生時の調査をおこなうためのモニタ装置です。

今回更新する上大岡停車場の信号モニタ装置は、設置後約13年（2003年12月）が経過しており、信号モニタ装置の主要構成品であるファクトリーコンピュータはすでにメーカのサポート期間も切れて交換部品が入手できず、修理ができない状態です。したがって、ファクトリーコンピュータや経年劣化部品（期待寿命10年）であるスイッチング電源や通信機器を更新することで、設備の機能維持および故障の未然防止を図ります。

H27 なし
H28 上大岡信号機器室（2003年12月＝約13年）
H29 なし
H30 なし
H31 関内・伊勢佐木長者町信号機器室（2006年5月＝約13年）
H32 横浜信号機器室（2007年3月＝約13年）

○上大岡停車場 内訳

項 目	数 量	要求額
交換部品費	一 式	[redacted]
交換作業費	一 式	[redacted]
経費	一 式	[redacted]
小計		[redacted]
消費税（8%）		[redacted]
計		[redacted] [redacted]

（2 前年度から変更・見直しした点）

○H28年度新規の事業です。
○更新計画に基づき、本体装置の更新予定年数（約20～25年）の1/2を目処に部品交換を実施します。

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」第9章 第87条 施設及び車両の保全
横浜市高速鉄道信号通信設備整備心得

（4 除却資産の有無）

□ 有
■ 無

（5 年次表）

上大岡　　関内・伊勢佐木長者町

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総 額
上段：繰越（外数）	0	0	0	0	0	0
事 業 費	0	[redacted]	0	0	[redacted]	[redacted]
債務負担設定	0	0	0	0	0	0

【 事 業 内 容 】 | 計 画 額

20 信号用電源装置鉛蓄電池購入

[redacted]

中期経営計画 ー

（1 事業目的・内容）

信号用電源装置は、信号保安設備である連動装置やATC装置などに安定した電源を供給する重要な装置です。

各信号機器室の電源装置は、下表に記載の年度に鉛蓄電池を長寿命タイプ（期待寿命9～12年）に全数交換しました。しかし、2015年1月に新羽駅の信号用電源装置において、使用開始から14年が経過した鉛蓄電池の劣化が原因で電源装置の故障が発生して、運行障害が発生しました。また、鉛蓄電池の期待寿命に近づいて劣化が目立ってきていることから、停電時に15分以上の電源供給を維持し、電源故障を未然に防止するためにも、鉛蓄電池の交換が必要です。

	交換年度	稼働年数	全セル数	警告値	寿命値	備考
センター北	2002	14	39	12	6	
上永谷基地	2001	15	15	2	2	
新羽基地	2003	13	15	0	0	

センター北駅鉛蓄電池 設置状況

今回、期待寿命を迎えた鉛蓄電池を更新することで、信号保安設備の機能維持および故障の未然防止を図ります。

H27年度 新羽駅信号用電源装置 鉛蓄電池更新（2001年＝14年）
H28年度 センター北駅信号用電源装置 鉛蓄電池更新（2002年＝14年）
上永谷車両基地信号用電源装置 鉛蓄電池更新（2001年＝15年）
新羽車両基地信号用電源装置 鉛蓄電池更新（2003年＝13年）
H29年度 なし
H30年度 関内駅・伊勢佐木長者町駅信号用電源装置 鉛蓄電池更新（2006年＝12年）
H31年度 横浜駅・湘南台駅信号用電源装置 鉛蓄電池更新（2007年＝12年）

○内訳

項 目	数 量	要求額
センター北 鉛蓄電池更新	一 式	[redacted]
上永谷車両基地 鉛蓄電池更新	一 式	[redacted]
新羽車両基地 鉛蓄電池更新	一 式	[redacted]
小計		[redacted]
消費税（8%）		[redacted]
計	[redacted]	[redacted]

鉛蓄電池 設置状況拡大

（2 前年度から変更・見直しした点）

○H27年度は更新計画に基づき、新羽駅信号機器室の鉛蓄電池（14年目）の更新しました。
○H28年度も更新計画に基づき、センター北駅・上永谷基地・新羽基地信号機器室の鉛蓄電池を更新します。

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」第9章 第87条 施設及び車両の保全
横浜市高速鉄道信号通信設備整備心得

（4 除却資産の有無）

☐ 有
■ 無

（5 年次表）

	新羽	センター北・上永谷・新羽		関内・長者町	横浜・湘南台	
	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総 額
上段：繰越（外数）	0	0	0	0	0	0
事 業 費	6,412	[redacted]	0	[redacted]	[redacted]	[redacted]
債務負担設定	0	0	0	0	0	0

【 事 業 内 容 】	計 画 額
21 無停電電源装置鉛蓄電池購入	[redacted]

中期経営計画 ー

（1 事業目的・内容）

信号用電源装置は、信号保安設備である連動装置やATC装置などに安定した電源を供給する重要な装置です。

川和車両基地信号機器室の電源装置は、2007年の設置時に長寿命タイプ（期待寿命9～12年）の鉛蓄電池を使用して設置しましたが、2014年度の点検時から内部抵抗値が警告値や寿命値を超えるものが見られ始め、使用開始から8年目の2015年9月の点検では、全180セルのうち25セルが警告値を超え、そのうち18セルが寿命値まで超えている状態です。

今回、設置後約9年経過した川和車両基地の鉛蓄電池を更新することで停電時に15分間以上の電源供給を維持するとともに、信号保安設備の機能維持および故障の未然防止を図ります。

川和車両基地 鉛蓄電池設置状況

○内訳

項　　目	数 量	要求額
鉛蓄電池更新	一 式	[redacted]
小計		
消費税（8%）		
計		[redacted]

（2 前年度から変更・見直しした点）

○H28年度新規の事業です。

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」第9章　第87条　施設及び車両の保全

横浜市高速鉄道信号通信設備整備心得

川和電気区より、内部抵抗値が規格値を越えたセルが多発していることから、蓄電池更新の要望がある。

（4 除却資産の有無）

☐ 有

■ 無

（5 年次表）

川和車両基地　　本線

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段：繰越（外数）	0	0	0	0	0	0
事　業　費	0	[redacted]	0	0	[redacted]	[redacted]
債務負担設定	0	0	0	0	0	0

【 事 業 内 容 】	計 画 額
22 センター北信号用電源装置整流器更新	[redacted]

中期経営計画 ー

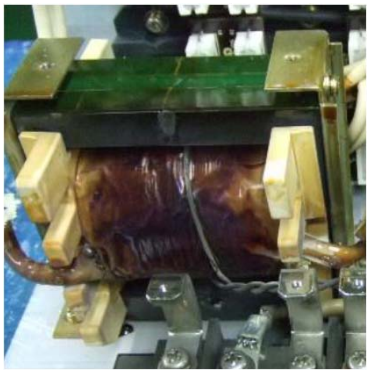
（1 事業目的・内容）

信号用電源装置内の整流器は、交流電源から信号保安設備である連動装置やATC装置用の直流電源を作る重要な装置です。

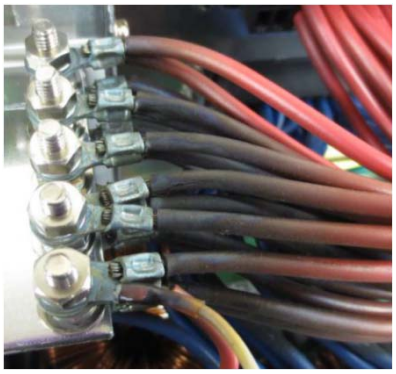
センター北駅信号機器室の電源装置は、1992年に設置して2008年にオーバーホールを実施して使用していましたが、2014年12月に整流器ユニットNo.2に故障が発生しました。メーカにて故障品を調査しましたが、製造から23年が経過していることから修理用部材が入手できず修理不能でした。さらに、端子部の腐食やトランスや内部配線に変色や熱変形が見られることから、他の整流器ユニットも同様な劣化状態であり、いつ故障が発生してもおかしくない状態です。

今回、センター北駅の整流器を更新することでH36年に予定している電源装置の更新までの延命化を図るとともに、信号保安設備の機能維持および故障の未然防止を図ります。また、センター北駅で装置から外した整流器ユニットをセンター北駅と同時期に設置したあざみ野駅の整流器ユニットの予備品に回すことで、あざみ野駅の整流器の延命化も図ります。

センター北駅 整流器外観
（歯抜けの箇所は故障したユニットの場所）



内部主トランス巻線部の変色



内部配線の被覆変色

故障した整流器ユニットの劣化状況

○内訳

項　　目	数 量	要求額
整流器更新	一 式	[redacted]
小計		
消費税（8%）		
計		[redacted]

（2 前年度から変更・見直しした点）

○H28年度新規の事業です。

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」第9章　第87条　施設及び車両の保全
横浜市高速鉄道信号通信設備整備心得
新羽電気区より故障した整流器ユニットの修理依頼があったが現物は修理できず、予備品もない状態であり、対応を求められている。
また、同時期に設置したあざみ野駅の整流器についても故障の恐れがあり、対応を求められている。

（4 除却資産の有無）

□ 有
■ 無

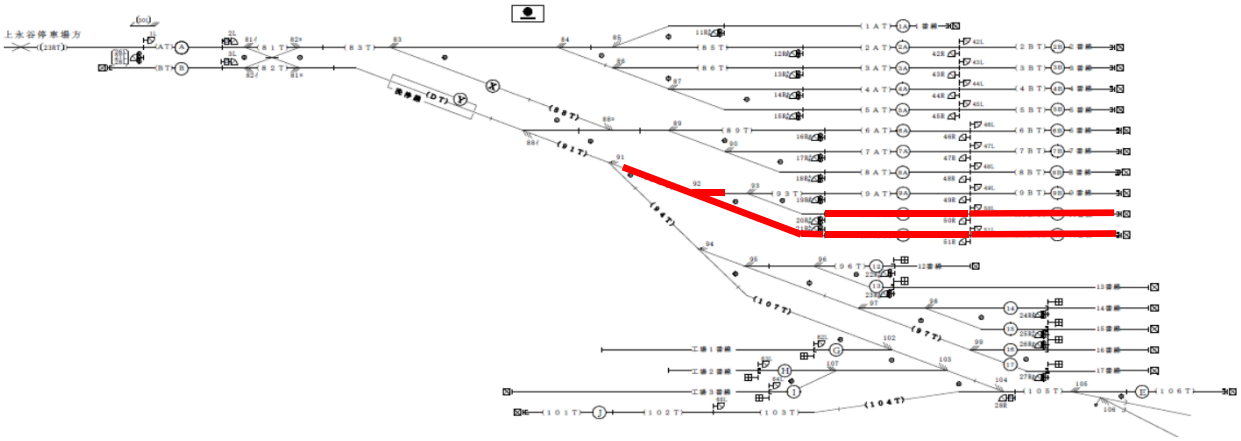
【 事 業 内 容 】	計 画 額
23 上永谷車両基地軌道回路不正こう上対策	[redacted]

中期経営計画 ー

（1 事業目的・内容）

上永谷車両基地では、50Hz軌道回路により列車在線を検知していますが、降雨後に10番線と11番線において、列車移動時に列車が在線しているにもかかわらず軌道回路が不正こう上（列車なしを検知）し、再度落下する軌道回路不良が発生しています。

軌道回路の再調整を実施しても降雨後に軌道回路不良が発生することから、電子連動装置内のLDC結線を変更して、軌道回路不良が発生する軌道回路のみ短絡感度不良対策（こう上時素を2秒から3秒に変更する対策）を実施します。



上永谷車両基地 軌道回路図

○内訳

項　　目	数 量	要求額
電子連動装置LDC結線改修 小計 消費税（8%）	ー 式	[redacted]
計		[redacted]

（2 前年度から変更・見直しした点）

○H28年度新規の事業です。

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

上永谷電気区および上永谷基地信号扱所より発生のたびに対策の実施を求められている。

（4 除却資産の有無）

□ 有

■ 無

【 事 業 内 容 】	計 画 額
24 電気転てつ機購入	[redacted]

中期経営計画 ー

（1 事業目的・内容）

電気転てつ機は、停車場構内にて列車の通り道を変えて所定の番線に進行させるための転換装置であり、信号保安装置と連動して安全を確保しています。

転てつ機は、正常動作を確保するために8年～12年でオーバーホールを行い、3回目のオーバーホールのタイミングで廃棄しています。H28年度の点検では、下記の2台の転てつ機が3回目のオーバーホールとなり廃棄となります。

〇踊場21ロ 1986年7月製（30年目）

〇新羽44ロ 1986年7月製（30年目）

今回、H28年度オーバーホール作業にて廃棄する2台の電気転てつ機を補充するために2台購入します。

転てつ機設置状況

転てつ機外観

〇内訳

項　　目	数 量	要求額
電気転てつ機本体	2 台	[redacted]
小計		
消費税（8%）		
計		[redacted]

（2 前年度から変更・見直しした点）

〇H27年度は川和基地信号冒進による背向割出で破損した転てつ機と据付用品の補充分として1台を購入しました。

〇H28年度は更新計画に基づき、オーバーホールにて廃棄となる転てつ機の補充分として2台購入します。

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」第9章 第87条 施設及び車両の保全

横浜市高速鉄道信号通信設備整備心得

（4 除却資産の有無）

☐ 有

■ 無

（5 年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総 額
上段：繰越（外数）	0	0	0	0	0	0
事 業 費	3,289	[redacted]	0	[redacted]	0	[redacted]
債務負担設定	0	0	0	0	0	0

【 事 業 内 容 】	計 画 額
25 光LAN用無停電電源装置更新	[redacted]

中期経営計画	―

（1 事業目的・内容）

【概要】

光LAN装置は、列車無線、指令電話、自動案内放送などの音声データや、設備指令、ATO、案内表示器情報などのデータを伝送する基幹光伝送路を構成する装置です。

装置本体を設置してから12年が経過し、前回の鉛蓄電池の更新からも5年が経過します。無停電電源装置の期待寿命は10年であり、期待寿命を経過しています。

このため、更新計画に基づき、平成28年度は光LAN用無停電電源装置本体5台（センター南駅・新羽駅・新羽車両基地・吉野町駅・弘明寺駅）、バッテリ7台（下永谷駅・戸塚駅・踊場駅・中田駅・立場駅・下飯田駅・湘南台駅）の購入・更新を行います。

【内訳】

購入費用　　単位：千円

項目	金額	数量	単位	合計	備考
無停電電源装置（本体）	[redacted]	5	台	[redacted]	
バッテリ	[redacted]	7	台	[redacted]	
税(8%)	[redacted]	1	式	[redacted]	
計				[redacted]	

[redacted]

（2 前年度から変更・見直しした点）

更新計画に基づく更新台数の増

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

所管電気区の要望

運転保安設備実施基準

信号通信設備整備心得

通信設備更新計画

（4 除却資産の有無）

■ 有　2004-00224, 2010-00445, 2010-00459

□ 無

（5 年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段：繰越（外数）						0
事　業　費	5,478	[redacted]				
債務負担設定						0

【 事 業 内 容 】	計 画 額
26 早期地震警報システム中央装置改修	[redacted]

中期経営計画 ―

（1 事業目的・内容）

【概要】

早期地震警報システムは、気象庁から配信される緊急地震速報を用い、独自の計算により市営地下鉄沿線への被害を予測します。大きな揺れが予想される場合には、列車無線装置と連携し列車を自動停止させます。さらに、エレベータの自動停止や駅構内への緊急放送を自動起動する機能も備えています。

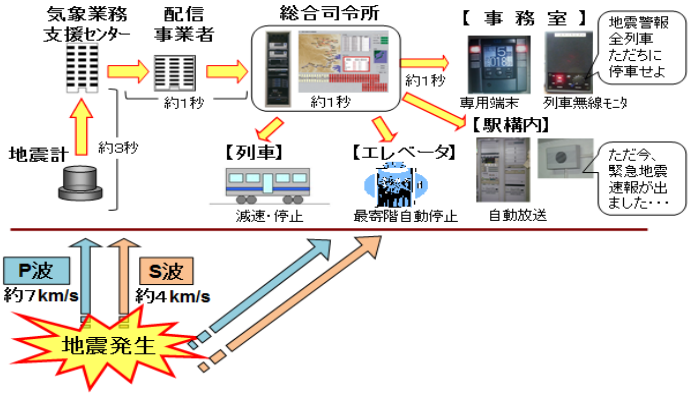
このシステムを構成する総合司令所設置の中央装置は、平成18年に導入後8年が経過し、機器寿命が過ぎています。また、メーカー保守部品の供給期間が終了しており、故障が発生した場合は、修理することが不可能であり長期間の動作停止となります。このため、更新計画に基づき、改修を行います。

【内訳】

項目	単価	数量	単位	合計
ルーター	[redacted]	2	台	[redacted]
接点出力装置	[redacted]	6	台	[redacted]
LED表示器	[redacted]	1	台	[redacted]
スピーカー	[redacted]	1	台	[redacted]
システム更新	[redacted]	1	式	[redacted]
作業費	[redacted]	1	式	[redacted]
経費	[redacted]	1	式	[redacted]
税(8%)	[redacted]	1	式	[redacted]
計				[redacted]

[redacted]

【構成】



（2 前年度から変更・見直しした点）

更新計画に基づく更新対象の増

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

信号通信設備整備心得

通信設備更新計画

（4 除却資産の有無）

■ 有　2006-00318

□ 無

（5 年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段：繰越（外数）						0
事　業　費	1,947	[redacted]	0	0	0	[redacted]
債務負担設定						0

【 事 業 内 容 】	計 画 額
27　放送装置更新工事	[redacted]

中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

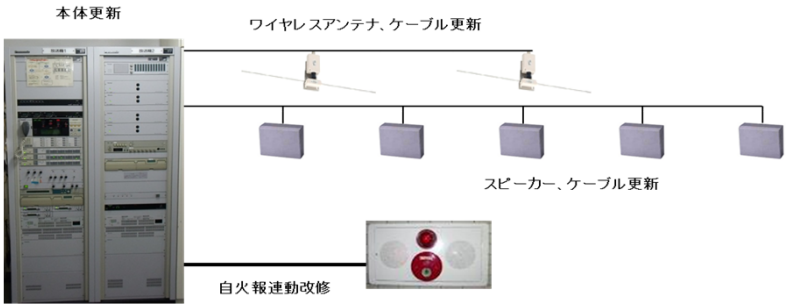
【目的】
放送設備の機能を維持し、駅の放送業務の改善と旅客サービスの向上を図ります。
故障時に迅速に復旧できるようにします。老朽化した放送設備では、修理部品が製造中止となり、故障が発生した場合は長時間に渡り駅全体の放送が停止してしまいます。

【目標】
放送装置は設置から20年が経過したものを順次更新しています。
平成28年度は阪東橋駅、上大岡駅の放送装置を更新します。
現在の放送設備は2駅とも現行消防法に対応済みのため、最小限の設備の更新とします。

阪東橋駅・・・大規模改良工事が予定されているため、放送機本体とワイヤレスアンテナ等を更新
上大岡駅・・・放送機本体と、ワイヤレスアンテナ用のケーブル等、一部のケーブルとスピーカを更新

【課題】
駅業務放送、自動案内放送、乗降促進放送等、各々の音量レベルを調整し、お客様に不快の念を与えないよう配慮します。
ワイヤレス放送のノイズ対策をします。

【機器構成】
非常放送機　　一式
スピーカー　　一式
ワイヤレス機器　　一式
自動火災受信盤改造　一式



【内訳】

	機器費	工事費	経費	消費税	合計
阪東橋	[redacted]				
上大岡					
計					

（2　前年度から変更・見直しした点）
更新計画に基づき、対象駅を更新（上大岡・阪東橋）
阪東橋駅は駅改良工事を考慮し、本体のみの更新を予定

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）
消防法および横浜市火災予防条例
乗務管理所からの乗降促進放送改善要望
駅務管理所からの上大岡駅ワイヤレス放送改善要望

（4　除却資産の有無）
■ 有　1986-0035,1988-0055,1994-9181,1994-9183,1996-0182,1992-0183,1992-0184,1996-0188
□ 無　2002-0107,2002-0111

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段：繰越（外数）						0
事　業　費	62,856	[redacted]		[redacted]		
債務負担設定						0

【 事 業 内 容 】	計 画 額
28　ITV装置用予備品の購入	[redacted]

中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

【概要】
ITV装置は、駅に設置している防犯カメラシステムのことで、各駅の改札廻り、主要駅のホーム等にカメラが設置してあり、駅事務室や司令所等のモニタで映像を見ることが出来ます。また、映像は7日以上保存してあり、障害時の状況確認などに利用しています。
現在、駅に設置されているカメラはブルーライン、グリーンライン合わせて900台を超えています。グリーンライン開業やワンマン運転等で導入した比較的新しいカメラでも設置から8年を超えているため、今後故障発生や修理できない機器の増加やが予想されます。
同時期に複数台故障することも想定されますが、そのような場合でも迅速に復旧作業が出来るよう、各種機器類について予備品が必要となります。
今後増加することが予想される故障に備え、発生の推移をみながら、継続して各種必要な予備品を購入します。
なお、列車運行に直接影響がある対列車画像伝送装置のカメラについては28年度に全て更新する予定です

【28年度購入予定の予備品】

品名	数量	単価	合計
監視カメラ	30 台	[redacted]	[redacted]
付属品ほか	1 式		
消費税			[redacted]
合計			[redacted]

（2　前年度から変更・見直しした点）
28年度は、駅構内の防犯カメラシステムを中心に予備品購入を行います。

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）
電気区からの要望

（4　除却資産の有無）
☐ 有
■ 無

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段：繰越（外数）						0
事　業　費	6,545	[redacted]				
債務負担設定						0

【 事 業 内 容 】	計 画 額
29　列車情報伝送装置改修	[redacted]

中期経営計画　お客様に向けて(7)ICTを活用したお客様への情報提供

(1　事業目的・内容)

【概要・目的】
列車情報伝送装置は、横浜市や交通局のお知らせ、ニュース提供機関から伝送された情報等を情報発信中央装置が収集し、駅に設置された情報発信端末から、地下鉄の車内情報表示器に情報を伝送する装置です。
現在、車上へ情報を送るための地上側設備が湘南台、桜木町、あざみ野の3駅にしか設置していないため、列車への情報伝送が約30分間隔となっており、刻々と変化する他社線の運行状況を配信することができませんでした。
今回、地上設備を3駅→8駅に増設して列車への情報伝送間隔を短くすることで、他社線の運行状況等をお客様へ情報提供することが可能となります。
28年度の改修では、地上設備増設のほか、老朽化した各種機器の更新を合わせて行います。

【地上設備設置駅】
約10分程度での情報更新を基本としますが、「急行の停車駅」、「電波法上送信機の屋外設置が出来ない」という条件から、以下の駅での情報更新を予定しています

● 現状
湘南台　－約36分－　**桜木町**　－約33分－　**あざみ野**

● 増設後(予定)
普通)　**湘南台**　－約11分－　**戸塚**　－約11分－　**上大岡**　－約12分－　**関内**　－約6分－　**横浜**
－約11分－　**新横浜**　－約2分－　**北新横浜**　－約12分－　**中川**　－約2分－　**あざみ野**
快速)　**湘南台**　－約11分－　**戸塚**　－約8分－　**上大岡**　－約8分－　**関内**　－約6分－　**横浜**
－約8分－　**新横浜**　－約13分－　**中川**　－約2分－　**あざみ野**

【内訳】

項　目	単位	単価	合計
中央装置、配信端末	一式	[redacted]	[redacted]
地上設備	一式	[redacted]	[redacted]
ソフト改修費	一式	[redacted]	[redacted]
設置・試験調整	一式	[redacted]	[redacted]
経費	一式	[redacted]	[redacted]
消費税	8%		[redacted]
計			[redacted]

(2　前年度から変更・見直しした点)
28年度新規事業

(3　根拠法令・規程、現場の意見等)
ブルーライン3000系新造・改修工程との整合

(4　除却資産の有無)
□ 有
■ 無

＊　中期経営計画スケジュール

お客様に向けて(7)ICTを活用したお客様への情報提供

	27年度	**28年度**	29年度	30年度
予定	方式等検討	地上側設備増設	6編成実施	6編成実施
実施	方式等検討	**地上側設備増設**		

(5　年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段:繰越(外数)						0
事　業　費		[redacted]				[redacted]
債務負担設定						0

【 事 業 内 容 】	計 画 額
30　対列車画像伝送装置用カメラ更新	[redacted]

中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

【概要・目的】

対列車画像伝送装置はワンマン運転の支援設備で、ホームITVカメラで撮影したお客様の乗降画像を、ミリ波送信機を使用した無線電波で車上に伝送するものです。運転士は、運転台のTVモニター装置に映し出される映像を確認し、ホーム柵及び列車ドアーの開閉操作を行います。
現在使用しているカメラは設置から9年が経過しているため故障が多くなってきており、また、メーカーの修理期間が終了してしまったため故障しても修理が出来ない状態です。
カメラが故障すると即列車運行に支障がでるため、来年度はブルーラインに設置しているカメラを全て更新し、列車の定時運行を確保します。

【カメラ映像】

ITVカメラ　2－4（CH1）　ITVカメラ　2－3（CH2）　ITVカメラ　2－2（CH3）　ITVカメラ　2－1（CH4）

【内訳】

	数量	単位	単価	合計
監視カメラ	227	台	[redacted]	[redacted]
作業費	96	人工		
経費	1	式		
消費税	8	%		[redacted]
計				

[redacted]

（2　前年度から変更・見直しした点）

28年度新規事業

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

乗務管理所・電気区からの要望

（4　除却資産の有無）

☐ 有
■ 無

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段：繰越（外数）						0
事　業　費		[redacted]				[redacted]
債務負担設定						0

【 事 業 内 容 】	計 画 額
31 VHF保守用無線(移動局)更新	[redacted]

中期経営計画 ー

(1 事業目的・内容)

保守用VHF無線局は、保守上の業務連絡に用いるほか、大規模災害発生時などの緊急連絡手段として、総合司令所や各保守管理所に通信所を置くほか、保守管理所の緊急自動車への車載局や携帯局などが配備されています。

しかし、

○各無線局は導入から20年以上経過したものが多く老朽化が進んでいる

○電波法令の改正(※1)により、多くの無線局が平成34年度以降は使用不可

以上のことから、無線局の更新を計画的に進めていきます。

●平成28年度は、製造から25年以上経過した車載局5局を更新します。

※1 平成17年にスプリアス発射の規格が改正され、平成19年11月までに製造された無線機は、平成34年11月まで使用できることとなっています。当局無線機は、免許の日の関係で平成33年5月までとなります。

写真例 : 移動局 (車載局 (よこはまこうつう3))

●課題

・各保守管理所に配置している可搬局・携帯局を適正な台数に見直しが必要

保守用無線電話装置更新 (実績・予定)

年度	平成25年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
更新内容	基地局 1局 (よこはまこうつうかみながや)	基地局 1局 (よこはまこうつうにっぱ)	車載局 5局	車載局 5局 可搬局 3局 携帯局10局	車載局 0局 可搬局 8局 携帯局10局	基地局 1局 (よこはまこうつうとつか)

○内訳

項 目	数 量	要求額
車載用無線局	5局	[redacted]
消費税(8%)	1式	
計		

【平成28年度更新内訳】

・よこはまこうつう1 上永谷電気区

・よこはまこうつう3 上永谷電気区

・よこはまこうつう7 上永谷施設区

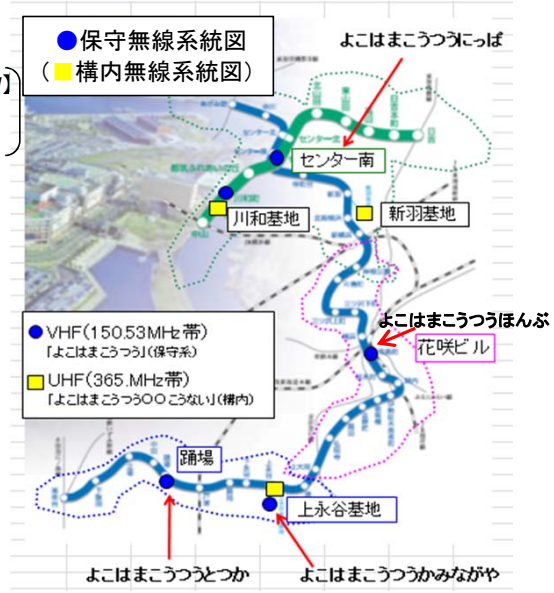
・よこはまこうつう9 上永谷検修区

・よこはまこうつう 6 川和 施設区

●現況数量

・基地局 4局 【花咲25W、踊場10W、センター南10W、上永谷基地5W】

・移動局50局
(車載10局 (上永谷4局、新羽3局、川和3局) 【25W、10W】
(可搬11局 (上永谷3局、新羽4局、川和1局、花咲3局)【10W】
(携帯29局 (上永谷12局、新羽12局、川和5局) 【5W、1W】



(2 前年度から変更・見直しした点)

H27年度は、老朽化したVHF無線基地局を更新

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

電波法施行規則第2条

無線設備規則別表第3号

(4 除却資産の有無)

□ 有

■ 無 資産登録なし(該当なし)のため

(5 年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総 額
上段:繰越(外数)						0
事 業 費	3,424	[redacted]				
債務負担設定						0

【 事 業 内 容 】	計 画 額
32 駅発報操作器改修	[redacted]

中期経営計画 ー

（1 事業目的・内容）

●現状

① 駅発報操作器は、各駅ホームに設置されており、操作時には、当該駅の列車無線基地局エリア内の「列車停止」及び、同基地局エリアの前後1変電所の『き電停止』を行うものです。

② ブルーラインは第三軌条方式であるため、お客様の軌道内立入時等の際には、安全確保のため、早急な「列車停止」と『き電停止』が必要となります。

現在、湘南台線（踊場～湘南台）以外の27駅においては、ホームに設置されている駅発報操作器により、「列車停止」の他に『き電停止』 ができますが、列車緊急停止装置では「列車停止」のみで『き電停止』を行うことができません。また、駅発報操作器の設置数（各駅2個程度）は、列車緊急停止装置（各駅4～6個）より少ないため、駅職員等の操作時において、『き電停止』まで時間を要します。

③ 湘南台線は、列車緊急停止装置は、駅発報操作器の機能（『き電停止』）を合わせもっています。

●事業内容

・ 上記27駅について、湘南台線と同様に、列車緊急停止装置の動作時に『き電停止』も行えるよう、列車無線設備の改修及び必要なケーブル布設等の工事を行います。（委託と工事に分割発注予定）

・ H28～29年度に、駅発報制御装置の改修委託を行います。（機器製作期間が8か月のため、H28年度の出来高は無し）

・ H28年度は、各駅ホーム設置の緊急停止装置～通信機器室まで、駅発報用ケーブルの布設工事を行います。

（千円）

駅発報設備改修委託 【H28～H29】（債務） （出来高） ・H28： 0%（機器製作期間） ・H29：100%	駅発報制御装置（機器費）	27	駅	[redacted]
	機器設置・配線・試験調整、現発報操作器撤去	27	式	[redacted]
	諸経費	1	式	[redacted]
	計（税抜）	1	式	[redacted]
	消費税(8%)	1	式	[redacted]
	計（税込）			[redacted]

上記に関わる工事 【H28】（単年度）	ケーブル布設（各緊停～通信機器室）等	27	駅	[redacted]
	諸経費	1	式	[redacted]
	計（税抜）	1	式	[redacted]
	消費税(8%)	1	式	[redacted]
	計（税込）			[redacted]

（2 前年度から変更・見直しした点）

新規事業

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

・駅発報設備は列車無線設備の一部であり、横浜市高速鉄道運転保安設備実施基準で定められているため、仕様変更を行うため運輸局への変更申請を行います。

・高速鉄道本部から、本件実施について要望あり

（4 除却資産の有無）

□ 有

■ 無

（5 年次表）

委託←→

工事←→

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総 額
上段：繰越（外数）	0	0	0	0	0	0
事 業 費	0	[redacted]	[redacted]	0	0	[redacted]
債務負担設定	0	[redacted]	0	0	0	[redacted]

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 施設課 担当者名: 鈴木

（単位:千円）

	28年度 A	27年度 B	増減(A−B)
予　算　額	823,787	2,507,528	△ 1,683,741

（単位:千円）

【 事 業 内 容 】	計 画 額
1 関内・桜木町間軌道改良工事	190,508

中期経営計画　お客様に向けて(3)地下鉄施設の計画的補修

(1 事業目的・内容)

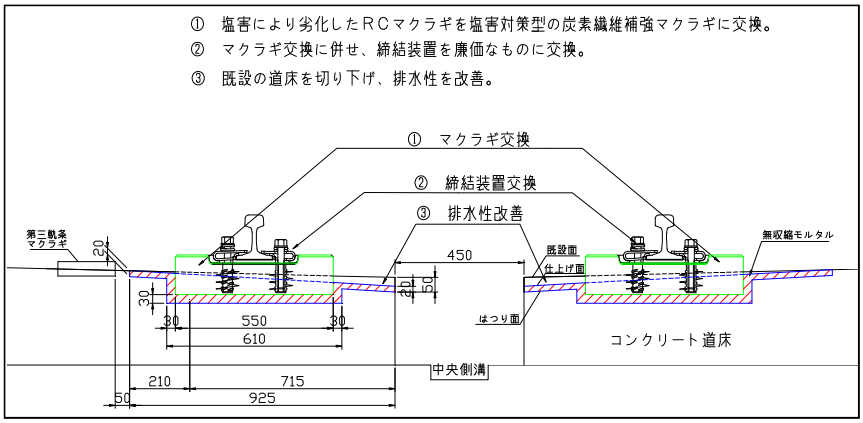
当該区間は、海に近接しているため、漏水に高い濃度の塩分が含まれており、軌道の鋼製部分の腐食により、レール、マクラギ、締結装置の損傷が著しく、列車走行の安全を確保することが困難な状況となっています。よって、新しい軌道構造をもつ軌道の更新工事を行います。

本工事は平成26年度下半期より工事を着手し、平成28年度上半期に完成予定となってます。

なお、本工事完了後、引き続き「関内～桜木町間(下り線)」の工事を進めるため、債務負担を設定します。

改良概要

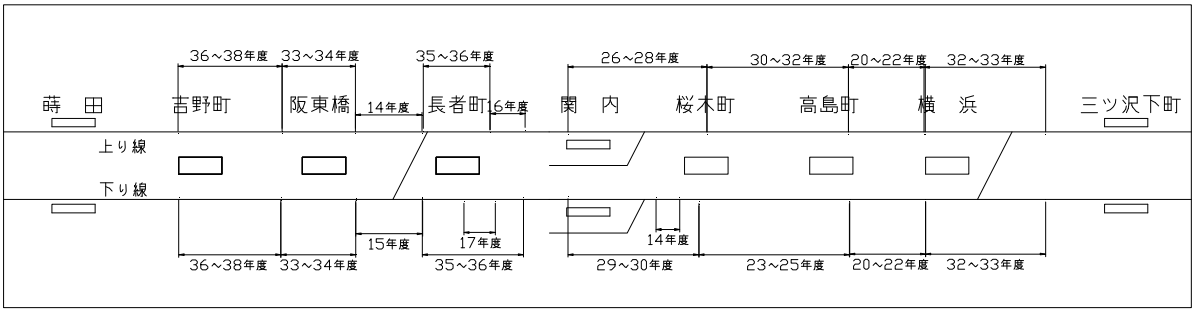
軌道の防錆能力を向上させる為、マクラギ、締結装置を交換し、コンクリート道床の排水性を改善します。



改良計画

本軌道改良事業は、塩害区間(横浜～吉野町間)の中で損傷の著しいか所を優先的に行っています。

軌道改良(道床切下げ及びＲＣマクラギ交換)計画図



(2 前年度から変更・見直しした点)

契約不調により、当初設計から控除した、関内分岐器改良工事分を計上しています。

(3 根拠法令・規程、中期経営計画、「現場の意見」 等)

(4 除却資産の有無)

☐ 有
☐ 無

(5 年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段:繰越(外数)						0
事　業　費	330,590	190,508				
債務負担設定						

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出　項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：施設課 担当者名：鈴木

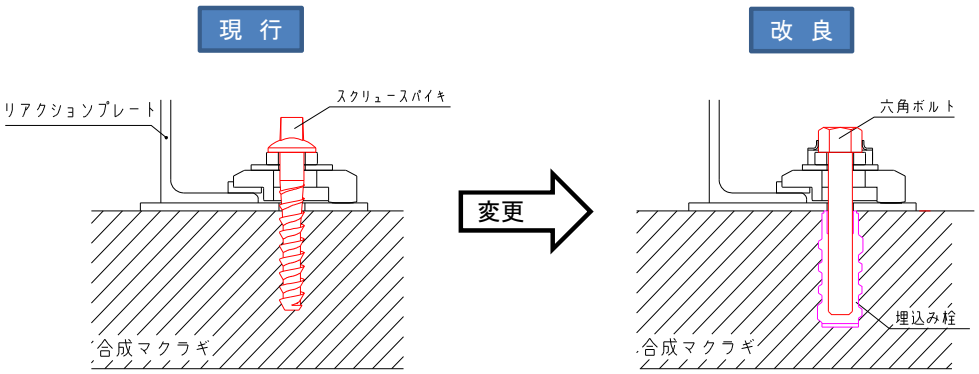
【事　業　内　容】	計　画　額
2　リアクションプレート締結装置改良工事	[redacted]

中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

リアクションプレート締結装置の改良は、現行のネジ釘（スクリュースパイキ）で締結する構造から、埋込栓を設置して、六角ボルトで締結する構造に変更するものです。
採用に当たっては、試験施工、引抜試験を行い、その強度が設計の4倍以上（40kN）あることを確認しておりました。

経年劣化による引抜強度の変化を確認するため、H27年4月に試験施工か所（H24年3月施工）の引抜試験を行ったところ、4カ所のうち、1か所において、20kNという低い結果となりました。
原因を調査したところ、埋込栓事態に亀裂が発生していることがわかりました。
強度的には設計の2倍以上あるため、構造上の問題はありませんが、今後、亀裂の進行等、劣化が懸念されるため、改めて、強度の高い埋込栓に交換します。



【不具合調査】
平成25年度及び平成26年度に改良したか所の埋込栓を調査した結果、以下の通り埋込栓の不良が確認されました。
平成25年度　車両基地内　　約4割　330 × 0.4 ＝ 132か所
平成25年度　本線　　約2割　370 × 0.2 ＝ 74か所
平成26年度　車両基地内　1か所／196か所

＜事業費内訳＞　（単位:千円）

項目	単価	数量	単位	金額	備考
材料費	[redacted]	206	個	[redacted]	
埋込栓改良（本線内）	[redacted]	74	か所	[redacted]	
埋込栓改良（車両基地内）	[redacted]	132	か所	[redacted]	
諸経費				[redacted]	
計				[redacted]	
消費税				[redacted]	
合計				[redacted]	
予算調整額				[redacted]	
計画額				[redacted]	

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）
☐ 有
☐ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出　項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：施設課 担当者名：鈴木

【事　業　内　容】	計　画　額
3　継目部軌道改良工事	[redacted]

中期経営計画	―

（1　事業目的・内容）

軌道は、通常1本あたり25mのレールを継目板と継目板ボルトによって繋ぎ合わせていますが、その部分をレール継目部と呼んでいます。この継目部分は、列車の通過による衝撃が大きいため、継目板の切損及び継目落ちが発生しやすく、これが増大すると列車の上下動が大きくなり、乗り心地の悪化や、振動、騒音が発生し、近隣からの苦情の原因ともなっています。そのため、常に直営又は外注工事にて補修を行っています。

本工事は、継目落ち対策として、既存のマクラギを縦マクラギ交換するもので、絶縁継目部の改良は平成25年度に試験的に施工を行っており、その後の経過観察において、継目落ちの解消が確認されていることから、平成27年度に引き続き、平成28年度においても継目落ちの著しいか所4か所の改良を行います。

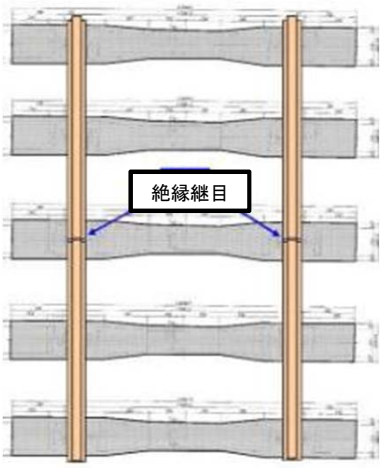
【絶縁継目部】＜事業費内訳＞　（　円　）

1か所当たり		単　価	数量	単位	金　　額
材料費					[redacted]
			1	式	
工事費					
	道床交換		1	式	
	マクラギ交換		1	式	
	レール破線・復旧		1	式	
	レール溶接	[redacted]	6	か所	
	軌道整備	[redacted]	50	m	
	計				
	諸経費（55.7%）				
	電気設備工事費				
	諸経費（44%）				
	合計				
	消費税（8%）				
	合計				
1か所あたり合計					

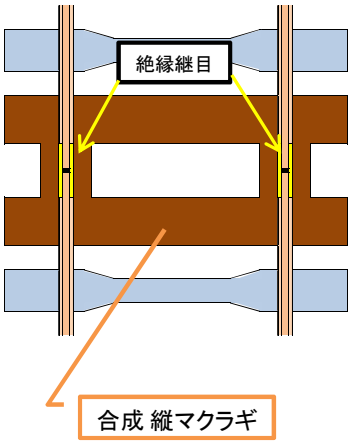
（千円）

4か所当たり	[redacted]
予算調整額	
計画額	

改良前



改良後



施工場所

1号線上り
　8k470m（上永谷構内）
1号線下り
　8k777m（上永谷構内）
3号線上り
　17k550m（センター北構内）
3号線下り
　17k550m（センター北構内）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段：繰越（外数）						0
事　業　費	25,473	[redacted]				
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

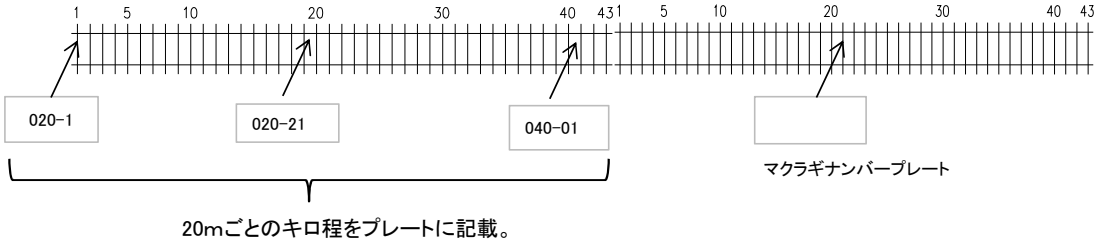
予　算　科　目	担　　当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 施設課 担当者名: 鈴木

【 事 業 内 容 】	計 画 額
4 マクラギナンバープレート設置工事	[redacted]
中期経営計画	―

（1 事業目的・内容）

現在、マクラギの管理は、レールナンバーを基に管理していますが、近年レールの損傷個所を重点的に交換していたことで新たなレールの溶接箇所等が増え、レールナンバーからマクラギを管理していくことが難しい状況にあり、これからはマクラギごとにキロ程を利用し独立した管理が必要となります。
その為、マクラギにナンバープレートを約20mに2枚の割合で取付ける工事を三か年で行います。

管理方法(例)



項目	単価	数量	単位	金額
材料費(プレート代)		1	式	[redacted]
労務費		1	式	[redacted]
諸経費		1	式	[redacted]
工事費計				[redacted]
消費税及び地方消費税額		1	式	[redacted]
合計(3か年計)				[redacted]
予算調整額		1	式	[redacted]
計画額		1	式	[redacted]

（2 前年度から変更・見直しした点）

H27年度（3号線工事＋3号線材料）・H28年度（1号線工事＋1号線材料）・H29年度（4号線工事＋4号線材料）
の予定であったが、3号線工事入札不調のため、
H27年度（3号線材料）・H28年度（1・3号線工事＋1号線材料）・H29年度（4号線工事＋4号線材料）

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

（4 除却資産の有無）

□ 有
■ 無

（5 年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
事　業　費						
上段:繰越（外数）	5145	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
債務負担設定						

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 施設課 担当者名: 鈴木

【事業内容】	計画額
5　工事用車両新規購入及び更新	124,618

中期経営計画　ー

（1　事業目的・内容）

1号線で使用している、建築限界測定車2号車が購入から24年が経ち、老朽化しているために更新します。
また、道床清掃車についても購入から23年が経ち、老朽化しているために更新します。
なお、モーターカー2台については、平成27年度に契約済みで、債務負担を設定しています。

〈平成31年度までの工事用車両更新計画（ブルーライン用）〉

種別	車番	購入年月	使用年数	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
モーターカー	M-5	H5年3月	23年			更新		
	A-5	H3年3月	25年					
	A-6	H3年3月	25年					
	A-7	H3年3月	25年					
	A-8	H3年3月	25年					
	C-1(15t)	S62年3月		廃車				
	C-2(15t)	S63年3月	27年					
	C-3(20t)	H3年3月						
	C-4(20t)	H3年3月	25年			更新		
	C-5(15t)	H17年12月	10年					
	C-7(15t)	H22年3月	6年					
	C-8(20t)	H23年3月	5年					
	C-9(15t)	H24年7月	3年					
	C-10(20t)		0年		○			
	C-11(20t)		0年		○			
道床清掃車	№2 温水	H5年3月	23年		更新			
軌道清掃車	№4　超高圧	H22年3月	6年					
	T-6	H8年9月	19年				更新	
	T-9	H24年7月	3年					
	T-10	H24年7月	3年					
	T-11	H25年3月	3年					
	T-12	H25年3月	3年					
	T-13	H26年3月	2年					
	T-14	H27年度末予定	0年	○				
	T-15	H27年度末予定	0年	○				
作業台車	№3	H1年3月	27年					
	№5	H13年9月	14年					
	№7	H21年10月	6年					
	№8	H24年7月	3年					
	№9	H27年3月	1年					
ダンプトロ	D-7	H3年3月	25年			今後の工事計画により更新あり		
	D-8	H3年3月	25年					
	D-9	H3年3月	25年					
	D-10	H8年11月	19年					
	D-11	H8年11月	19年					
	D-12	H8年11月	19年					
レール運搬トロ	TR4,5,6	H26年3月	2年					
マルチプルタイタンパー	マルタイ1	H5年5月	22年		廃車			
マルチプルタイタンパー	マルタイ2	H27年5月	0年	○				
軌道検測車	№2 プラッサ	H5年5月	22年			廃車		
軌道検測車Bトラ	№4　日立	H25年8月	2年					
建築限界車	№1	H28年3月	0年	更新				
	№2	H4年2月	24年		更新			

モーターカー

千円

項目	単価	数量	単位	金額
モーターカー　2台	[redacted]	2	台	[redacted]
道床清掃車	[redacted]	1	台	[redacted]
消費税及び地方消費税額		1	式	9,938
合計				134,163
予算調整額				−9,545
計画額				124,618

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

■ 有
□ 無

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
事　業　費						
上段:繰越（外数）	64,476	124,618	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
債務負担設定	100,872					

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出　項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：施設課 担当者名：鈴木

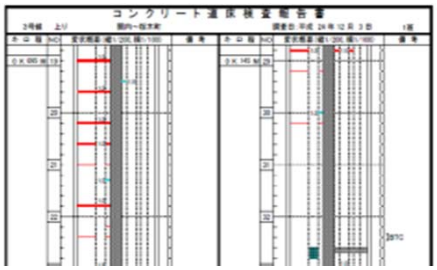
【　事　業　内　容　】	計　画　額
6　軌道管理システム検査項目新規追加ほか改良	[redacted]

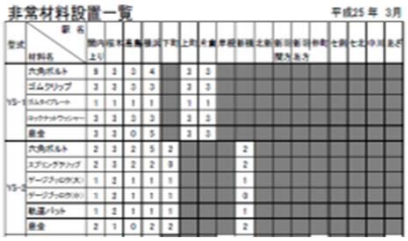
中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

1　道床検査及び非常工具検査システム追加

現在、道床検査（コンクリート・バラスト）及び非常工具検査は、軌道管理システムの検査項目に入っていません。
そのため、検査担当者が独自のエクセルシートで管理を行っており、検査基準日の管理がされにくかったり、職員間の共有がされにくい状況となっています。
そのため、軌道管理システムの検査項目に本検査を追加することで、検査計画の作成や過去の結果確認を行えるようにし、また、職員間の共有を確実に行えるようにします。
本検査以外は軌道管理システムへ導入・運用されており、残りの本検査のシステムへの新規追加を要求します。

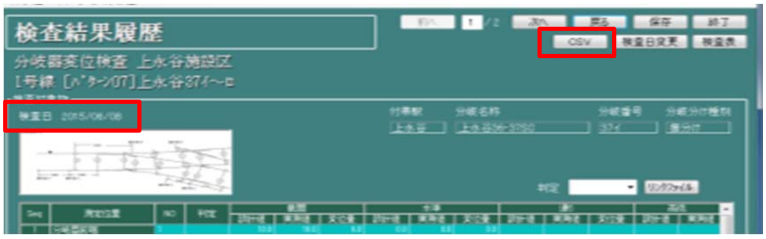




現在のｴｸｾﾙ管理

2　検査結果のCSV出力機能の追加

現在、検査結果データの出力は、検査項目の検査日ごとにしかCSV出力することができません。
そのため、検査データを用いて補修計画を検討したり、緊急対応時に検査データを確認したいときには、該当するデータごとに検索してひとつひとつ出力しなければなりません。
そこで、出力範囲（検査期間や検査場所）を指定してCSV出力できるようにし、作業効率の向上や迅速な対応をできるようにします。



現在は検査項目の検査日ごとに検索してCSV出力

3　検測図の側線区間の表示機能追加

現在、検測車で測定した側線区間（出入庫線）の分析処理は行えるますが、検測図（波形図）の出力はできません。そのため、現在は数値でのみの管理となっています。
検測図の表示機能を追加することで、波形図を用いた側線区間の管理により軌道状態の把握をできるようにします。

項目	単価	数量	単位	金額
道床検査及び非常工具検査システム追加		1	式	[redacted]
検査結果のCSV出力機能		1	式	[redacted]
検測図の側線区間の表示機能追加		1	式	[redacted]
操作説明会・諸経費等		1	式	[redacted]
小計				[redacted]
消費税及び地方消費税額		1	式	[redacted]
合計				[redacted]
予算調整額		1	式	[redacted]
計画額				[redacted]

（2　前年度から変更・見直しした点）
（3　根拠法令・規程、現場の意見等）
（4　除却資産の有無）
☐ 有
☐ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 施設課 担当者名: 鈴木

【 事　業　内　容 】	計　画　額
7 レール温度測定装置購入	[redacted]

中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

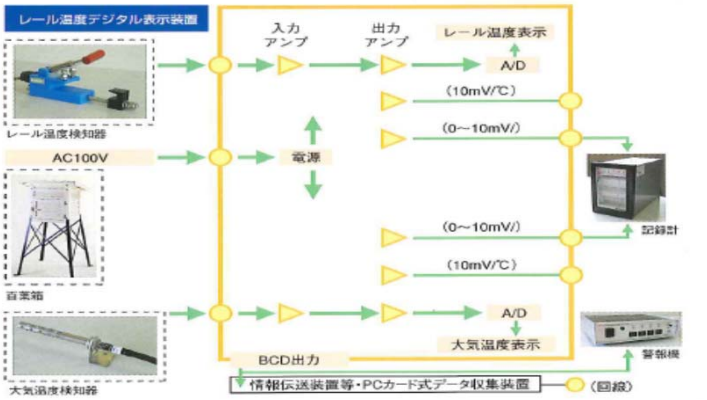
レールは夏場などの高温時にレールが伸びることで張出し（歪み）が発生し、列車の安全に支障をきたす恐れがあります。そこで、レールの張出しを防止するため、「レール温度測定装置」を設置し、レールの温度監視を行っています。

現在、レール温度測定装置は、3号線にのみ設置されており、1号線及び4号線の温度監視は3号線の温度を基準としています。

しかしここ近年、異常気象等により、局地的な天候の変化が見られています。そのため、3号線のみの監視では1号線及び4号線の正確な温度を把握できないため、安全性を確保するため、1号線及び4号線にも設置します。

現在のレール温度及び大気温度表示計

現在設置されている百葉箱



項目	単価	数量	単位	金額
レール温度測定装置	[redacted]	2	台	[redacted]
消費税及び地方消費税額		1	式	
合計				
予算調整額		1	式	
計画額				

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

☐ 有
☐ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 施設課 担当者名: 鈴木

【 事 業 内 容 】	計 画 額
8 上永谷出入庫線レール塗油器更新	[redacted]

中期経営計画	―

（1 事業目的・内容）

上永谷車両基地から本線へ向かう出入庫線には急曲線があり、そこを列車が通過すると車輪の摩耗が進行したり、夜間の保守用車両の通過により騒音が発生して近隣住民への影響があります。
そこで現在、車輪とレールとの摩擦を低下させて車輪の摩耗の進行を抑えたり、騒音発生の抑制を目的として、この急曲線にレール塗油装置を設置しています。

しかし、このレール塗油器は設置から20年以上が経過しており老朽化がすすみ、塗布装置に不具合が生じて塗油されない状況が発生する場合があります。
そのため、今回更新をします。

レール塗油器設置状況

塗布装置

項目	単価	数量	単位	金額
レール塗油器	[redacted]	1	台	[redacted]
消費税及び地方消費税額		1	式	
合計				
予算調整額		1	式	
計画額				

（2 前年度から変更・見直しした点）

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

（4 除却資産の有無）

☐ 有
☐ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 施設課 担当者名: 鶴岡・伊藤

（単位:千円）

【事業内容】	計画額
9 さらなる耐震補強工事	[redacted]

中期経営計画　お客様に向けて（1）災害対策① 地震に強い地下鉄の実現

（1 事業目的・内容）

兵庫県南部地震以前に作られた構造物については、旧運輸省の通達により、耐震補強としてラーメン高架橋・橋りょうのRC柱、開削トンネルのRC中柱の補強及び橋りょうの落橋防止工を平成7～15年度に実施して完了しています。

今後は、首都圏の大規模地震が想定されているため、地震時における列車運行の早期再開を目指して、さらなる耐震補強を実施します。

○耐震補強対象区間　戸塚駅～あざみ野駅区間
○耐震補強対象構造物　ラーメン高架橋、橋りょう、開削トンネル
○耐震補強の進め方　耐震補強の必要性を判断（耐震性能診断設計）【H25年度より実施】
↓
耐震補強工事の詳細設計【H25年度より実施】
↓
耐震補強工事の実施【H27年度より実施】～H40まで

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
耐震調査・設計委託								～38年度
耐震工事	ラーメン・橋脚（高架部）							～40年度
	トンネル・駅部（地下部）							～34年度

▲ラーメン高架橋RC柱耐震補強実施済み状況

▲開削トンネルRC中柱耐震補強実施済み状況

（2 前年度から変更・見直しした点）

26・27年度と2回の不調があり全体計画の見直しを行った。

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

（4 除却資産の有無）

□ 有
■ 無

（5 年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総額
上段:繰越（外数）						
事業費	679,855	[redacted]				
債務負担設定	337,870					

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：施設課 担当者名：鶴岡・伊藤

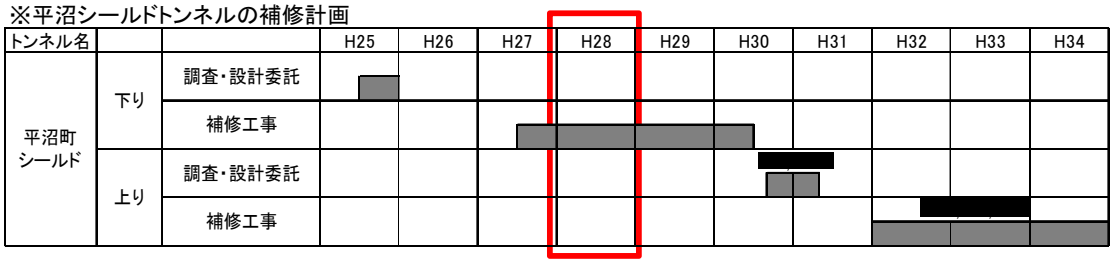
【事　業　内　容】	計　画　額
10　平沼町シールドトンネル補修工事	68,593

中期経営計画　お客様に向けて（3）地下鉄施設の計画的補修

（1　事業目的・内容）

高島町～横浜間の平沼町シールドトンネルは、開業後35年以上経過しており、塩害及び経年による劣化が見られるため、列車運行の安全性維持を目的として、計画的に補修を行います。

※平沼シールドトンネルの補修計画



▲ダクタイルセグメント劣化状況

▲合成セグメント劣化状況

（2　前年度から変更・見直しした点）

補修範囲・工法を変更により総事業費・工期の増となった。
下り線契約を受けて上り線の設計・工事金額の変更を行った

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段：繰越（外数）						
事　業　費	226,619	68,593	1,270,545			
債務負担設定						

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：施設課 担当者名：鶴岡・伊藤

【事　業　内　容】	計　画　額
11　大江橋シールドトンネル補修工事	20,735

中期経営計画　お客様に向けて（3）地下鉄施設の計画的補修

（1　事業目的・内容）

関内～桜木町間の大江橋シールドトンネルは、開業後35年以上経過しており、塩害及び経年による劣化が見られるため、列車運行の安全性維持を目的として、計画的に補修を行います。

※大江橋シールドトンネルの補修計画

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
調査・設計委託	上下線					
補修工事	上り線					
	下り線					

▲ダクタイルセグメント劣化状況

▲合成セグメント劣化状況

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段：繰越（外数）						
事　業　費	0	20,735	1,040,500	1,040,500	520,357	2,622,092
債務負担設定	2,843,087	2,601,357				5,444,444

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：施設課 担当者名：鶴岡・伊藤

【事　業　内　容】	計　画　額
12 高架橋高欄部補修工事	[redacted]

中期経営計画　お客様に向けて（3）地下鉄施設の計画的補修

（1　事業目的・内容）

ブルーライン新羽出入庫線及びセンター南北間の高欄で老朽化によりコンクリートの剥離が発生しています。高欄下は歩行者が通行するところもあり危険な状態です、そのために27年度に調査設計委託を行い28年度から3年計画で工事を行います。

※高架橋高欄部補修工事

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
調査、設計、		[redacted]		
新羽出入庫線	[redacted]			
センター南北線				
		[redacted]		

▲新羽出入庫線コンクリート剥離箇所

▲センター南北間コンクリート剥離箇所

（2　前年度から変更・見直しした点）

調査設計委託を行い補修方法、工期を見直しを行った。

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段：繰越（外数）						
事　業　費	9,418	[redacted]				[redacted]
債務負担設定		[redacted]				[redacted]

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：施設課 担当者名：鶴岡・伊藤

【事　業　内　容】	計　画　額
13 鳩除け工事	[redacted]

中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

お客様からの鳩フン被害に対するご意見が多いため、橋梁構造物等に鳩除け設備（ネット、スパイク）を設置し、お客様満足度の向上を図ります。

▲鳩除けネット対策

▲鳩除けスパイク対策

お客様対応箇所	[redacted]
消費税（8%）	
計	

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段：繰越（外数）						
事　業　費	11,166	[redacted]				
債務負担設定						

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：施設課 担当者名：鶴岡・伊藤

【事　業　内　容】	計　画　額
14 ﾌﾛｰﾃｨﾝｸﾞｽﾗﾌﾞ転落防止施設設置工事	[redacted]

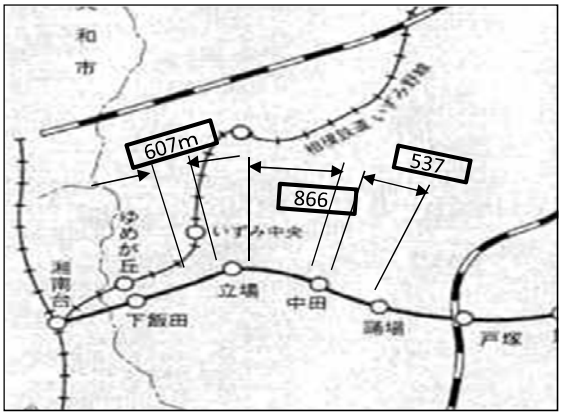
中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

踊場駅・下飯田駅間のトンネル区間に施工されたフローティングスラブ軌道の側道下側は、軌道面とシールドトンネル側部の間に、幅、深さ共に約80cmのすり鉢状に底部が窄まった隙間があります。保守作業において誤って転落、または、足をついた場合、非常に危険な状況になることから、転落を防止する施設を設置するため調査設計、工事を行います。

■フローティングスラブ転落防止施設設置工事

項目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
電気設備等作業台設置					
調査・工法選択委託					
調査設計委託					
転落防止施設設置工事			中田・踊場	中田・立場	立場・下飯田



▲当該区間平面図

▲作業台設置状況 【試験施工】

（2　前年度から変更・見直しした点）

以前から安全衛生委員会の懸案事項であった側道下の構築とフローティングスラブからの落下防止の対策を行うために検討を行いその後調査設計委託し3年計画で工事を行う。

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段：繰越（外数）						
事　業　費	12,010	[redacted]				
債務負担設定						

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：施設課 担当者名：鶴岡・伊藤

【事　業　内　容】	計　画　額
15　構造物ｺﾝｸﾘｰﾄ剥落箇所補修工事	[redacted]

中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

塩害区間で剥落の恐れのある個所の叩き落としを行ったところを計画的に補修を行うために今後の補修方法、安全性について調査設計委託を行いその後補修工事を行います。

▲対象箇所

1号線	上り	25	箇所
	下り	13	
3号線	上り	23	
	下り	23	
	計	84	

▲計画

工種	平成28年度
調査設計委託	[redacted]
工事	[redacted]

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段：繰越（外数）						
事　業　費		[redacted]				
債務負担設定						

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：施設課 担当者名：江田、小泉

（単位：千円）

【事　業　内　容】	計　画　額
16 保守管理所AED更新	[redacted]
中期経営計画	―

（1　事業目的・内容）

AEDは心停止時の初期対応として非常に有効であるとされ、横浜市でも平成21年より積極的にAEDの設置に取り組んでいます。
保守管理所では、お客様対応やはまりんフェスタのように外部の方を受け入れる機会もあるため、保守管理所ごとに1台設置しておりましたが、現在、設置されているAEDは購入から4年が経過し、メーカー保証年数5年が近づいております。
お客様や保守管理所職員の万が一に備えるために、耐用年数満了前の更新が必要と考えられます。

つきましては、緊急時における生存率を維持するために、更新を行うこととします。

現在設置されているAED（上永谷保守管理所）

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

横浜市救急条例第6条

（4　除却資産の有無）

☐ 有
☐ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：建築課 担当者名：金久、吉田、森

（単位：千円）

	28年度　A	27年度　B	増減(A−B)
予　算　額	1,605,912	2,949,443	△ 1,343,531

（単位：千円）

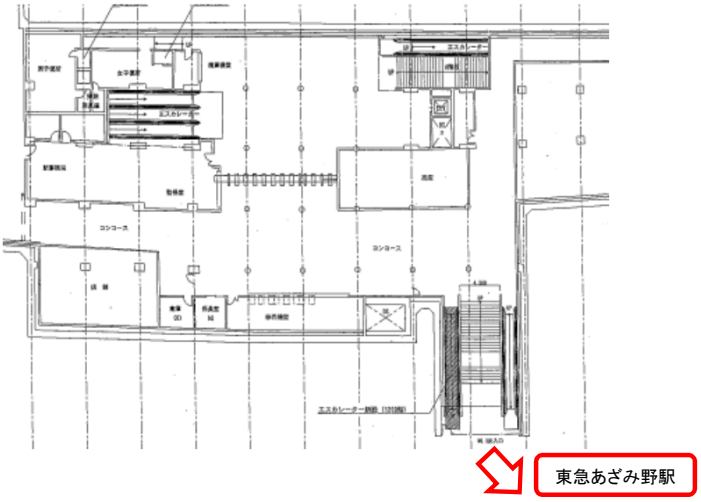
【事業内容】	計画額
1　あざみ野駅出入口ESC設置工事	[redacted]

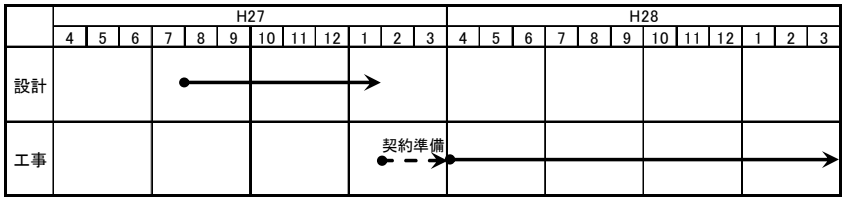
中期経営計画	お客様に向けて(22)乗り換え動線の円滑化

（1　事業目的・内容）

あざみ野駅第3出入口は、東急田園都市線との乗換えの主動線となっております。この乗換え動線には、上りエスカレーターのみ設置されており、高齢社会を迎えてお客様の利便性を図り、より使いやすい駅とするため、下りエスカレーターを設置するものです

H27年度に実施設計を行い、H28年度に設置工事に着工します。





（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：建築課 担当者名：金久、吉田、森

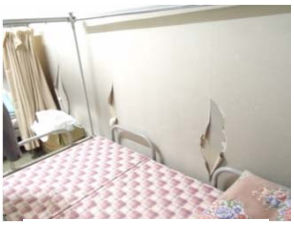
【事　業　内　容】	計　画　額
2　仲町台駅外壁補修その他工事	[redacted]
中期経営計画	―

（1　事業目的・内容）

仲町台駅は開業から20年以上が経過し施設の複数個所に不具合が発生しているため、大規模な補修工事を行い安全の確保と施設の長寿命化を図る必要があります。今回の補修内容は以下になります。特に①～④については外部足場を設置しての作業となり、まとめて施工する意義があります。

①外壁パネル補修
②屋根オーバーフロー管増設
③駅名標修理
④外壁装飾物撤去
⑤コンコースEXP.J更新
⑥コンコース内壁修理
⑦旅客用トイレブース更新
⑧屋根トップライト改修
⑨ホーム塗床ひび補修
⑩ホーム鳥除け対策
⑪仮眠室壁紙更新
⑫電気室漏水処理

トップライト付近の劣化状況


壁紙の剥離状況

電気室内の漏水箇所

（2　前年度から変更・見直しした点）

平成27年度は予算計上していませんが、改良費その他からの流用により設計業務を委託中です。

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：建築課 担当者名：金久、吉田、森

【　事　業　内　容　】	計　画　額
3　阪東橋駅改良工事（設計）	[redacted]

中期経営計画	―

（1　事業目的・内容）

阪東橋駅は、開業から約40年が経過し、躯体からの漏水の発生や、施設や設備機器が更新時期を迎えるなど、老朽化が進んでいます。
また、順次採用が予定されている女性職員のための女性用仮眠室を含む女性職員用施設の整備が必要となります。
そのため、H28年度に改良設計を行い、H29年度から改良工事に着手し、駅利用者へ快適な駅空間の提供を行うとともに、各種設備機器の更新も実施するものです。

税込

	H28年度	H29年度	H30年度
	設計		
		工事	
設計	[redacted]		
工事			
工事内訳			

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段：繰越（外数）						0
事　業　費		[redacted]				
債務負担設定						

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款:　12　高速鉄道事業資本的支出 項:　01　建設改良費 目:　05　改良費	所属:　建築課 担当者名:　金久、吉田、森

【　事　業　内　容　】	計　画　額
4　上永谷保守管理所仮眠室個室化その他工事	[redacted]

中期経営計画	―

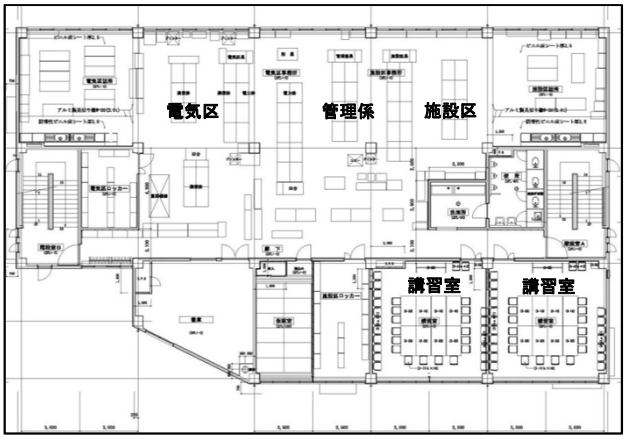
（1　事業目的・内容）

上永谷保守管理所の改修により、仮眠室の整備、事務室の内装改修するとともに、空調機の更新を行います。3階の諸室を仮眠室に改修し、不足分を補います。2階の事務室、仮眠室の天井・壁の塗装、及び廊下タイルカーペットを長尺塩ビシートに更新します。合わせて、空調機の更新により個別空調対応とし、便所を洋式化します。

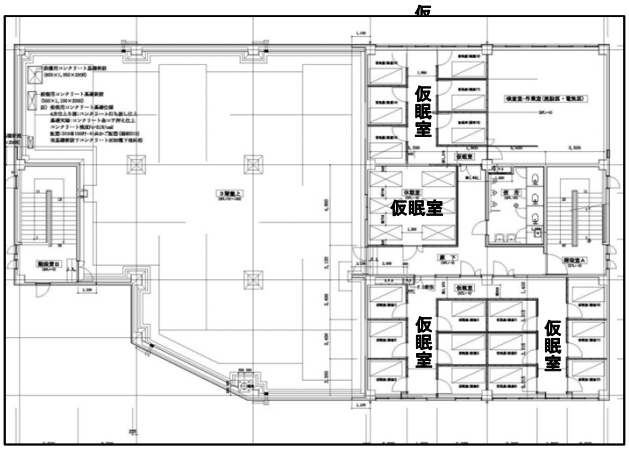
能力開発センター3階屋上周囲の立上り壁コンクリート補修を行います。

上永谷検修庫内職員便所より汚水配管を能力開発センター横の汚水桝に接続を行います。空気配管損傷により車両上部室外機エアー吹き清掃に支障をきたしているため改修。

修繕工場中水配管埋設部分より損傷があり漏水が発生しているため改修。



上永谷保守管理所　2階平面図（改修）



上永谷保守管理所　3階平面図（改修）

	H27	H28
設　　計	→	
工　　事	→	→

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 建築課 担当者名: 金久、吉田、森

【事業内容】	計画額
5 上永谷車両基地屋根防水改修その他工事	[redacted]

中期経営計画	―

（1 事業目的・内容）

上永谷車両基地屋根は平成元年に防水改修後、27年が経過し既に防水塗膜が剥がれているため、基地内において漏水が多発し、点検・修理などの日常業務に支障が出ております。
また、漏水により建物自体の腐食及び劣化が進行しており、屋根防水改修及び排水側溝改修、居室天井改修などの内部諸改修工事についてはH28年度に先行して工事を実施し、その他の改修工事についてはそれぞれH28年度に設計委託、H29年度に工事を行います。

（上永谷車両基地における工事の年度計画）

項目		平成27年度	平成28年度	平成29年度	備考
建築工事	屋根防水改修	設計（直営）	工事		本予算要求
	内部改修				
	床面補修		設計委託	工事	別途、予算要求
	鉄骨塗装				
	鳩対策				
設備工事	検査線空気配管改修		設計委託	工事	
	修繕工場3番線換気設備				
	信号扱所トイレの洋便化				
電気工事	灯具更新		設計委託	工事	

（2 前年度から変更・見直しした点）

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

（4 除却資産の有無）

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 建築課 担当者名: 金久、吉田、森

【事業内容】	計画額
6 上永谷車両基地改修工事(設計)	[redacted]

中期経営計画	お客様に向けて(3)地下鉄施設の計画的補修

(1 事業目的・内容)

上永谷車両基地は昭和51年の竣工から35年以上経過したことによる経年劣化や長年の漏水等により、車両基地内における点検・修理などの業務に支障が出ております。そのため、床面補修・門扉改修や天井などの灯具の更新に加え、建物の鉄骨の長寿命化のための塗装更新を行います。
この他、職場環境の改善として鳩対策や換気改善のための空調工事、信号扱所の洋便器化を行います。
なお、屋根防水改修及び排水側溝改修、居室天井改修などの内部諸改修工事については別途、H28年度に先行して工事を実施します。

(上永谷車両基地における工事の年度計画)

項目		平成27年度	平成28年度	平成29年度	備考
建築工事	屋根防水改修	設計(直営)	工事		別途、予算要求
	内部改修				
	床面補修		設計委託	工事	本予算要求
	鉄骨塗装				
	鳩対策				
設備工事	検査線空気配管改修		設計委託	工事	
	修繕工場3番線換気設備				
	信号扱所トイレの洋便器化				
電気工事	灯具更新		設計委託	工事	

(2 前年度から変更・見直しした点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

(4 除却資産の有無)

□ 有
■ 無

(5 年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総額
上段:繰越(外数)						0
事業費		[redacted]				
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

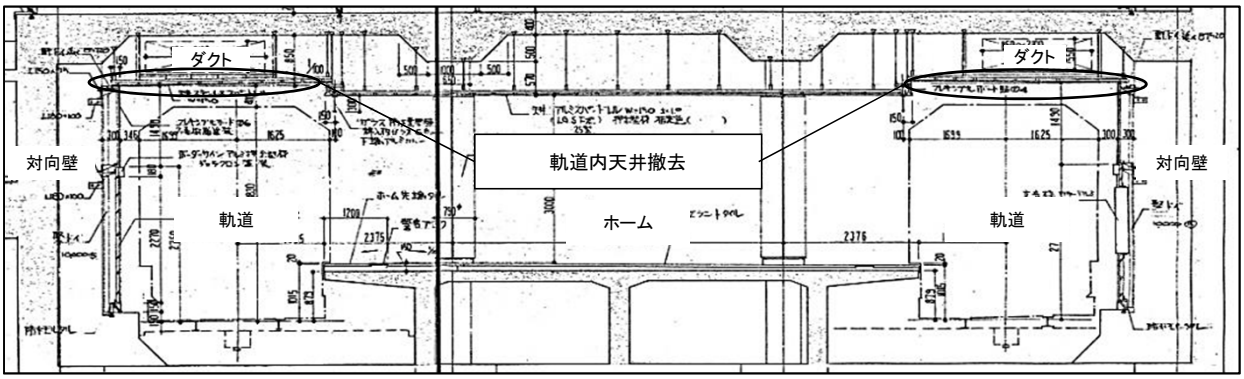
予　算　科　目	担　　当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 建築課 担当者名: 金久、吉田、森

【 事　業　内　容 】	計　画　額
7　軌道内天井撤去工事(設計)	[redacted]

中期経営計画	―

(1　事業目的・内容)

横浜駅及び戸塚駅軌道内にステンレススパンドレル天井が設置されていますが、設置年の昭和62年以降天井改良工事等行っていないため経年劣化等により落下の危険性がある状況です。これらの現状をふまえ本委託では、天井の撤去、下り壁新設、既設ダクトの保温材更新を行い、天井落下の危険性を取り除くものとします。



戸塚駅B3横断面図

(事業計画)

	H28	H29	H30
横　浜	-->		―>
戸　塚	-->	―>	
事業費	[redacted]		

設計　-> 　　工事　―>

(2　前年度から変更・見直しした点)

(3　根拠法令・規程、現場の意見等)

(4　除却資産の有無)

□ 有
■ 無

(5　年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段:繰越(外数)						0
事　業　費	0	[redacted]				
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：建築課 担当者名：金久、吉田、森

【事　業　内　容】	計　画　額
8　手洗所改良その他工事	[redacted]
中期経営計画　お客様に向けて(16)地下鉄駅設備のリニューアル	

（1　事業目的・内容）

建設当時から改良工事が実施されていないブルーラインの各駅トイレについて、劣化更新と現在の利用者ニーズに合わせたトイレ改良工事を順次進めております。本工事では、あざみ野駅及び三ツ沢下町駅について、段差やスロープの解消、多機能トイレの機能性向上、パウダーコーナーの設置、お子様用設備の充実を目的に改良工事を行います。

また、平成25年度末、あざみ野駅のホーム連絡階段壁でのタイルの剥離を受けて、既存タイル面の打音調査をした結果、タイル浮きが確認されました。平成26年度により緊急性が高いホームからホーム行き階段の緊急対策工事を行いましたので、残りの部分についてタイル補修を行います。併せてあざみ野駅において広告枠の増設を行います。

●トイレ改修年次計画（予定）

	H26	H27	H28	H29	H30
設計委託	関内(※)	あざみ野 下町第2	片倉町 阪東橋(※) 戸塚	上大岡(※)	－
改修工事	横浜	横浜 関内(※)	あざみ野 下町第2 関内(※)	片倉町 阪東橋(※) 戸塚	上大岡(※)

※駅の大規模改良工事に合わせて行う。

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 建築課 担当者名: 金久、吉田、森

【事業内容】	計画額
9　手洗所改良その他工事(設計)	[redacted]

中期経営計画	お客様に向けて(16)地下鉄駅設備のリニューアル

(1　事業目的・内容)

① 手洗所改良

昭和60年開業の片倉町駅、昭和62年開業の戸塚駅は開業以来大規模なトイレ改修を行っていないため、トイレの多機能化や段差解消等の福祉対策がなされていない状況です。また経年劣化に伴い、清掃や換気では除去しきれない臭気の滞留が課題となっており根本的対策が必要です。これらの現状をふまえ本委託では、障害者・高齢者対応設備の充実を図るとともに仕上面や設備配管類の全面リニューアルを行うことでお客様に清潔かつ快適に使用していただけるものとします。

●トイレ改修年次計画(予定)　　※駅の大規模改良工事に合わせて行う。

	H26	H27	H28	H29	H30
設計委託	関内(※)	あざみ野 下町第2	片倉町/戸塚 阪東橋(※)	上大岡(※)	―
改修工事	横浜	横浜 関内(※)	関内(※)/あざみ野 下町第2	片倉町/戸塚 阪東橋(※)	上大岡(※)

② 戸塚駅有人改札の混雑解消

戸塚駅有人改札は幅員が1m程度と狭く、お客様が案内所前で立ち止ると他のお客様が通行できない状態になってしまい人溜りができてしまう状況です。この現状をふまえ本委託では、案内所を移設し幅員を広げることによりお客様の通行に支障のないようにします。

③ 片倉町駅排水改修

片倉町駅出入口3地下1階エスカレーター前踊場から変電所入口前、階段下にかけ床に雨が降ると湧水がありお客様の通行に支障がある状況です。この現状をふまえ本委託では、側溝を新設し湧水を側溝に導水することでお客様の通行に支障のないようにします。

＜概算工事費＞

	件名	税込金額(千円)
①	手洗所改良	[redacted]
②	戸塚駅有人改札の混雑解消	
③	片倉町駅排水改修	
計		

(2　前年度から変更・見直しした点)

(3　根拠法令・規程、現場の意見等)

(4　除却資産の有無)

☐ 有

■ 無

(5　年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段:繰越(外数)						0
事　業　費		[redacted]				
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 建築課 担当者名: 金久、吉田、森

【事業内容】	計画額
10 BL駅壁面タイル改修工事	[redacted]

中期経営計画	お客様に向けて(3)地下鉄施設の計画的補修

(1 事業目的・内容)

平成25年度に実施した地下鉄全駅の壁面タイル打診調査において、各駅に部分的な壁面タイルの浮きが複数箇所発生していることが確認されました。そこで、お客様の安全を確保するため、壁面タイル補修工事を実施します。

H29年度以降も順次設計・工事を行ってまいります。

設計委託費・工事費　　単位:千円

	H27	H28	H29	H30
BL 蒔田、弘明寺、港南中央、戸塚	設計	工事		
BL 舞岡、下永谷、上永谷、上大岡、吉野町、伊勢佐木長者町、桜木町、高島町、横浜高島町運転事務室ほか改修		設計	工事	
BL 中川、仲町台、新羽、北新横浜、新横浜、岸根公園、片倉町、三ッ沢上町、三ッ沢下町、踊場、中田、立場、下飯田、湘南台 GL			設計	工事
設計委託費・工事費	6,480	[redacted]	[redacted]	[redacted]
計	6,480	[redacted]	[redacted]	[redacted]

(2 前年度から変更・見直しした点)

改修対象駅の入れ替え

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

(4 除却資産の有無)

□ 有
■ 無

(5 年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総額
上段:繰越(外数)						0
事業費		[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 建築課 担当者名: 金久、吉田、森

【事業内容】	計画額
11 BL駅壁面タイル改修工事(設計)	[redacted]

中期経営計画	お客様に向けて(3)地下鉄施設の計画的補修

(1 事業目的・内容)

平成25年度に実施した地下鉄全駅の壁面タイル打診調査において、各駅に部分的な壁面タイルの浮きが複数箇所発生していることが確認されました。そこで、お客様の安全を確保するため、壁面タイル補修工事を実施します。

H29年度以降も順次設計・工事を行ってまいります。

単位:千円

	H27	H28	H29	H30
BL 蒔田、弘明寺、港南中央、戸塚	設計	工事		
BL 舞岡、下永谷、上永谷、上大岡、吉野町、伊勢佐木長者町、桜木町、高島町、横浜高島町運転事務室ほか改修		設計	工事	
BL 中川、仲町台、新羽、北新横浜、新横浜、岸根公園、片倉町、三ッ沢上町、三ッ沢下町、踊場、中田、立場、下飯田、湘南台 GL			設計	工事
設計委託費・工事費	6,480	[redacted]	[redacted]	[redacted]
計	6,480	[redacted]	[redacted]	[redacted]

(2 前年度から変更・見直しした点)

改修対象駅の入れ替え

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

(4 除却資産の有無)

□ 有
■ 無

(5 年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総額
上段:繰越(外数)						0
事業費	6,480	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：建築課 担当者名：金久、吉田、森

【事　業　内　容】	計　画　額
12　駅案内サイン改修工事	[redacted]

中期経営計画	お客様に向けて(18)分かりやすく、使いやすい駅の実現

（1　事業目的・内容）

現状の駅案内サインの基本的な考えは、平成3年のあざみ野線開業時に策定されたもので、近年のコスト意識の変化や高齢化が進むにつれお客様のニーズに対応できなくなりました。特に一次開業駅は当時の筐体の表示面が小さく、情報量も多いため、文字が小さく読みにくい状況となっています。そこで、平成25年度、お客様により分かりやすく利用しやすい駅へと整備することを目的として、駅案内サインの基準となるサインマニュアルを見直し、全面改訂しました。

つきましては、新たなサインマニュアルの基準に基づき改修することで駅利用者の利便性向上を図ります。

なお、平成28年度については、一次開業駅の中間駅のうち弘明寺駅を対象として工事します。（平成27年度改修設計）

税込

	H27年度	H28年度
	設計	工事
工事	[redacted]	
工事内訳		

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：建築課 担当者名：金久、吉田、森

【　事　業　内　容　】	計　画　額
13　駅案内サイン改修工事（設計）	[redacted]

中期経営計画	お客様に向けて(18)分かりやすく、使いやすい駅の実現

（1　事業目的・内容）

現状の駅案内サインの基本的な考えは、平成3年のあざみ野線開業時に策定されたもので、近年のコスト意識の変化や高齢化が進むにつれお客様のニーズに対応できなくなりました。特に一次開業駅は当時の筐体の表示面が小さく、情報量も多いため、文字が小さく読みにくい状況となっています。そこで、平成25年度、お客様により分かりやすく利用しやすい駅へと整備することを目的として、駅案内サインの基準となるサインマニュアルを見直し、全面改訂しました。

つきましては、新たなサインマニュアルの基準に基づき改修することで駅利用者の利便性向上を図ります。

なお、平成28年度については、蒔田駅、港南中央駅、戸塚駅を対象として改修設計を実施し、平成29年度に工事を行います。

税込

	H28年度	H29年度
	設計	工事
設計	[redacted]	
工事		

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段：繰越(外数)						0
事　業　費		[redacted]				
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：建築課 担当者名：金久、吉田、森

【 事　業　内　容 】	計　画　額
14　段鼻改修工事	[redacted]

中期経営計画

（1　事業目的・内容）

本工事は、駅の階段における弱視の方に対する踏み外し防止のための工事です。1次開業及び2次開業の駅においては、階段の段鼻（踏面の先端）と踏面が一枚石で造られているため、段差の識別が警告シートを貼っていましたが、数年で剥がれてしまうため、メンテナンス費用・意匠的に課題となっておりました。

平成25年度の試験施工及び平成26年度の実施結果を踏まえ、通行の多い階段は、階段石に溝を彫り、エポキシ樹脂を流し込む仕様で施工します。

● 今後の更新計画

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	試験施工	実施済	実施予定	実施予定	実施予定
駅　名	横浜駅	横浜駅	横浜駅	戸塚・桜木町駅	長者町・吉野町
場　所	ホーム連絡階段	出入口5・コンコース連絡階段	各出入口・連絡階段	各出入口・連絡階段	各出入口・連絡階段
駅　名	新横浜駅	上大岡駅			
場　所	ホーム連絡階段	ホーム連絡階段・京急連絡階段			
		立場駅			
		出入口1			
		上永谷駅			
		出入口2			

戸塚駅現状

桜木町駅現状

横浜駅改修例

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：建築課 担当者名：金久、吉田、森

【事　業　内　容】	計　画　額
15　建具更新工事	[redacted]

中期経営計画	―

（1　事業目的・内容）

建具更新工事は、各駅その他施設に設置している扉や窓について、腐食の進行や老朽化により、修理対応では調整が不可能となった箇所の更新を行うものです。

○　更新概要

年度	該当施設	か所数	金額（千円）	備考
19	舞岡駅、弘明寺駅、関内駅、桜木町駅、横浜駅	6	5,649	
20	上大岡駅、伊勢佐木長者町駅	5	4,010	
21	上永谷駅、上永谷引込線、最戸変電所、阪東橋駅、関内駅、新横浜駅	6	4,485	
22	新横浜駅、片倉町駅、上永谷修繕工場、上永谷保守管理所	5	3,780	
23	（無し）	0	0	
24	伊勢佐木長者町駅、新横浜駅、センター北駅	3	4,500	
25	（無し）	0	0	
26	桜木町駅、矢沢中間換気所	2	1,104	
27	上大岡駅、吉野町駅、新羽乗務管理所（予定）	5	5,329	
28	伊勢佐木長者町駅、新羽駅、上永谷検修区	8	[redacted]	

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款:　12　高速鉄道事業資本的支出　項:　01　建設改良費 目:　05　改良費	所属:　建築課 担当者名:　金久、吉田、森

【　事　業　内　容　】	計　画　額
16　シャッター更新工事	[redacted]
中期経営計画　—	

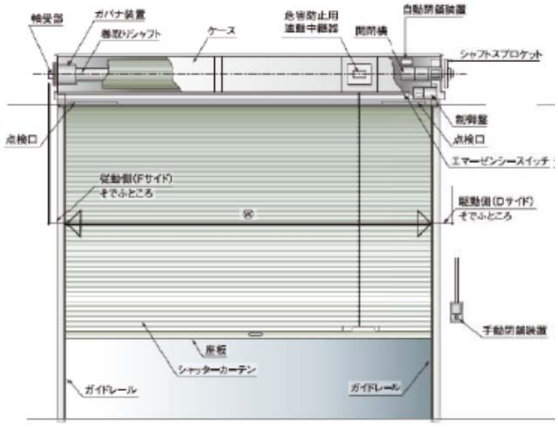
（1　事業目的・内容）

駅構内に設置してある防煙・防火シャッターは、「建築基準法」および「地下鉄道の火災対策基準」により設置が義務付けられており火災発生時には煙感知器、熱感知器に連動し自動降下することで延焼を防止する重要な設備です。これらのシャッターについて、毎年定期点検を実施していますが、経年劣化による不具合の発生箇所がありその都度、調整や応急処置を行っています。しかし現在では、開閉機（モーターを含む駆動に係る装置一式）について、部分補修や部品交換が不可能な箇所（構造部）に不具合が見られ開閉機一式の更新が必要となります。

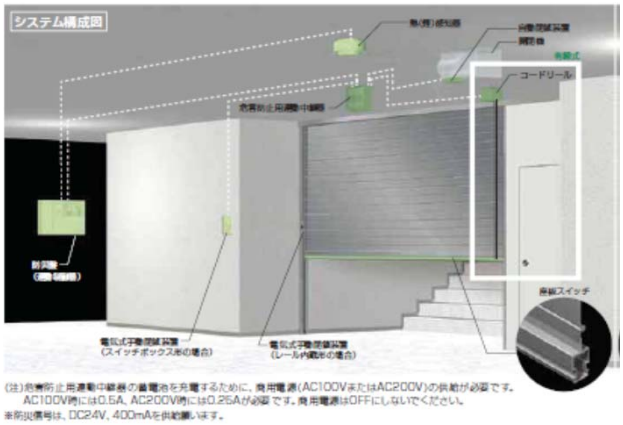
この不具合を放置した場合、火災発生時などにブレーキが解放せずシャッターが自動降下しない、または通常開いているシャッターがブレーキ故障で火災発生等に関係なく勝手に降下してしまうなど、重大な事故に繋がることから、これらの改善を目的とした開閉機の更新工事を行います。また、建築基準法施行令第112条第14項の改正により、更新の際には火災発生時のシャッター降下時の設備として避難時停止装置（自動閉鎖装置・危害防止用連動中継器・電気式手動閉鎖装置・コードリール・座板スイッチ）の設置が義務付けられましたので、合わせて新設を行います。

なお、28年度は桜木町駅の15か所について更新工事を行います。

[シャッター構成部材]



[避難時停止装置]



（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：建築課 担当者名：金久、吉田、森

【事　業　内　容】	計　画　額
17　トイレブース更新工事	[redacted]
中期経営計画　―	

（1　事業目的・内容）

トイレブース更新工事は、各駅のトイレに設置している便房について、腐食の進行や老朽化により、修理対応では調整が不可能となった箇所の更新を行うものです。

○ トイレブース更新概要

年度	該当駅	備考
20	蒔田駅 センター南駅	蒔田駅改良工事 センター南駅旅客トイレブース更新その他工事
21	新横浜駅（JR側）	上永谷駅ほか4か所建具更新その他工事
22	戸塚駅・あざみ野駅	戸塚駅ほか1駅旅客トイレ改良工事
23	上永谷駅	上永谷駅トイレブース更新工事その2
24	（無し）	
25	上大岡駅（第2）	上大岡駅第2トイレ改修工事（建築工事）
26	舞岡駅	舞岡駅ほか2施設建具更新工事（その2）
27	新羽駅（予定） センター北駅（予定）	平成27年度建具更新工事（仮称） センター北駅仮眠室改修工事
28	中川駅	中川駅トイレブース更新工事（仮称）

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：建築課 担当者名：金久、吉田、森

【事　業　内　容】	計　画　額
18　女性職員用施設整備工事（設計）	[redacted]

中期経営計画	―

（1　事業目的・内容）

ブルーラインの各駅においては、女性用職員用施設（手洗所、更衣室、シャワー室）等が未整備の状況であるため、女性職員用施設の整備が必要となっております。
平成28年度につきましては、中川駅において事務室系空調機更新工事の設計が予定されておりますので、併せて既存の水周りエリアに女性職員用施設を設置する改修の設計を行います。

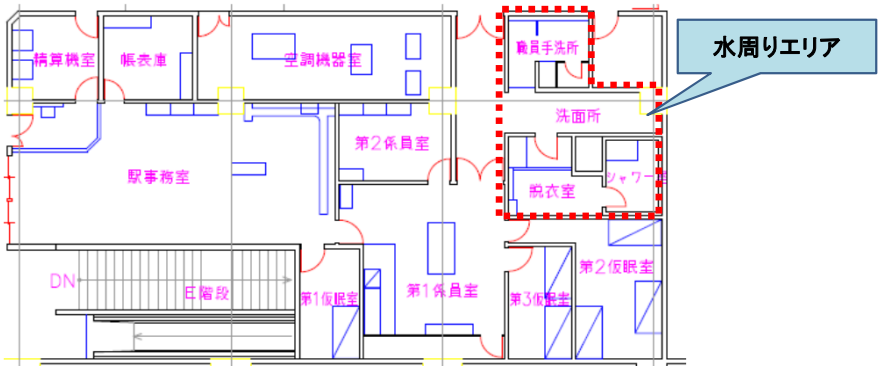
(1) 現況

		手洗所	更衣室	シャワー室	洗面所
中川駅	男性	あり	あり	あり（浴室）	あり
	女性	なし	なし	なし	

(2) 事業スケジュール

	H28年度	H29年度
設計	→	
工事		→
予算	[redacted]	

(3) 中川駅　仮眠室エリア



（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

☐ 有
■ 無

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段：繰越（外数）						0
事　業　費		[redacted]				
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：建築課 担当者名：金久、吉田、森

【事　業　内　容】	計　画　額
19　消費税率改定に伴う運賃表等改修	[redacted]
中期経営計画　—	

（1　事業目的・内容）

平成29年4月に予定されている消費税率改定により行われる市営地下鉄運賃の改訂に伴い、駅構内に設置されている運賃表を始めとした旅客案内サインについて、記載内容の変更が生じますので、新運賃制度に適した表示とするための改修を行います。

(1) 改修サイン
- 運賃表（運賃表、回数券、ICカード対応表）
- 乗車券のご案内/定期券のご案内
- 点字運賃表
- お客様サービスセンター内サイン（区界表、地下鉄定期券運賃表、地下鉄バス定期券運賃表等）

(2) 平成26年度改修状況

改修前

改修後

仮設中

（2　前年度から変更・見直しした点）

精算機にあった運賃表については平成26年度の改修時に運賃が入らない表示面に変更したため、精算機上のサインについては今回は改修不要となります。

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 建築課 担当者名: 金久、吉田、森

【事業内容】	計画額
20 関内駅改良工事	[redacted]

中期経営計画	お客様に向けて(15)地下鉄駅の大規模改良工事の実施

(1 事業目的・内容)

関内駅は、開業から約40年が経過し、躯体からの漏水の発生や、施設や設備機器が更新時期を迎えるなど、老朽化が進んでいます。

そのため、H27年度から改良工事に着手し、駅利用者へ快適な駅空間の提供を行うとともに、各種設備機器の更新も実施するものです。

工事費　　単位:千円

	H28	H29	H30	計
建築工事(躯体補修工事含む)	[redacted]			
空調設備工事				
衛生設備工事				
電気設備工事				
計				

(2 前年度から変更・見直しした点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

(4 除却資産の有無)

□ 有
■ 無

(5 年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総額
上段:繰越(外数)						0
事業費	985,000	[redacted]				
債務負担設定	1,442,000					

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 建築課 担当者名: 金久、吉田、森

【 事 業 内 容 】	鳥害発生箇所	屋根新設箇所	計 画 額
21 排水ポンプほか更新工事			[redacted]
中期経営計画	―		

（1 事業目的・内容）

駅には、給水用、汚水用、中水（トイレ洗浄）用、またトンネル勾配に合わせ設置する排水（湧水）用ポンプがあり、各ポンプは設置から20年～31年が経過し、ポンプ本体及び付属装置が老朽化しています。排水ポンプの突発的な故障は、湧水の排出ができなくなり列車の運行に支障を来す恐れがあり、また給水、汚水、中水ポンプの故障により、駅機能（主にトイレの使用不可）が低下するため、各ポンプが必要な機能を発揮できる状態に維持するため、ポンプ及び付属装置の更新を行います。

■ ポンプ更新計画

	H26年度設計・工事			H27年度設計・H28年度工事			H28年度設計・H29年度工事
排水ポンプ	上大岡			最戸橋	与七橋	通町	[redacted]
	３台（平成４年）			3台（H4）	2台（H5）	3台（H4）	
給水ポンプ	センター南			センター北			
	２台（平成４年）			２台（平成４年）			
汚水ポンプ	上大岡第2	桜木町	横浜	阪東橋、弘明寺			
	2台（H7）	2台（H5）	2台（H9）	４台（平成５年）			
中水ポンプ	戸塚　※加圧ポンプ			舞岡			
	２台（昭和61年）			２台（昭和57年）			
攪拌機	吉野町	上大岡第2	あざみ野	湘南台第1、舞岡、踊場			
	1台（H13）	1台（H17）	1台（H17）	３台（平成11年）			

※更新設計は、動力制御盤の更新設計を含み設計を行います。

（2 前年度から変更・見直しした点）

排水・汚水ポンプ更新に合わせて動力制御盤を更新する

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

（4 除却資産の有無）

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 建築課 担当者名: 金久、吉田、森

【事業内容】	計画額
22 信号機器室系空調機更新工事	[redacted]

中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

列車運行を担う信号機器室には、各信号機器の発生熱を回収し、室内環境を維持するため、専用の冷房装置を設置しています。踊場駅及び戸塚駅の機器室空調については、法定耐用年数の15年を超え設置から20年経過したもので、現在では故障率が増加傾向にあります。また、機能維持のための保守部品の製造中止で代替え部品での対応となり、機能が低下する場合もあることから冷房装置の不良による室温上昇につながる恐れを回避するため、空調設備の更新を行います。

■　空調機更新計画

	設置年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	備考
片倉町	昭和59年	□工事		[redacted]	水冷⇒空冷
踊場	平成10年	□設計	**■工事**	[redacted]	
戸塚	平成７年		**■設計**	[redacted]	
[redacted]					

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度 建設改良費 事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 建築課 担当者名: 金久、吉田、森

【事業内容】　計画額

23 浸水防止機更新工事

中期経営計画 お客様に向けて(2)災害対策② 雨・雪に強い地下鉄の実現

(1 事業目的・内容)

地下鉄一次開業の伊勢佐木長者町から上大岡間の換気口44か所には、水害時に地下鉄トンネルへの水の進入を防ぐための浸水防止機を設置しています。

浸水防止機は、止水板、浸水感知器、制御盤、監視操作盤で構成されており、通常は換気のために開いているが、当該駅の操作によりトンネル内への雨水等の浸入を阻止することも可能であり、また、洪水等で瞬間的に大量の水が流入した場合には、浸水感知器が検知し、一定量以上の流入時は自動で換気口を閉鎖します。この浸水防止機は地下鉄開業当初から設置されており、経年劣化により止水板に錆が広がり、修繕を続けていましたが、機能が低下しつつあるため、計画的に更新（８か所／年）を行い止水機能を維持します。

■ 浸水防止機

年度	25	26	27	28	29	30	備考
更新数	4	8	8	8	8	8	計44か所

(2 前年度から変更・見直しした点)

弘明寺駅電気室内変圧器更新工事追加

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

(4 除却資産の有無)

■ 有
□ 無

(5 年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総額
上段:繰越(外数)						0
事業費	43,389					
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 建築課 担当者名: 金久、吉田、森

【 事 業 内 容 】	計 画 額
24 エスカレーターのリニューアル	[redacted]

中期経営計画	お客様に向けて(16)地下鉄駅設備のリニューアル

(1 事業目的・内容)

お客様に安全かつ快適な設備をご利用いただき続けていくため、設置後長期間(30年)経過したブルーラインのエスカレーターを計画的に更新、リニューアルを実施します。

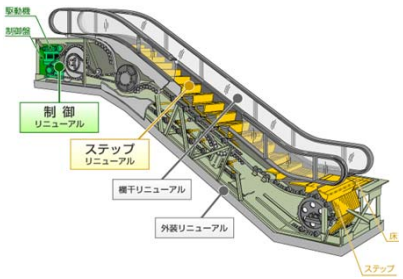
現在、ブルーラインには、稼働年数30年を超えるエスカレーターが13基あります。
(横浜駅2基、高島町駅6基、桜木町駅1基、関内駅4基)

今後、経年劣化により、機能低下さらに老朽化していく状況にあり、また機能維持に要する保守部品の確保も困難になることが予想されるため、各駅各機種に応じた設備機能の改善及びバリアフリー対応機能を付加したエスカレーターへのリニューアルを実施し、安全性や快適性・省エネ性を向上させます。

■ エスカレーターリニューアル計画

年度	27年度	28年度	29年度	備　考
工事施工			[redacted]	
	関内2基(馬)			※H28 完成払い
		関内2基(市)		

※平成27年度実施予定駅 :・関内3・4号機(昭和51年設置) ※ラチ内 馬車道側
・関内１・２号機 (昭和51年設置) ※ラチ内 市庁舎側



【エスカレーターリニューアル実施済の駅】
①平成22年　上大岡駅 1基
②平成25年　伊勢佐木長者町駅 2基
③平成26年　桜木町駅2基

(2 前年度から変更・見直しした点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

(4 除却資産の有無)

■ 有　関内駅ES:資産番号 1900-00586 (エスカレーター) 2基
□ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 建築課 担当者名: 金久、吉田、森

【事業内容】	計画額
25 事務室系空調機更新工事	[redacted]

中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

駅の事務室系の空調は、事務室・仮眠室・券売機室・電気諸室といった使用用途によってゾーンニングしており、各系統ごと駅の規模や特性に見合う空調方式にて冷暖房装置を設置しています。これまでの空調機更新は、年式の古いもの、また故障率の高いものを順次部分的に更新を行ってきたため、各所に法定耐用年数15年を超えた空調機が存在します。また設置から20年を経過した空調機は故障率が増加傾向にあります。

さらに平成14年以前に設置した空調機の大半は、冷媒に指定フロンR22が使用されています。指定フロンは、オゾン層の保護また地球温暖化防止対策を目的に2020年末で生産全廃の予定となっており、補充用冷媒の確保も困難な状況になるため、指定フロンから代替フロンへの機器更新が不可欠となります。これらのことから駅単位での空調機の計画的な更新を行います。

■　空調機更新計画

	設置年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
桜木町	平成２年	設計	工事	[redacted]
仲町台	平成４年	設計※1	工事	[redacted]
阪東橋	平成２年		設計※2	[redacted]
中川	平成４年		設計	[redacted]

※1　仲町台駅の設計費は「設7　地下鉄駅の冷房化（踊場、仲町台）」で予算計上
※2　阪東橋駅の設計費は「建8　阪東橋駅改良工事」で予算計上

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

（5　年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段:繰越(外数)						0
事　業　費	1,242	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度 建設改良費 事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 建築課 担当者名: 金久、吉田、森

【事業内容】	計画額
26 エレベーターのリニューアル	[redacted]

中期経営計画 お客様に向けて(16)地下鉄駅設備のリニューアル

(1 事業目的・内容)

お客様により安全・安心かつ快適な設備をご利用いただき続けていくため、改正されている建築基準法の適合化を含め、計画的にエレベーターの更新・リニューアルを行います。

①センター北駅 2基(BL) ※ラチ外及びラチ内EV
②関内駅 2基(BL)

■ エレベーターリニューアル計画

年度	27年度	28年度	29年度	備考
工事施工	横浜1基		[redacted]	
	設計 セ南2基		[redacted]	
	設計	センター北2基	[redacted]	
	駅改良工事設計	[redacted]	[redacted]	
		設計	[redacted]	

・センター北:平成5年3月 供用開始
・関内:平成4年11月 供用開始
・戸塚:昭和62年3月 供用開始

(2 前年度から変更・見直しした点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

(4 除却資産の有無)

■ 有 ・センター北駅EV:資産番号 1993-02308 (エレベーター) 1基 ・1993-02309 (エレベーター) 1基
□ 無 ・関内駅EV:資産番号 1993-00054・00055 (エレベーター) 2基 ※29年度完成予定

(5 年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総額
上段:繰越(外数)						0
事業費	128,938	[redacted]				
債務負担設定						

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 建築課 担当者名: 金久、吉田、森

【 事 業 内 容 】	計 画 額
27 地下鉄駅の冷房化(踊場、仲町台)	[redacted]

中期経営計画	お客様に向けて(17)地下鉄駅の冷房化

(1 事業目的・内容)

平成24年度に駅冷房化の基本構想を策定し、全駅の冷房化を目指し毎年2駅から4駅の冷房化工事を行っていくこととしており、地上駅を含め冷房の提供による駅施設の快適性の向上を計画的に実施します。平成24年度までは比較的お客様の多い主要駅について全館冷房方式を採用していましたが、中間駅では冷房付き待合所を設置する方針で進めてまいります。

実施駅としては踊場駅・仲町台駅でいずれも待合室的な室を形成する個室冷房方式とします。

□ 冷房化整備計画

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
実施設計			
工事施工	立場・片倉町・センター北	踊場・仲町台	

現在の冷房化実施駅:BL)あざみ野、センター北、センター南、新横浜、片倉町、横浜、桜木町、関内、上大岡、戸塚、立場、湘南台
GL)日吉、センター北、センター南、中山

冷房化率:35.0%(BL12駅、GL4駅)

(2 前年度から変更・見直しした点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

(4 除却資産の有無)

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 建築課 担当者名: 金久、吉田、森

【事業内容】	計画額
28 地下鉄駅の冷房化(三ツ沢下町、三ツ沢上町、新羽、川和町)	[redacted]

中期経営計画 お客様に向けて(17)地下鉄駅の冷房化

(1 事業目的・内容)

平成24年度に駅冷房化の基本構想を策定し、全駅の冷房化を目指し毎年2駅から4駅の冷房化工事を行っていくこととしており、地上駅を含め冷房の提供による駅施設の快適性の向上を計画的に実施します。平成24年度までは比較的お客様の多い主要駅について全館冷房方式を採用していましたが、中間駅では冷房付き待合所を設置する方針で進めてまいります。

平成28年度夏季に供用開始予定の踊場駅、仲町台駅に続き、三ツ沢下町駅、三ツ沢上町駅、新羽駅及び川和町駅の冷房化を行います。

□ 冷房化整備計画

	平成26年度	平成27年度	**平成28年度**	平成29年度
実施設計				
工事施工	立場・片倉町 センター北	踊場・仲町台	三ツ沢下町 三ツ沢上町 新羽・川和町	

現在の冷房化実施駅:BL)あざみ野、センター北、センター南、新横浜、片倉町、横浜、桜木町、関内、上大岡、戸塚、立場、湘南台
GL)日吉、センター北、センター南、中山

冷房化率:35%(BL12駅、GL4駅)

(2 前年度から変更・見直しした点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

(4 除却資産の有無)

□ 有
■ 無

(5 年次表)

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総額
上段:繰越(外数)						0
事業費		[redacted]				
債務負担設定						

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 建築課 担当者名: 金久、吉田、森

【事業内容】	計画額
29 給湯設備更新工事	[redacted]

中期経営計画　－

（1 事業目的・内容）

あざみ野線駅舎の職員用浴室には、給湯用電気温水器が平成5年3月設置されており、製造業者での修理部品供給が製造中止の状態です。センター南駅、仲町台駅の電気温水器の劣化が非常に著しい状態で、故障が発生すれば修理不能な状況です。
よって、順次更新工事を行います。

	H28更新	H29更新	H30更新
電気温水器	センター南駅、仲町台駅	[redacted]	

※ あざみ野駅は仮眠室改修工事にて更新予定

（2 前年度から変更・見直しした点）

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

（4 除却資産の有無）

☐ 有
■ 無

（5 年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総額
上段:繰越(外数)						0
事業費		[redacted]				
債務負担設定						0

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 建築課 担当者名: 金久、吉田、森

【事業内容】	計画額
30 ずい道換気送風機更新工事	[redacted]

中期経営計画	―

（1 事業目的・内容）

ずい道換気送風機は、ずい道内に滞留する列車排熱や粉じん等の除去及び地下空間の環境維持、また列車火災の発生時には排煙として屋外に煙を排出するための設備であります。

本工事の対象機器は、昭和50年代に設置されたものであり、羽根車やケーシング・モーター等にサビが発生するなど、劣化が進行している状況であります。点検状況においてもモーターの絶縁抵抗値が低下傾向にあり、また、軸受け等消耗部品の破損が発生すると重複故障を導く可能性が高く、ずい道排煙としての運転ができなくなる可能性があるため、ずい道換気送風機の更新工事を行います。

■更新計画

	28年度	29年度	30年度	備考
吉田町中間	■設計	[redacted]	[redacted]	
[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	
[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	
[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	
[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	新横浜駅改良工事にて実施予定

（2 前年度から変更・見直しした点）

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

（4 除却資産の有無）

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 建築課 担当者名: 金久、吉田、森

【事業内容】	計画額
31 エアフィルター更新工事	[redacted]

中期経営計画　－

（1 事業目的・内容）

各駅には、駅構内に外気を取り入れる際に不純物を取り除き、良好な構内環境を維持するためのエアフィルター設備が設置されております。当設備は設置されてから長期間が経過しており、各所で経年劣化による故障が多発しております。現在は部分的な修理を行い対応している状況ですが、機能が低下しつつあり、駅構内の環境を良好に維持できなくなる可能性があるため、計画的にエアフィルター設備を更新し、良好な構内環境を維持します。

■更新計画

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
上大岡・三ツ沢上町・片倉町(7)	■設計・工事	[redacted]	
[redacted]			

（2 前年度から変更・見直しした点）

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

（4 除却資産の有無）

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 建築課 担当者名: 金久、吉田、森

【 事　業　内　容 】	計　画　額
32 動力監視盤改修工事	[redacted]

中期経営計画	―

（1 事業目的・内容）

駅には、ポンプ・空調機器・昇降設備機器等の重要機器の状態を監視・発停制御及び設定を行う動力監視盤が設置されています。現在,の動力監視盤には、各開業当初から設置されている盤もあり、経年劣化による故障が多発しております。また、特にあざみ野駅～北新横浜間設置の盤の経年劣化が著しくなっており、故障部品が製造中止になるなど、復旧に遅れが生じ、監視機能を維持できなくなる可能性があります。このため、動力監視盤の機能・監視項目検討を含め計画的に盤更新を行っていきます。

■更新計画

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	備考
関内	□工事	[redacted]	[redacted]	関内改良工事にて実施
中川・ｾﾝﾀｰ北	■設計			
[redacted]				

（2 前年度から変更・見直しした点）

（3 根拠法令・規程、現場の意見等）

（4 除却資産の有無）

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出 項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：建築課 担当者名：金久、吉田、森

【事　業　内　容】　　計　画　額

33　新羽車両基地検車庫気吹き装置設置工事（設計委託）　[redacted]

中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

新羽車両基地では、地下鉄車両の定期検査及び臨時検査作業を行っていますが、現状、車両台車等を気吹いた際に発生する塵埃を集塵する設備がなく、周囲に拡散させている状態です。
この状態を放置し、作業を継続した場合、検査業務を行う職員の健康を害するため、集塵装置を設置することで、作業環境の改善を行います。

年度	28年度	29年度	備　考
実施設計	実施設計	[redacted]	
[redacted]			

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

【事　業　内　容】　　計　画　額

34　桜木町駅排煙制御盤その他改修工事　[redacted]

中期経営計画　－

（1　事業目的・内容）

桜木町駅の排煙制御盤は、火災発生時駅構内に設置されている排煙機・防煙・排煙ダンパー・排煙口を制御しており作動時には駅防災管理室の移報信号を送信し、作動した旨を伝えます。
本機器排煙制御盤は、1976年に生産終了になっており製造業者では補修用部品の補修期間10年を過ぎているため、故障時に修理対応が出来ない状況が想定されます。よって、お客様の安全を第一に考え駅舎の防災設備の機能を万全にするため更新工事を行います。

（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

（4　除却資産の有無）

□ 有
■ 無

様　式　2

平成28年度　建設改良費　事業計画書

予　算　科　目	担　　当
款：12　高速鉄道事業資本的支出　項：01　建設改良費 目：05　改良費	所属：建設改良課 担当者名：梅田

（単位：千円）

	28年度　A	27年度　B	増減(A−B)
予　算　額	414,000	101,090	312,910

（単位：千円）

【事業内容】	計画額
1　ブルーライン新横浜駅と相鉄・東急直通線との交差・接続に伴う費用負担工事	414,000

中期経営計画　お客様に向けて(15)地下鉄駅の大規模改良工事の実施

（1　事業目的・内容）

横浜市西部・神奈川県央部と東京都心部とを直結する相鉄・東急直通線は、その整備を独立行政法人鉄道建設・運輸支援機構が行うこととなっております。

相鉄・東急直通線は市営地下鉄ブルーライン新横浜駅付近において交差する計画となっており、交差する範囲の設計及び工事は横浜市交通局が鉄道・運輸機構から受託するとともに、接続に伴う当局施設の改修等については鉄道・運輸機構の費用負担により工事を実施していくことで基本的に同意しています。

平成28年度は、昨年度から継続し、相鉄・東急直通線との接続にあたり交差部に支障する換気機械室の移設工事を実施するとともに、駅改良のための設計業務を行います。

全体スケジュール

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
■土木							▲開業
設計	換気室設計			改良設計			
工事			換気機械室工事				
	第5出入口工事				第5出入口工事		
						駅改良工事	
■駅施設							
設計		基本・実施設計		補正設計			
工事					駅改良工事		

内訳

（1）換気機械室の移設工事

・28年度工事内容…道路付属物処置、埋設物処置、土留工　　・・380,000千円

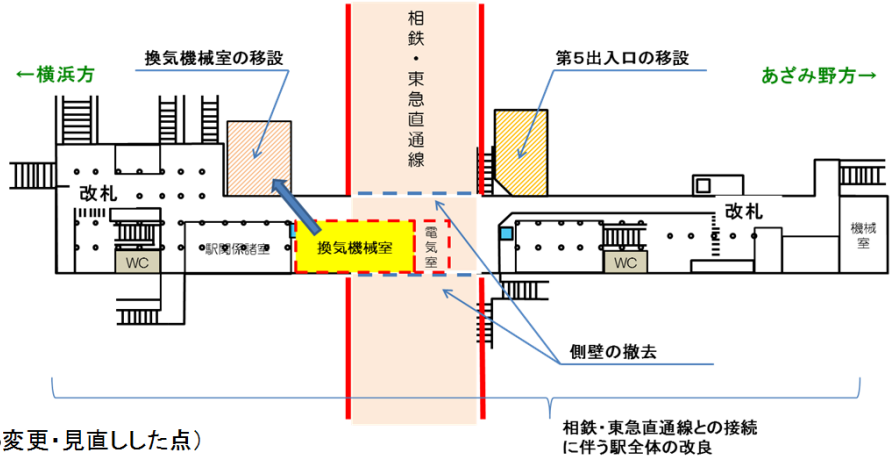
（2）設計

・新横浜改良土木工事設計（土木）　　・・[redacted]千円

・新横浜改良工事補正設計（建築）　　・・[redacted]千円

（3）委託

・電気施設移設費　　・・[redacted]千円



（2　前年度から変更・見直しした点）

（3　根拠法令・規程、現場の意見等）

ブルーライン新横浜駅と相鉄・東急直通線との交差・接続に伴う鉄道・運輸機構との基本協定

横浜市高速鉄道3号線新横浜駅と相鉄・東急直通線新横浜駅（仮称）との交差及び接続に伴う工事の施行に関する協定

様　式　2

平成28年度 建設改良費 事業計画書

予 算 科 目	担　　当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 建設改良課 担当者名: 梅田

（4 除却資産の有無）

□ 有
■ 無

（5 年次表）

	27年度予算	28年度予算	29年度予定	30年度予定	31年度以降	総　額
上段:繰越(外数)						0
事　業　費	101,090	414,000				
債務負担設定	652,410					652,410

27年度債務負担設定（～29年度）　652,410 千円

様 式 H

平成28年度 総係費 事業計画書

予算科目	担当
款: 12 高速鉄道事業資本的支出 項: 01 建設改良費 目: 05 改良費	所属: 技術管理部、工務部各課 担当者名: 総務部 経営企画課

（単位:千円）

	28年度 A	27年度 B	増 減 A － B
予算額	179,071	244,124	−65,053

ー	ﾌﾞﾙｰﾗｲﾝ
ー	ｸﾞﾘｰﾝﾗｲﾝ
ー	共通

【積算内容】

（1 科目別積算内容）

項目名	積算額	内訳
修繕費	160	什器修理
備消品費	2,697	事務用品、現場作業用備品、書籍等
被服費	5,643	新規採用者、転入・異動車等への制服貸与
光熱水費	166	新横浜工事事務所光熱水費
旅費	7,769	市内外出張旅費、検査出張、地下鉄技術協議会出張旅費
通信運搬費	273	新横浜工事事務所電話代、切手代、資料送付費
印刷製本費	987	図面印刷、複写製本、パンフレット印刷製本
負担金	6,786	協議会・協会年会費、土木積算システム負担金等
会議費	56	リニア幹事会、ST線検討会議
委託料	5,951	特別調査、測定機器校正、新横浜工事事務所清掃等委託料
手数料	4,556	鉄道設計技師試験料、各種技能講習、ゼロ災研修等
賃借料	4,693	営繕積算システム利用料、会議室利用料、新横浜工事事務所賃料
諸謝金	60	学識経験者意見聴取諸謝金、ST線検討会議謝金
保険料	24	新横浜工事事務所保険料
雑費	139,250	タクシー借上げ代、沿道補償費
合計	179,071	

（2 編成するにあたっての考え方）

（3 新規項目・主要事業等）